

近畿大学 薬学部 活動報告集 (令和6年度)

Activity Reports of Faculty of Pharmacy,
Kindai University
No.18, 2024

近畿大学 薬学部

Faculty of Pharmacy, Kindai University

令和 7 年 9 月

近畿大学薬学部活動報告書 令和 6 年度版 発刊に寄せて

薬学部長 川崎直人

近畿大学薬学部は、近畿大学の建学の精神である「実学教育と人格の陶冶」に則り、未来志向の教育を展開しております。6 年制の医療薬学科では、「薬に関する高度な知識と臨床技能を有し、優れたコミュニケーション能力と問題解決能力を備えた薬剤師の養成」を、4 年制の創薬科学科では、「医薬品の創製・開発・適用などの分野において人類の健康と福祉に貢献する創造性豊かな薬学研究者・技術者の育成」を教育目標として掲げています。

この目標の実現に向けて、医療・薬学を取り巻く社会的要請や環境の変化を踏まえ、教育内容・方法の継続的な見直しを進めております。医療薬学科では新しい薬学教育モデル・コア・カリキュラムに対応した新カリキュラムを導入して、令和 6 年 4 月以降の入学生から薬学実践実習(アドバンスト実習)を導入し、トライアルを開始しているところです。また、創薬科学科では臨床検査技師の資格取得のためのカリキュラムや外国語教育、キャリア教育などを充実したカリキュラムとして、今後も幅広い教養と専門性、柔軟な思考力と高い倫理観を備えた人材の育成を継続してまいります。

また、建学の精神に基づく「実学教育」の実践として、研究活動によって得られた成果を積極的に社会へ発信し、実用化による社会貢献にも取り組んでおります。薬学を取り巻く環境が急速に変化する中で、今後も時代の要請に的確に応えるべく、教育・研究体制のさらなる充実に努めてまいります。

本報告書は、近畿大学薬学部の令和 6 年度の教育・研究活動の成果をとりまとめたものです。ご高覧のうえ、忌憚のないご意見・ご助言を賜れますと幸いです。

今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

目次

令和6年度 近畿大学薬学部行事一覧	1
Topics	
1. 教員の受賞など	2
2. 学会等における学生の受賞	4
3. 研究成果	7
4. 産学連携	11
5. メディア	16
6. 就職・進路状況	17
7. その他	19
研究室・部門・研究所 報告	25
医療薬学科	
化学療法学研究室	26
公衆衛生学研究室	31
生化学研究室	36
製剤学研究室	39
病態分子解析学研究室	46
病態薬理学研究室	48
薬物治療学研究室	52
薬物動態学研究室	57
有機薬化学研究室	61
臨床薬学部門	
社会薬学分野	65
医療薬剤学分野	69
医薬品情報学分野	73
教育専門部門	76
創薬科学科	
医薬品化学研究室	80
創薬分子設計学研究室	83
分子細胞生物学研究室	86
薬品分析学研究室	89
薬用資源学研究室	91
薬学総合研究所	
機能性植物工学研究室	95
食品薬学研究室	97
先端バイオ医薬研究室	107
教養・基礎教育部門	112

令和6年度 近畿大学薬学部行事一覧

4/1	オリエンテーション (～4/2)
4/4	新入生 琵琶湖研修 (～4/5)
4/8	薬学部 履修ガイダンス(～4/9)
4/8	大学院 履修ガイダンス
4/8	前期授業開始
7/6	医療薬学科 卒論発表会 (～4/13)
7/7	大学院 学内推薦入試
7/29	前期定期試験 (～8/6)
8/2	研究室配属説明 紹介動画視聴期間 (～9/6)
8/5	CBT体験受験
9/11	卒業式 (9月卒業生対象)
9/12	後期授業開始
9/14	大学院入試 (学内選考・一般選考)
10/12	前期留学生試験
11/16	薬学部 推薦入試 (～11/17)
12/7	OSCE試験
12/23	CBT本試験
令和7年 1/25	一般前期 (A日程) 入試 (～1/26)
1/27	後期定期試験 (～2/4)
2/6	創薬科学科 卒論発表会
2/7	大学院 修士論文発表会
2/8	博士論文公聴会
2/11	一般前期 (B日程) 入試 (～2/14)
2/15	後期留学生入試
2/15	大学院入試 (一般選考)
2/19	第71回 臨床検査技師国家試験
2/22	第110回 薬剤師国家試験 (～2/23)
3/1	大学院 臨床薬学シンポジウム
3/8	一般後期入試 (～3/9)
3/19	大学院 学位授与式 (3月期)
3/22	卒業式

TOPICS

1. 教員の受賞など

1-1. 「世界で最も影響力のある研究者トップ2%」に本学研究者がランクイン

スタンフォード大学とエルゼビア社が2024.9.17に更新・発表した世界のトップ2%の科学者を特定する包括的なリスト「標準化された引用指標に基づく科学者データベース（更新版）」に、本学から「生涯」（career-long）の区分に2名、「単年」（single recent year）の区分に4名がランクインしました。

このリストは、影響力の大きい科学論文を執筆した世界中の科学者を対象として作成されたものです。文献データベース（Scopus）に基づき、総被引用回数（自己引用を除く）、h-index、単著論文数、個別引用論文数、共著調整指数、総被引用回数と個別引用論文数の比率などによって研究者の論文への貢献度を重視した標準化された情報を算出し、ランキングがされています。様々な複合指標を基にした多角的な解析がされているため、世界で最も影響力のある科学者のランキングの一つとされています。

career-long（生涯）の区分

川畑 篤史（薬学部 医療薬学科/薬学研究科/薬学総合研究所 教授）

森川 敏生（薬学総合研究所 教授/アンチエイジングセンター長）

※公表データ順

single recent year（単年）の区分

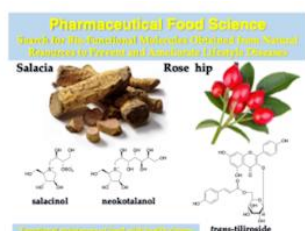
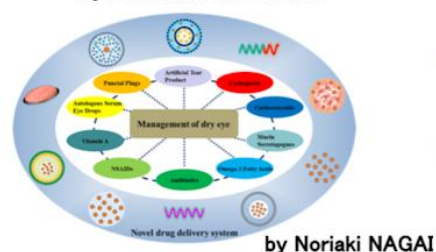
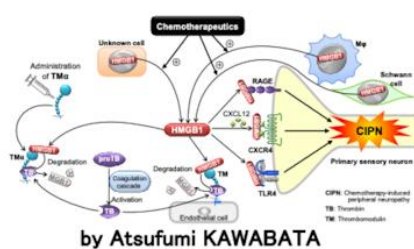
川畑 篤史（薬学部 医療薬学科/薬学研究科/薬学総合研究所 教授）

森川 敏生（薬学総合研究所 教授/アンチエイジングセンター長）

長井 紀章（薬学部 医療薬学科/薬学研究科 教授）

緒方 文彦（薬学部 医療薬学科/薬学研究科 准教授）

※公表データ順



Science-wide author databases of standardized citation indicators:
Top 2% authors (Faculty of Pharmacy and Pharmaceutical Research and Technology Institute)

1-2. 薬学総合研究所 食品薬学研究室の萬瀬貴昭講師が第 49 回日本香粧品学会（2024.6.28～29 開催）において、「会頭賞」を受賞

会頭賞 R03

ブラジル天然資源 Andiroba 由来リモノイド成分のメラニン産生抑制作用およびその作用機序の解析



2. 学会等における学生の受賞

2-1. 病態薬理学研究室の学生が、第 144 回日本薬理学会近畿部会（2024.3.20 開催）において、「優秀発表賞」を受賞

迫 桃子（医療薬学科 5 年 病態薬理学研究室）

演題：抗がん剤 vincristine 誘起末梢神経障害の発現におけるマクロファージおよび Schwann 細胞由来 HMGB1 と局所血液凝固系の相反する役割

2-2. 本学の学生が、日本薬学会第 144 年会（2024.3.28～31 開催）において、「学生優秀発表賞」を受賞

<口頭発表>

酒井 貴之（創薬科学科 4 年 化学療法学研究室）

演題：アトピー性皮膚炎におけるケモカイン CCL28 の役割

<ポスター発表>

水野 友理（医療薬学科 5 年 公衆衛生学研究室）

演題：人工腸液条件下におけるジルコニウムシクロケイ酸ナトリウム水和物への併用薬剤の吸着挙動

西川 勝悟（創薬科学科 4 年 食品薬学研究室）

演題：生薬クジン（苦参, SOPHORAE RADIX）由来プレニルフラボノイドの抗アレルギー活性

2-3. 製剤学研究室の学生が、第 63 回日本白内障学会総会・第 50 回水晶体研究会（2024.8.23～24 開催）において、「優秀演題賞」を受賞

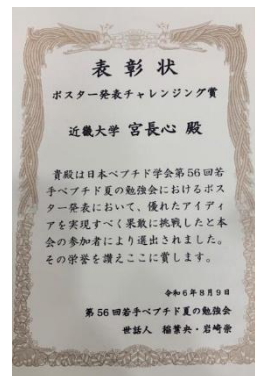
門脇 玲太（薬学研究科薬科学専攻 2 年 製剤学研究室）

演題：水晶体温度上昇による白内障進行要因の解明を目指して：ヒト由来細胞 iHLEC-NY2 のプロテオミクス解析

2-4. 有機薬化学研究室の学生が第 56 回若手ペプチド夏の勉強会（2024.8.9 開催）において、「ポスター発表チャレンジング賞」を受賞

宮長 心（医療薬学科 5 年 有機薬化学研究室）

演題：細菌プロテアーゼ ClpP の人為的制御による標的タンパク質の特異的分解



2-5. 製剤学研究室の大学院生が第 3 回眼科創薬研究会（2024.9.5 開催）において、「会長特別賞」を受賞

門脇玲太（博士課程 2 年 製剤学研究室）

演題：効力持続性の向上を目指したトラニラスト封入カチオン型コンタクトレンズの設計

2-6. 生化学研究室の大学院生が「日本学術振興会特別研究員 DC1」に採択

宮尾真衣（博士課程 1 年 生化学研究室）

区分：分子生物学

研究課題名：miRNA の翻訳抑制機構を探針としたトランス因子による普遍的抑制機構の解明

2-7. 本学の学生 7 名が第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会（2024.10.5 開催）において、「優秀賞」を受賞

【優秀口頭発表賞】

西川勝悟（薬学研究科薬科学専攻 1 年 食品薬学研究室）

演題：レンギョウ（*Forsythia suspensa* Vahl、果実）の β -グルクロニダーゼ阻害活性成分

薮内優介（創薬科学科 4 年 薬物動態学研究室）

演題：プロスタグランジンの肝内動態における有機アニオントランスポーターOATP2A1 の役割

大東麻哉（医療薬学科 5 年 病態薬理学研究室）

演題：高脂肪食摂取 2 型糖尿病マウスにおける有痛性末梢神経障害への血小板由来 HMGB1 の関与 一好中球・血小板複合体形成の意義について

【優秀ポスター発表】

川上真奈（創薬科学科 4 年 医薬品化学研究室）

演題：アルカリ金属類と環状ポリエーテルを用いた分子内ヒドロアミド化反応の開発

鈴木璃子（医療薬学科 5 年 有機薬化学研究室）

演題：HFDP 細胞増殖活性を有するエビネ由来天然物、Calanthoside の全合成とその構造活性相関研究

岡本 歩（医療薬学科 4 年 化学療法学研究室）

演題：構造安定化ケモカイン XCL1 によるメモリーCD8+T 細胞サブセットの選択的誘導とその機序

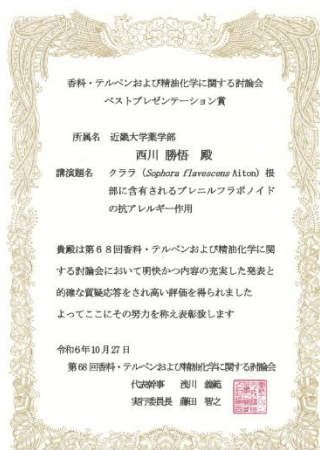
橋本 采奈（医療薬学科 4 年 化学療法学研究室）

演題：アトピー性皮膚炎におけるケモカイン CCL28 を介した免疫細胞の病変皮膚浸潤

2-8. 薬学総合研究所 食品薬学研究室の学生が第 68 回香料・テルペンおよび精油化学に関する 討論会（2024.10.26～28 開催）において、「ベストプレゼンテーション賞」を受賞

西川勝悟（博士前期課程 1 年 薬学総合研究所 食品薬学研究室）

演題：クララ（*Sophora flavescens* Aiton）根部に含有されるプレニルフラボノイドの抗アレルギー作用



2-9. 本学の学生 2 名が第 146 回日本薬理学会近畿部会（2024.11.30 開催）において、「優秀発表賞」を受賞

急式杏樹（創薬科学科 4 年 化学療法学研究室）

演題：喘息様症状におけるケモカイン CCL28 を介した Th2 細胞浸潤の役割

三井鈴華（創薬科学科 4 年 病態薬理学研究室）

演題：HMGB1 は線維筋痛症の発症・維持に関与する

2-10. 化学療法学研究室の学生が APPW2025 において、「発表賞」を受賞

急式杏樹（創薬科学科 4 年 化学療法学研究室）

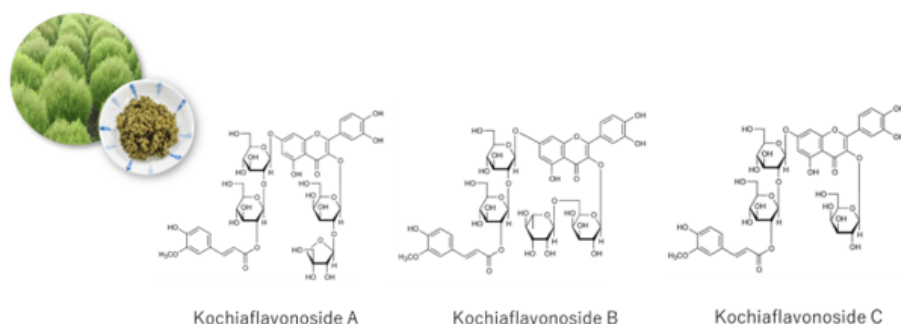
演題：Chemokine CCL28 deficiency attenuates airway inflammation in an ovalbumin-induced mouse asthma model

賞名：Undergraduate Poster Award

3. 研究成果

3-1. マウンテンキャビアエキスに含まれる「アシル化フラボノイド配糖体」世界で初めてその化学構造を明らかにし、共同で特許を出願（2024.4.19-News Release）

薬学総合研究所教授／アンチエイジングセンター長 森川敏生を中心とする研究チームと、機能性原料メーカーのオリザ油化株式会社は、日本では「トングリ」として親しまれ、見た目や食感が魚卵のキャビアに似ていることから英名では「マウンテンキャビア」、和名の別名として「畑のキャビア」と呼ばれている植物マウンテンキャビアのエキスから、新規成分である「アシル化フラボノイド配糖体」 「Kochiaflavonoside(コキアフラボノサイド)A,B,C」を発見し、共同研究によってその化学構造を世界で初めて明らかにしました。また、その新規成分が、血糖値低下を阻害する酵素 DPP4 の働きを抑制することを発見し、共同で特許を出願しました。

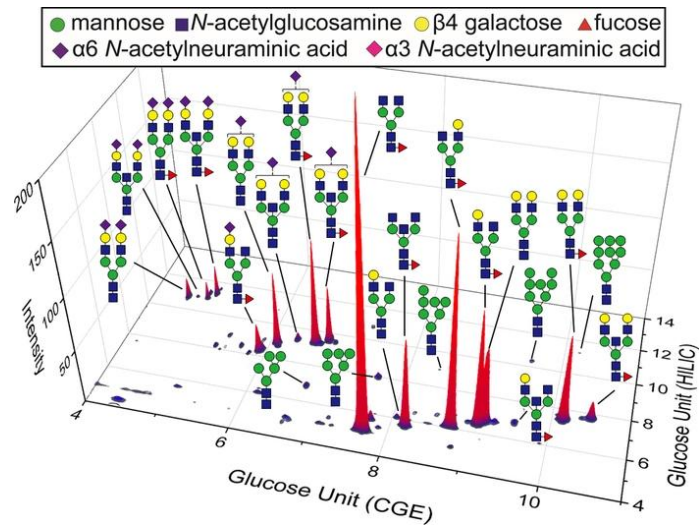


3-2. 高感度かつ網羅的な糖鎖解析技術を開発 ～がんの早期診断などへの応用が期待～（2024.8.7-News Release）

タンパク質のアスパラギン残基に結合する「N 結合糖鎖」は重要な翻訳後修飾の一つであり、いわば細胞の「顔」として機能しています。例えば、血液型も細胞表面の糖鎖構造によって決まっています。この糖鎖の種類や量は細胞の状態によって大きく変化するため、診断や治療の標的分子としての利用が期待されています。しかし、早期のがんなどでは細胞数が少ないため、限られた試料に含まれる糖鎖を高感度かつ網羅的に検出する技術が必要です。

そこで九州大学大学院理学研究院の川井隆之准教授、松森信明教授、鳥飼浩平助教、劉晨晨助教、三木太陽大学院生と薬学部の山本佐知雄准教授、木下充弘教授らの共同研究グループは、LC と CE という 2 つの分析法を組み合わせ、欠点を補い合った二次元糖鎖分離法を開発しました。この方法により、今までメジャーな糖鎖の影に隠れて検出できなかったマイナーな微量糖鎖を分離して検出できるようになりました。検出下限は 12pM (pM=10⁻¹²mol/L) であり、これは角砂糖 1 個半（約 5 グラム）を東京ドーム一杯の水（1240 万立方メートル）に溶かしてもまだ検出できるレベルの感度です。この方法により、限られた数の細胞からでもマイナーな糖鎖を含む詳細な糖鎖プロファイルを取得できるようになりました。今後、がんの早期診断や治療に向けたバイオマーカー探索などへ広く応用されていくことが期待されます。

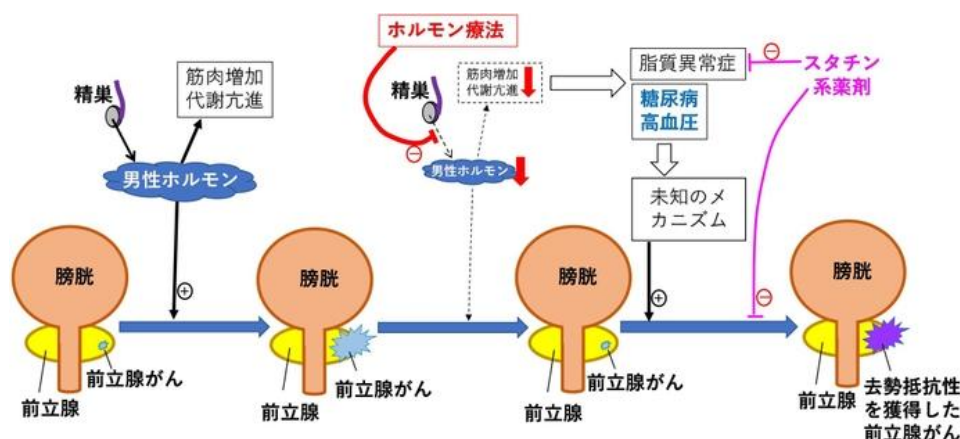
本研究成果は、オランダの国際科学誌「Analytica Chimica Acta」に 2024.8.7 に掲載されます。
また本研究は AMED-PRIME 等の助成を受けたものです。



3-3. 前立腺がんの予後を左右する因子の同定に成功 ホルモン療法の抗がん作用長期化への応用にも期待 (2024.10.23-News Release)

医療薬学科病態薬理学研究室教授 川畑篤史、近畿大学奈良病院薬剤部 林友典、同 平田敦士、兵庫医科大学薬学部助教 宮本朋佳、関西医科大学附属病院薬剤部 岩根詩織、同 打谷和記、関西医科大学腎泌尿器外科学講座主任教授 木下秀文、社会医療法人生長会府中病院薬剤部 小泉祐一、同 富士谷昌典の研究グループは、近畿大学奈良病院、関西医科大学附属病院、生長会府中病院において前立腺がんの診断を受け遠隔転移のない患者のうち、治療効果の高いホルモン療法を受けた人の診療データを抽出し、ホルモン療法の効果に影響を与える因子を解析しました。その結果、ホルモン療法開始後に糖尿病または高血圧症を発症した患者では、ホルモン療法が効かなくなり前立腺がんが再発しやすくなること、また、前立腺がん発症前から脂質異常症の治療薬を服用していた患者では、長期にわたってホルモン療法の有効性が持続し、前立腺がんが再発しにくくなることを見出しました。本研究成果は、ホルモン療法を受けている前立腺がん患者において、再発をいち早く予測するための手がかりとなるとともに、ホルモン療法の作用を長期化させる新たな戦略構築に貢献すると期待されます。

本件に関する論文が、2024.10 に、分野横断的な国際学術雑誌"Scientific Reports"にオンライン掲載されました。



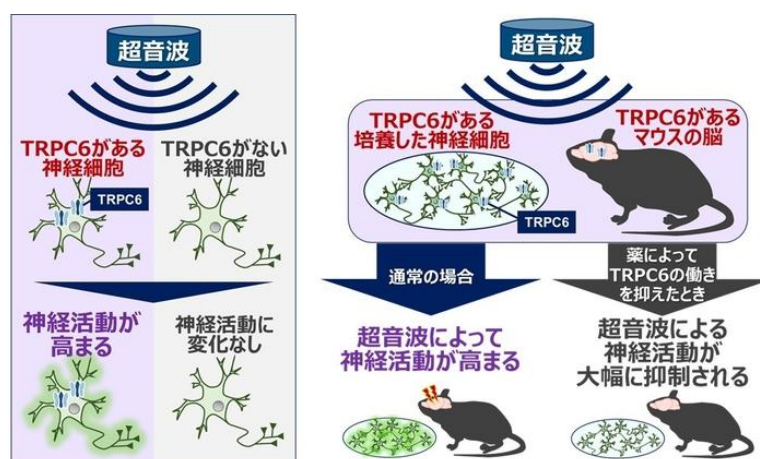
3-4. 超音波刺激で脳活動を高めるのに不可欠な脳内センサーを同定 ～認知症やうつ病など精神・神経疾患の新たな治療法への応用に期待～ (2024.12.4-News Release)

量子科学技術研究開発機構量子医科学研究所 脳機能イメージング研究センターの下條雅文研究統括、松下有美研究員らは、医療薬学科 竹内雄一教授らとの共同研究で、超音波刺激によって引き起こされる脳神経活動の高まりに TRPC6 と呼ばれるセンサー分子が必要不可欠であることを明らかにしました。

近年、エコー検査などの画像診断技術に利用されている超音波で脳や手足の神経組織を刺激すると、その活動を調整できることがわかってきました。これに伴い、脳神経の活動に不調を生じる神経変性・精神疾患を超音波照射によって治療する方法が注目されていますが、どのような分子メカニズムが基盤となって脳神経の活動が誘導されているかは明らかではありませんでした。

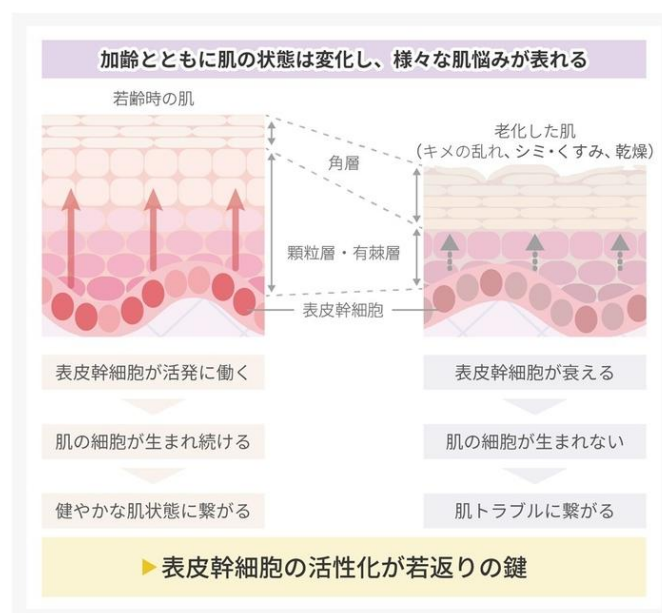
そこで我々は、超音波照射と同時に脳神経の活動レベルを計測できる実験システムを独自に構築し、超音波によって脳神経の活動が誘導される現象をリアルタイムに捉えることに成功しました。この実験システムを利用して、物理的な機械刺激(圧力)に対して反応する「TRPC6(1)」というセンサー分子が、超音波による神経活動の高まりに必須な分子であることを世界で初めて明らかにしました。本研究の成果は、超音波を利用した神経活動制御の分子メカニズム理解の進展だけでなく、TRPC6 をターゲットとして効率よく超音波を脳に照射することによって、アルツハイマー病やパーキンソン病などの神経変性疾患、うつ病や統合失調症などで低下した脳神経の活動を正常状態に回復させる新たな治療法としての応用が期待されます。

本研究は、科学の全領域分野においてインパクトの大きい論文が数多く掲載されている米国科学アカデミー発行の機関誌「Proceedings of the National Academy of Sciences (PNAS)」に2024年12月3日にオンライン掲載されました。



3-5. ローヤルゼリーが肌の再生や老化抑制に関わる表皮幹細胞を活性化し、ターンオーバーを促進することで肌の若返りを促す可能性 ローヤルゼリーの肌に対する有用性メカニズムの一部を解明 (2025.2.5-News Release)

株式会社山田養蜂場の自社研究機関である、山田養蜂場グループ 美容科学研究所は、薬学総合研究所 森山博由 准教授の研究グループとの共同研究において、ローヤルゼリーが表皮幹細胞を活性化し、肌の再生や老化抑制に貢献する可能性を明らかにしました。本成果は、科学雑誌『Biological and Pharmaceutical Bulletin』に掲載されました (2024 年 12 月)。



4. 産学連携、イベントなど

4-1. 「近の鶏卵」の親鶏を育てた「脱気水」を商品化 脱酸素ウォーター「Reduce（リデュース）」を発売！（2024.4.12-News Release）

医療薬学科病態分子解析学研究室教授 多賀 淳と地元企業で脱気水装置の製造・販売を行う有限会社マシン・メンテナンス・サービスが共同開発した卵「近の鶏卵」の親鶏の飼育に使用した脱気水を商品化し、脱酸素ウォーター「Reduce（リデュース）」として、販売を開始しました。



4-2. 近畿大学生物理工学部の学生が食育イベントを開催 ランチョンセミナーと料理教室で農学部教員による栄養指導を行う（2024.5.7-News Release）

農学部食品栄養学科准教授で管理栄養士の木戸慎介から栄養指導をうけ、「近大アンチエイジング弁当」を食べるランチョンセミナーを実施しました。この弁当は、近畿大学アンチエイジングセンター主導のもと農学部食品栄養学科の学生が考案したメニューを基に、薬学総合研究所教授 角谷晃司が栽培しているサフランや生物理工学部生物工学科准教授 堀端章が栽培している古代米、近畿大学附属湯浅農場の米などの食材を使用した本学オリジナルの弁当です。弁当の包み紙は文芸学部芸術学科の学生がデザインしています。

4-3. 薬用植物園で講演会と見学会を開催 地域の方々に薬用植物や生薬・漢方について学ぶ機会を提供（2024.5.17-News Release）

薬用植物園は、2024.5.24, 5.28, 6.8 に、地域住民の方々や市民活動団体を対象として、薬用植物や生薬・漢方について学ぶイベントを開催しました。



4-4. 近畿大学アンチエイジングセンター 第33回市民公開講座 オリンピック出場者らが直接指導する健康スポーツ教室を開催 (2024.5.30-News Release)

アンチエイジングセンターは、2024.6.15、近畿大学記念会館にて、「第33回市民公開講座（第12回健康スポーツ教室）」を開催しました。今回は、卓球、ノルディックウォーキング、ストレッチ・ヨガ講座の3種目について、オリンピック出場者や本学経営学部の教員、外部講師による講座・実技指導を行いました。また、近畿大学アンチエイジングセンター監修の「アンチエイジング弁当」を参加者に無料配布し、農学部（奈良県奈良市）食品栄養学科の教員による栄養指導を行いました。



4-5. 脱酸素ウォーター「Reduce（リデュース）」試飲会の開催 (2024.6.21-News Release)

医療薬学科教授 多賀 淳と、地元企業で脱気水装置の製造・販売を行う有限会社マシン・メンテナンス・サービスが共同開発した卵「近の鶏卵」の親鶏の飼育に使用した脱気水を商品化した脱酸素ウォーター「Reduce（リデュース）」の報道関係者向け試飲会を実施しました。



4-6. 「近畿大学薬学部薬用植物園見学会」を開催 夕方・朝に開催し、日中では見られない植物の様子を観察 (2024.7.4-News Release)

2024.7.11, 9.19 に、「近畿大学薬学部薬用植物園見学会」を開催しました。7月は「夕暮れどきに植物たちに会おう」、9月は「朝の植物園散歩 2024」をテーマに、日中とは異なる植物の様子を観察しました。



4-7. 近畿大学薬学部薬用植物園で小学生を対象に漢方教室を開催 地域の子どもたちに薬用植物や生薬・漢方について学ぶ機会を提供 (2024.8.2-News Release)

薬用植物園は、2024.8.10、クラシエ株式会社の協力のもと、地域の小学生を対象とした漢方教室を開催しました。



4-8. 近畿大学薬学部薬用植物園で講演会と見学会を開催 地域の方々に薬用植物について理解を深める機会を提供 (2024.10.21-News Release)

薬用植物園は、2024.10.26、地域住民の方々を対象に、薬用植物に関する講演会と植物園の見学会を開催しました。生薬原料販売などを行う株式会社栃本天海堂の松島成介氏をお招きし、「薬用植物を観る」をテーマに講演していただきました。



4-9. 産学連携スッポンコラーゲン化粧品の新ブランド「BALMY.」が誕生 年齢や性別を問わないユニセックス仕様の導入美容液と保湿化粧水 (2024.11.21-News Release)

医療薬学科教授 多賀 淳らが技術協力し、大阪の台所・黒門市場発のコスメブランドから発売されているスッポンコラーゲン化粧品シリーズから、年齢や性別を問わず、さまざまな肌条件の方が安心して使用できるユニセックス仕様の新ブランド「BALMY (バーミー) .」が誕生しました。2024.11.25 に、導入美容液と保湿化粧水の2商品を発売しました。



4-10. ハウスダストなどによる鼻の不快感を軽減する人気のサプリメント 「機能性表示食品 近大サブリ 青みかん」お試しサイズ新発売 (2024.12.13-News Release)

薬用資源学研究室の研究成果をもとに、近大発ベンチャー企業の株式会社ア・ファーマ近大が開発したサプリメント「機能性表示食品 近大サブリ 青みかん」お試しサイズ(7日分・63粒)を、2024.12.20 に発売しました。本商品は、温州みかんに含まれるヘスペリジンやナリルチンが機能性関与成分であり、ハウスダストなどによる鼻の不快感を軽減する機能性表示食品で、1日分ずつ個包装になっており、持ち運びにも便利です。



4-11. 「京都廣川書店 AWARD 2024」の受賞者が決定

創薬科学科 1 年生 島津結衣さんが「京都廣川書店 AWARD 2024」を受賞（副賞 500,000 円）し、授賞式が行われました。



4-12. 近畿大学 マツキヨココカラ&カンパニー奨学金授与式が挙行

近畿大学薬学部マツキヨココカラ&カンパニー奨学金授与式が行われ、薬学部の学生 4 名が採用されました。株式会社マツキヨココカラ&カンパニー様にご協力頂き、令和 6 年度は近畿大学薬学部生に対する経済的支援を目的とした奨学金を給付することとなりました。



5. メディア

5-1. 2024.4.5 放送 日本テレビ「NNN ストレイトニュース」、読売テレビ「かんさい情報ネット ten.」 医療薬学科 教授 多賀 淳がコメント

紅麴サブリの分析の手順などについてコメントしました。

5-2. 2024.5.17 放送 TBS「THE TIME,」、TBS「ゴゴスマ GO GO! Smile!」創薬科学科 准教授 西脇敬二がコメント

青酸カリについてコメントしました。

5-3. 2024.5.17 放送 読売テレビ「かんさい情報ネット ten.」医療薬学科 教授 多賀 淳がコメント

大学での薬品管理についてコメントしました。

5-4. 2024.5.24 薬学総合研究所 教授 角谷晃司のインタビューが、植物図鑑サイト TERRARIUM（テラリウム）に掲載

「サフランのより良い栽培と供給を目指して」が、植物図鑑サイト TERRARIUM（テラリウム）に掲載されました。

5-5. 2024.6.17 放送 J:COM「虹色ねっとわーく」薬用植物園の見学会と講演会の様子を紹介

2024.6.8 に東大阪キャンパスおよび薬用植物園で一般向けに開催された講演会と見学会が紹介されました。

5-6. 2024.8.22 放送 TBS「THE TIME,」創薬科学科 准教授 西脇敬二がコメント

水酸化バリウムについてコメントしました。

5-7. 2025.2.13 放送 読売テレビ「情報ライブ ミヤネ屋」医療薬学科 教授 大鳥 徹がコメント

薬の正しい服用方法などについて生出演で解説しました。

6. 就職・進路状況

【医療薬学科】

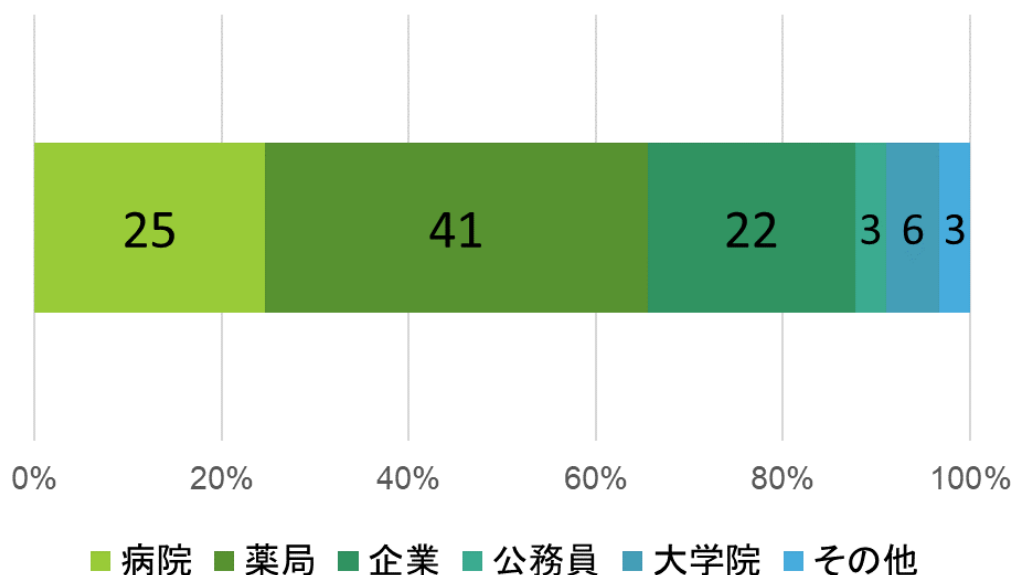
病院 (30 名) : 近畿大学病院、金沢医科大学病院、聖マリアンナ医科大学病院、奈良県立医科大学附属病院、新潟大学医歯学総合病院、和歌山県立医科大学附属病院、神戸市民病院機構、堺市立総合医療センター、富山県立中央病院、長崎市立病院機構、那覇市立病院、奈良県立病院機構、石切生喜病院、医誠会国際総合病院、大阪暁明館病院、大阪けいさつ病院、関西電力病院、岸和田徳洲会病院、京都武田病院、多根総合病院、東京西徳洲会病院、長崎記念病院、日本赤十字社和歌山医療センター、府中病院、ベルランド総合病院、松下記念病院、松原徳洲会病院、森之宮病院

薬局 (50 名) : I&H、RISE しろくま薬局、アイングループ、アルカ、ウィーズ、ウエルシア、エバグリーン薬局、キリン堂、クオール、クスリのアオキ、ココカラファイン、サエラ、サンドラッグ、スギ薬局、たんぼぼ薬局、ツバキファーマシー、ハートフルケアグループ、マツモトキヨシ、育星会、京都コムファ、総合メディカル、中部薬品 V ドラッグ、日本調剤、法円坂メディカル

企業 (27 名) : エーザイ、大塚製薬、中外製薬、あすか製薬、沢井製薬、東和薬品、扶桑薬品工業、持田製薬、アッヴィ、ヤンセンファーマ、IQVIA、イーピーエス、エイソーヘルズケア、シミック、シミックヘルズケア・インスティテュート、新日本科学、パレクセル・インターナショナル、リニカル、稲畑産業、川崎汽船、サラヤ、しまむら、Sky、ペプチド研究所

公務員 (4 名) : 大阪市、名古屋市、防衛省 防衛装備庁

大学院 (7 名) : 近畿大学、東京大学、奈良先端科学技術大学



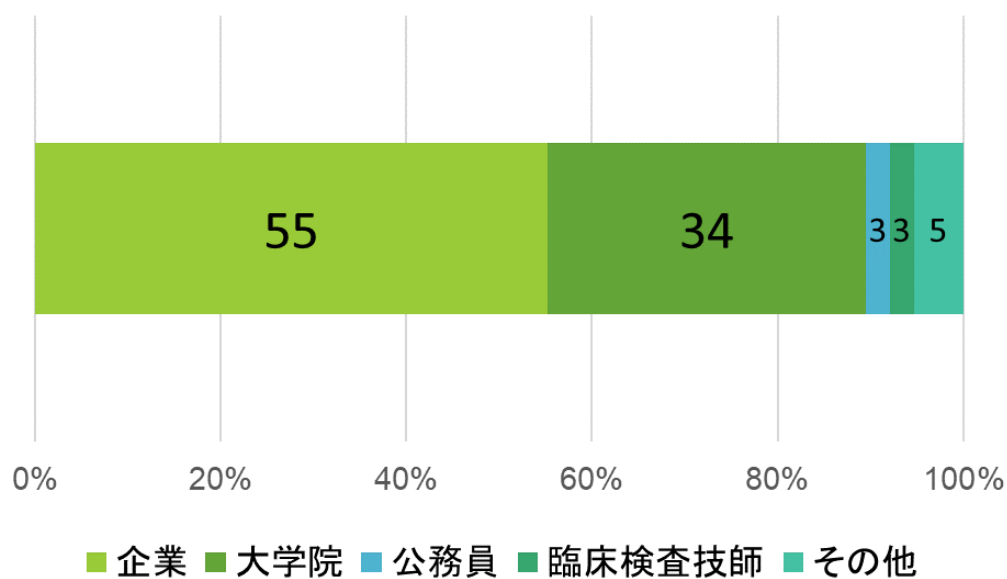
【創薬科学科】

企業（21 名）：三和化学研究所、ジェイ・エム・エス、扶桑薬品工業、EP Link、インクロム、エイツーヘルスケア、シミック、新日本科学 PPD、アイテック阪急阪神、アドバンテック、アニメイト、エスアールエル、ソフトバンク、WDB エウレカ社、TOA、日本空調サービス、ミヤコ

大学院（13 名）：近畿大学、金沢大学、東京医科歯科大学、東京大学、奈良先端科学技術大学

公務員（1 名）：和歌山県警察科学捜査研究所

臨床検査技師（1 名）：医療法人愛仁会



7. その他

7-1. 国際交流

1) 薬学総合研究所食品薬学研究室の森川敏生教授が International Congress on Natural Products Research (ICNPR2024, Kraków, Poland)にて招待講演 (2024.7.13~17 開催)

International Congress on Natural Products

Research (ICNPR) は、米国、欧州、アジアを代表する天然物研究の学会が共催し 4 年ごとに開催される国際会議です。ICNPR2024 は、Phytochemical Society of Europe (欧州植物化学協会, PSE) が主催し、日本生薬学会 (Japanese Society of Pharmacognosy, JSP) を含む 6 つの姉妹学会が共催してポーランドのクラクフで開催されました。68



カ国から 1,000 名を超える天然物研究の科学者が参加し、約 130 件の口頭発表と 900 件のポスター発表が行われました。今回、JSP からの派遣研究者として参加し、Society Session にて招待講演を行いました (講演タイトル: Novel thiosugar sulfoniums, salacinol and neokotalanol, with antidiabetic activity obtained from plants of genus *Salacia*).

2) 分子医療・ゲノム創薬学研究室の佐藤 亮介 講師が、在外研究の一環としてマギル大学 医学保健学部 (カナダ) へ留学しました。遺伝子発現制御に重要な小分子 RNA 「miRNA」の発現を制御する「マイクロプロセッサー」が、どのような種類の miRNA の発現を制御するのかについて解析を行いました。また、mRNA のポリアデニル化は mRNA 代謝において重要な役割を果たしていますが、mRNA がポリアデニル化される位置が、がんシグナルの活性によって制御されるメカニズムの解明に取り組みました。留学先のマギル大学には Nahum Sonenberg 博士をはじめとした世界でもトップクラスの RNA 研究者に加え、Michel L. Tremblay 博士といったシグナル伝達研究の権威が数多く在籍されており、本留学を通して最先端の研究を学ぶ貴重な経験を積むことができました。

在外研究期間：令和 5 年 9 月 1 日 (金) ~令和 6 年 8 月 31 日 (土)

在外研究機関：マギル大学 医学保健学部 (カナダ) Rosalind and Morris Goodman Cancer Institute (主宰：Thomas F. Duchaine 博士)

研究課題名：miRNA による遺伝子発現抑制を介したがんシグナル制御機構の解析



研究室でのクリスマスパーティー (中央下段が Thomas F. Duchaine 博士)

3) タイ・チェンマイ大学薬学部の大学院生が公衆衛生学研究室に短期留学のため来日し、大気汚染物質の研究を実施（2025.1.1～）。

タイ国家学術調査委員会（The National Research Council of Thailand, NRCT）の研究助成制度の1つである“The Research and Researchers Funds for Industries (RRi) scholarship”の一環で、Faculty of Pharmacy, Chiang Mai University の Dr. Chalermpong Saenjum の研究室から、博士後期課程の大学院生（Mr. Suphakorn Katib）が公衆衛生学研究室（主宰：川崎直人 教授）へ短期留学のため来日しました。緒方文彦 准教授、植松勇伍 助教とともに、「大気汚染物質中の化学組成（特に、重金属分析）」に関する共同研究を実施し、ICP-OES など最先端の分析機器を用いて定量した他、スマートフォンを用いた多環芳香族炭化水素（PAH）の簡易分析法の評価を行いました。また、研究室の学生とも交流を深めることができました。



左から3番目が Mr. Suphakorn Katib



実験風景

7-2. セミナー・シンポジウム等開催

1) 第8回京都生体質量分析研究会・第3回天然香気研究会 合同国際シンポジウムを開催（京都大学国際科学イノベーション棟、2025.2.27 開催）

2025年2月27日（木）に京都大学国際科学イノベーション棟において、第8回京都生体質量分析研究会と第3回天然香気研究会の合同国際シンポジウムを開催しました（実行委員長：近畿大学生物理工学部 梶山慎一郎 教授，実行副委員長：薬学総合研究所 森川敏生 教授）。

2) 日本生薬学会第 70 回年会を開催（近畿大学東大阪キャンパス、2024.9.15～16 開催）

2024 年 9 月 15 日（日）と 16 日（月・祝）の 2 日間にわたり、日本生薬学会第 70 回年会を東大阪キャンパス（11 月ホール大ホール・ロビー、39 号館 2, 3 階講義室）にて開催しました（年会会長：薬学総合研究所 森川敏生 教授）。本学会は、生薬学ならびにその周辺領域の産官学研究者が一堂に介し、天然物の成分探索・構造決定、生物活性、生合成、品質評価、栽培・組織培養、組織・形態、漢方・伝統医薬学、機能性食品など、多岐にわたる研究領域の成果発表の場であります。また、『研修認定薬剤師制度』における認定対象集合研修会および『漢方薬・生薬認定薬剤師制度』における必須研修として承認を受けており、薬剤師が自らの資質を向上させるために新しい知識と技能を習得する自己研鑽の場としても活用されています。本学会の関西 2 府 4 県での開催は平成 21 年（2009 年）の第 56 回年会以来 15 年ぶり、さらに近畿大学での開催は平成 5 年（1993 年）の第 40 回年会以来でありました。当日の参加者は 663 名（一般会員：322 名、学生会員：154 名、非会員：187 名）で、会長講演 1 席、受賞講演 5 席、特別講演 2 席、Journal of Natural Medicines 招待講演 2 席およびシンポジウム 3 席に加え、一般演題として口頭発表 69 題および一般ポスター発表 156 題があり、各会場では活発な討論が行われました。また、大会初日の夕刻にはシェラトン都ホテル大阪（浪速の間）にて懇親会を開催し、約 120 名が参加されるなど盛会裡に終えることができました。



3) 第 6 回近畿大学大学院臨床薬学シンポジウム開催（2025.3.1）

第 6 回近畿大学大学院臨床薬学シンポジウムが、2025 年 3 月 1 日（土）に近畿大学東大阪キャンパス 39 号館にて開催されました。教育講演として神戸市立医療センター中央市民病院 薬剤部長の室井 延之先生にご登壇を頂き、一般演題として連携大学院生のほか連携施設薬剤師による臨床研究関連テーマでの計 9 演題の発表がありました。参加者は 80 名でした。活発な質疑応答や意見交換が行われ、本シンポジウムの目的である、連携大学院制度における連携施設との交流が十分に図られました。



7-3. 薬用植物園

1) 一般開放

冬季間を除く平日の10:00～16:00に一般開放し、学生や地域住民など2490名（前年比115%）に見学していただきました。

2) 附属中学校課外学習受け入れ

4月23日（火）に附属中学校医薬コース2年生40名の生徒が来園し、講義や園内見学、薬草茶の試飲により薬用植物や漢方について学びました。

3) 学生による新入生歓迎の見学会開催

5月11日（土）に薬学部自治会や植物研究会、漢方研究会による新1回生向けの見学会が開催されました。

4) 薬用植物園見学会の開催

講演会や講習会、子ども向け企画など6回開催しました。

1. ストレス社会を漢方で乗り切れ！

6月8日（土） 参加者 85名

2. 夕暮れどきに植物たちに会おう

7月11日（木） 参加者 16名

3. 葛根湯をつくってみよう！

8月10日（土） 参加者 21名

4. 朝の植物園散歩

9月19日（木） 参加者 12名

5. 薬用植物を観る

10月26日（土） 参加者 78名

6. 洋ランの育て方

2月22日（土）、3月8日（土） 参加者計 32名



5) 東大阪市近江堂リージョンセンター（はすの広場）との協働事業

地域貢献の一環として、市民の交流の場である近江堂市民プラザにて、11月9日（土）、12月14日（土）の計2回「洋ランの育て方」講習会を行いました。

6) 市民団体への講習、見学

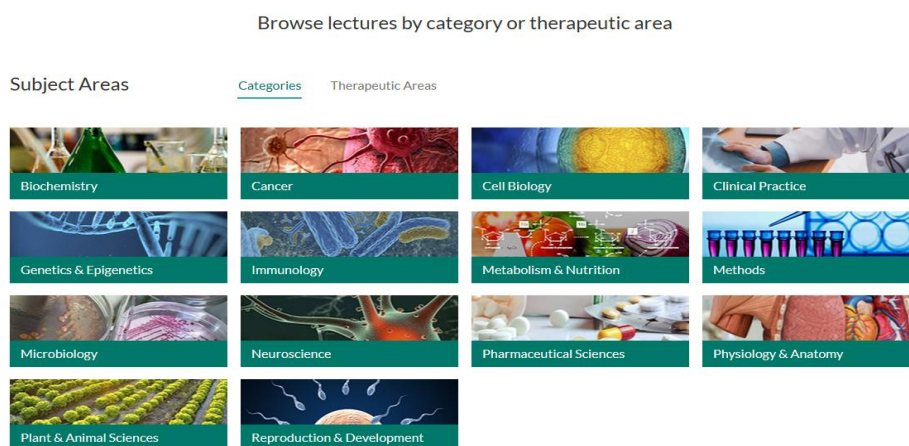
地域貢献の一環として特定の団体向けに講習および園内見学を行いました。

1. 認定 NPO 法人大阪府高齢者大学校
5月24日（金） 50名
2. NPO 法人大阪府民カレッジ東大阪校
5月28日（火） 35名

7-4. 薬学部教養基礎教育部門 薬学部英語教育への取り組み

1) Utilizing Online Contents that Specialize in Medicine and Pharmacy

薬学・医療に特化したサイエンス系ウェブコンテンツを使用した授業



Being exposed to the latest research conducted by world-renowned researchers is stimulating for students learning pharmaceutical sciences and drug discovery. Kindai University has partnered with a specialized U.K. website called Henry Stewart Talks <https://hstalks.com/biosci/> which disseminates scientists' technical expertise and research worldwide. Students can watch presentations of the latest research in various fields around the world and access their manuscripts and PowerPoints. This allows them to become familiar with World English (English accents spoken in various countries), practice presentation skills, and improve their listening comprehension. Of course, this can be done anytime, anywhere using devices such as smartphones or tablets. Additionally, regular webinars are held, allowing students to constantly stay updated on the latest medical technologies and information.

The screenshot shows an advertisement for an HSTalks Live Webinar. The title is "Chronic Inflammation, Immune Cell Trafficking and Anti-trafficking Agents". Below the title is a "REGISTER NOW" button. The date and time are "JUNE 27th, 5pm BST/12pm EDT". A note says "Registrants can view the full recording after the event". Below this, it says "UPCOMING LIVE WEBINAR" and "Chronic inflammation, immune cell trafficking and anti-trafficking agents". The speaker is "Dr. André Jéremow" from "University Erlangen-Nuremberg, Germany". At the bottom, there is a short abstract: "Inflammatory bowel diseases (IBDs) are characterized by uncontrolled activation of intestinal immune cells in a genetically susceptible host (reviewed in Nat Immunol 2019 Aug; 20(8):970-979). Studies have identified altered trafficking of immune cells and pathogenic immune cell circuits as crucial pathways for mucosal inflammation and tissue destruction in IBD. Two major factors, namely a defective gut barrier and microbial dysbiosis, favour mucosal inflammation and..."

医療薬学、創薬学の学生にとって、最先端の研究者による研究にふれることは学生にとって刺激となります。近畿大学では、Henry Stewart Talks というイギリスのサイエンス系研究者の技術、研究を世界に発信する専門ウェブ・サイトと提携しております。様々な医療・薬学分野において世界各地で行われている最新の研究のプレゼンテーションを視聴し、原稿、Power Point まで閲覧することができます。ワールド・イングリッシュ（世界各国で話される英語のアクセント）に慣れる、プレゼンテーションの仕方やヒアリングの練習になることは、もちろん、スマートフォンやタブレットなどのデバイスので、いつでもどこでも閲覧が可能です。また定期的に Webinar も開催されており学生は、常に最新の薬学・医療技術や情報を視聴することができます。

2) International Communication Program to Nurture Real-Life English Communication Skills 即戦力として使える英語を身につける実践型のオーラル・イングリッシュプログラム

The Japanese Ministry of Health, Labour and Welfare (MHLB) adopted a strategy to expand the Japanese pharmaceutical industry's share of the global market. Today, many Japanese pharmaceutical corporations have international alliances. In fact, it is common for the research on a drug to be carried out in Japan and have its manufacture offshored to places like India, Malaysia and the Philippines. Communications between these different bases of operation often requires proficiency in written correspondence as well as spoken English. In this context, successful language learning is not just about knowing grammar and vocabulary – it is about knowing how to communicate in real-life day-to-day situations. The Kindai University Oral English program presents students with a variety of tasks and exercises that are designed to give students the ability and the confidence to express their thoughts and ideas in English so that they can effectively communicate with others across borders.



3) プレゼンテーションを中心にしたアクティブラーニング型授業

アクティブラーニング型授業とは教員から学生への一方向な知識の伝達型を中心にした受動的学習とは異なり、学習者が積極的に能動的な学習に関与する授業の一つの形態です。近畿大学薬学部では学部の特色に応じた医療や科学に特化した ESP 教育に力を入れており、医療、薬学、科学をテーマにした教材を用いてアクティブラーニング型授業を行っています。授業の中ではペアワークやグループワークを中心に、協同学習、問題解決学習、話し合い学習、グループ・ディスカッションなどの幅広い授業活動を取り入れながら、3年生以上の上位学年で必要な専門分野の論文を読解したり、研究成果を英語で発信するための英語の基礎力を育成しています。特に1年生の講義ではプレゼンテーション活動を取り入れた体系的なアクティブラーニング型授業を推進しています。

研究室・部門・研究所 報告

化学療法学研究室

職・氏名・学位

教 授・中山 隆志・薬学博士 担当科目：放射化学・衛生化学実習(2 分担)、基礎薬科学実習(1 分担)、近大ゼミ(1)、微生物学(2)、免疫学(2)
Takashi Nakayama

所属学会：日本薬学会、日本免疫学会、日本癌学会、日本分子生物学会、日本がん分子標的治療学会

准教授・松尾 一彦・薬学博士 担当科目：放射化学・衛生化学実習(2 分担)、基礎薬科学実習(1 分担)、近大ゼミ(1)、生物学英語(創 3 分担)、化学療法学(3 分担)
Kazuhiko Matsuo

所属学会：日本薬学会、日本免疫学会、日本ワクチン学会、日本 DDS 学会、日本インターフェロン・サイトカイン学会

講 師・原 雄大・博士(薬科学) 担当科目：放射化学・衛生化学実習(2 分担)、基礎薬科学実習(1 分担)、近大ゼミ(1)、化学療法学(3 分担)、実践科学英語演習(創 4 分担)
Yuta Hara

所属学会：日本薬学会、日本薬理学会、日本神経化学会、日本免疫学会、日本癌学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 細胞遊走因子ケモカインのがん、感染症、自己免疫疾患、およびアレルギー疾患における病的役割の研究
2. 新規発がん関連遺伝子の同定とその機能解析
3. ケモカインシステムを利用した新規ワクチンシステムの確立
4. 和漢薬ライブラリーを用いたケモカインアゴニスト/アンタゴニストの探索研究
5. 新規ケモカイン受容体の探索

研究業績

[原著論文]

1. Kamei M, Matsuo K, Yoshida Y, Shimada K, Otsuki M, Fujimoto N, Ishibashi M, Quan YS, Kamiyama F, Hara Y, Takamura S, Nakayama T : Intratumoral delivery of a highly active form of XCL1 enhances antitumor CTL responses through recruitment of CXCL9-expressing conventional type-1 dendritic cells.

Int. J. Cancer, **154**(12), 2176-2188, 2024 年 6 月

2. Ohtani H, Matsuo K, Kitahata K, Sato E, Nakayama T : C-C Chemokine 21-Expressing T-cell Zone Fibroblastic Reticular Cells, Abundant in Lymph Nodes, Are Absent in Cancer Lymphoid Stroma.

Acta Histochem. Cytochem., **57**(2), 67-74, 2024 年 4 月.

[学会・シンポジウム]

1. 田中栞穂、松尾一彦、山下絢香、酒井貴之、橋本采奈、原雄大、中山隆志：アトピー性皮膚炎におけるケモカイン CCL28 を介した免疫細胞の病変皮膚浸潤

日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 26-29 日

2. 佐藤建人、松尾一彦、西田晃尚、板井悠里、小林滯、西優希奈、豊田教幹、原雄大、中山隆志：ケモカイン受容体 CCR4 は Th17 細胞遊走を介して乳がん細胞株 4T1 の肺転移に対する CD8+T 細胞応答を促進する

日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 26-29 日

3. 田中悠世、佐々木直人、Krisnanda Aga、大越颯斗、富依有紗、中村梨沙子、日置沙恵、森山真衣、大和真衣、田中亨、伊藤謙、堀部紗世、江本拓央、山下智也、松尾一彦、中山隆志、力武良行: ケモカイン受容体 CCR4 欠損は獲得免疫応答の調節によりアンジオテンシン II 誘発腹部大動脈瘤形成を抑制する

日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 26-29 日

4. 大越颯斗、田中亨、佐々木直人、田中悠世、富依有紗、中村梨沙子、日置沙恵、森山真衣、大和真衣、Krisnanda Aga、伊藤謙、堀部紗世、松尾一彦、中山隆志、力武良行: ケモカイン受容体 CCR4 欠損により早期の動脈硬化は増悪する

日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 26-29 日

5. Anju Kyusiki, Yuta Hara, Kana Fujiwara, Fumina Hanazato, Masaya Matsuda, Takeshi Nabe, Kazuhiko Matsuo, Takashi Nakayama: Chemokine CCL28 deficiency attenuates airway inflammation in an ovalbumin-induced mouse asthma model

第 130 回日本解剖学会/第 102 回日本生理学会/第 98 回日本薬理学会合同年会 (幕張)、2025 年 3 月 17-19 日

6. Yuta Hara, Masamitsu Bando, Ryohei Okumura, Shunya Hosokawa, Kazuhiko Matsuo, Takashi Nakayama: Analysis of liver-infiltrating IgA antibody-secreting cells in a mouse model of chronic hepatitis

第 130 回日本解剖学会/第 102 回日本生理学会/第 98 回日本薬理学会合同年会(幕張)、2025 年 3 月 17-19 日

7. Yuta Hara, Masamitsu Bando, Ryohei Okumura, Shunya Hosokawa, Kazuhiko Matsuo, Takashi Nakayama: CCL28 deficiency exacerbates liver injury in chronic carbon tetrachloride-induced hepatitis

第 53 回日本免疫学会学術集会 (長崎)、2024 年 12 月 3-5 日

8. Kazuhiko Matsuo, Shinya Yamamoto, Akihisa Nishida, Mako Yakasaki, Akane Kusanagi, Akari Edamitsu, Yuta Hara, Takashi Nakayama: Role of CCL28 in eosinophil recruitment into tumor tissues to enhance antitumor immune responses

第 53 回日本免疫学会学術集会 (長崎)、2024 年 12 月 3-5 日

9. 急式杏樹、原雄大、花里文菜、松尾一彦、中山隆志: 喘息様症状におけるケモカイン CCL28 を介した Th2 細胞浸潤の役割

第 146 回日本薬理学会近畿部会 (京都)、2024 年 11 月 30 日

10. 奥村遼平、原雄大、坂東政充、細川隼矢、松尾一彦、中山隆志: 肝浸潤性免疫抑制 IgA 産生形質細胞サブセットの体内動態および特性の解析

第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫)、2024 年 10 月 5 日

11. 坂東政充、原雄大、竹中美貴、松尾一彦、中山隆志: ケモカイン受容体 CCR6 による IL-17A 産生細胞の遊走を介した劇症肝炎病態の制御

第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫)、2024 年 10 月 5 日

12. 急式杏樹、原雄大、花里文菜、松尾一彦、中山隆志: ケモカイン CCL28 による喘息肺組織への Th2 細胞の遊走

第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫)、2024 年 10 月 5 日

13. 枝光萌里、松尾一彦、西田晃尚、草薙朱音、山本真也、原雄大、中山隆志: マウスメラノーマ腫瘍におけるケモカイン CCL28 の発現と好酸球及び CD8⁺T 細胞浸潤への影響

第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫)、2024 年 10 月 5 日

14. 岡本歩、松尾一彦、亀井萌百、吉田裕亮、古川玲緒奈、原雄大、中山隆志: 造安定化ケモカイン XCL1 によるメモリーCD8⁺T 細胞サブセットの選択的誘導とその機序

第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫)、2024 年 10 月 5 日

13. 北野奈央、松尾一彦、松浪理子、由良祥子、原雄大、中山隆志: CD8⁺T 細胞応答におけるケモカイン受容体 XCR1 の寄与

第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫)、2024 年 10 月 5 日

14. 橋本采奈、松尾一彦、山下絢香、酒井貴之、原雄大、中山隆志: アトピー性皮膚炎におけるケモカイン CCL28 を介した免疫細胞の病変皮膚浸潤

第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫)、2024 年 10 月 5 日

15. 笹井杏瑞、原雄大、松尾一彦、中山隆志: Th17 サイトカインのグリオブラストーマ腫瘍の増殖抑制における役割

第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫)、2024 年 10 月 5 日

16. 松井優和、原雄大、松尾一彦、中山隆志: GM-CSF によるグリオブラストーマ細胞株の直接的増殖効果

第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫)、2024 年 10 月 5 日

17. 瀧奈穂香、松尾一彦、西村翔太、田中葉穂、藤井太希、原雄大、中山隆志: α -マンゴスチンのアトピー性皮膚炎に対する炎症抑制効果

第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫)、2024 年 10 月 5 日

18. 鎌田和志、松尾一彦、原雄大、中山隆志: アトピー性皮膚炎におけるケモカイン CCL20 の発現とその受容体 CCR6 発現免疫細胞皮膚浸潤の解析

第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫)、2024 年 10 月 5 日

19. 田中葉穂、松尾一彦、北畑考祐、須佐美陽子、藤井太希、原雄大、中山隆志: アスコルビン酸誘導体 DDH-1 の Th2 型免疫応答抑制によるアトピー性皮膚炎治療効果

第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫)、2024 年 10 月 5 日

20. Kazuhiko Matsuo, Momo Kamei, Yuta Hara, Shiki Takamura, Takashi Nakayama: Intratumoral administration of a highly active form of XCL1 enhances CXCL9⁺cDC1-mediated antitumor CTL responses

第 83 回日本癌学会学術総会 (福岡)、2024 年 9 月 19-21 日

21. Yuta Hara, Kazuhiko Matsuo, Takashi Nakayama: Chemokine receptor CCR4 modulates depressive-like behavior via brain infiltration of regulatory T cells in lipopolysaccharide-treated mice

NEURO2024 (福岡)、2024 年 7 月 24-27 日

[外部助成]

1. 中山隆志(代表): ケモカイン CCL28 の好酸球を介したメラノーマ腫瘍免疫における役割
令和 5-7 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
2. 原雄大(代表): ケモカイン受容体 CCR4 の Th17 細胞を介したグリオーマ腫瘍免疫における役割
令和 5-7 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
3. 原雄大(代表): Th17 細胞による GM-CSF 産生を介したグリオブラストーマ増殖抑制メカニズムの解明
公益財団法人 大阪難病研究財団 2024 年度(第 30 回)医学研究助成
4. 原雄大(代表): ケモカイン CCL28 による気道上皮細胞の機能制御
公益財団法人 上原記念生命科学財団 2024 年度研究奨励金

[報償等]

1. 急式杏樹: 第 130 回日本解剖学会/第 102 回日本生理学会/第 98 回日本薬理学会合同年会 Undergraduate Poster Award
第 130 回日本解剖学会/第 102 回日本生理学会/第 98 回日本薬理学会合同年会 (幕張)、2025 年 3 月 17-19 日
2. 急式杏樹: 第 146 回日本薬理学会近畿部会 優秀発表賞
第 146 回日本薬理学会近畿部会 (京都)、2024 年 11 月 30 日
3. 岡本歩: 第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 優秀ポスター発表賞
第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫)、2024 年 10 月 5 日
4. 橋本采奈: 第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 優秀ポスター発表賞
第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 (兵庫)、2024 年 10 月 5 日
5. 奥村遼平: 近畿大学大学院 第 12 回院生サミット ポスター発表優秀賞
近畿大学大学院 第 12 回院生サミット (東大阪)、2024 年 8 月 31 日

[教育・社会活動]

1. 原雄大: 日本薬理学会 学術評議員

2019 年 4 月～

2. 原雄大: 日本薬学会ファルマシアトピックス小委員

2023 年 4 月～

公衆衛生学研究室

職・氏名・学位

教 授・川崎 直人・博士(薬学)
Naohito Kawasaki

担当科目：生活環境科学（医 1、創 1 分担）、薬学概論（医 1）、近大ゼミ（医 1）、栄養学（創 2）、公衆衛生学 1（医 3 分担）、公衆衛生学（創 3）、公衆衛生学 2（医 4）、総合演習 1（医 4）、実践病態と治療（医 5）、衛生化学・放射化学実習（医 3、創 3）、創薬科学実習 3（創 3）

所属学会：日本薬学会、日本水環境学会、日本公衆衛生学会、日本毒性学会、日本口腔ケア学会、日本健康体力栄養学会

准教授・緒方 文彦・博士(薬学)
Fumihiko Ogata

担当科目：生活環境科学（医 1、創 1 分担）、近大ゼミ（医 1）、衛生化学（医 2、創 3）、環境毒性学（医 3、創 3）、公衆衛生学 1（医 3 分担）、グローバル創薬科学（創 3 分担）、総合演習 2（医 6）、衛生化学・放射化学実習（医 3、創 3）、創薬科学実習 3（創 3）

所属学会：日本薬学会、日本水環境学会、日本公衆衛生学会、日本毒性学会、日本健康体力栄養学会

助 教・植松 勇伍・博士(薬学)
Yugo Uematsu

担当科目：生活環境科学（医 1、創 1 分担）、近大ゼミ（医 1）、教養特殊講義 B（医 1、創 1 分担）、薬学英語（医 2）、総合演習 1（医 4）、総合演習 2（医 6）、衛生化学・放射化学実習（医 3、創 3）、創薬科学実習 3（創 3）

所属学会：日本薬学会、日本水環境学会、日本公衆衛生学会、日本医療薬学会、日本病院薬剤師会

現在行われている主な研究テーマ

1. 環境水および排水処理のための水処理剤の開発とその最適化
2. 無機・有機材料による有害重金属の除去技術の開発
3. 無機物質による環境浄化とリン酸の連続回収に関する研究
4. 有価資源（レアメタル）の再資源化に関する研究
5. 医薬品による電解質の変動に関する臨床研究
6. 健康食品と医薬品との相互作用に関する基礎的研究
7. 毛髪金属分析による疾病予防に関する研究
8. 生活習慣の大規模調査及び疾病発生予防のための主因子分析

研究業績

[原著論文]

1. Nagai N, Ogata F, Kadowaki R, Deguchi S, Otake H, Nakazawa Y, Misra M, Kawasaki N : Design of an oral tablet containing furosemide nanoparticles with elevated bioavailability
J. Oleo Sci., **73**(4), 563-571, 2024 年 4 月
2. Uematsu Y, Ogata F, Okamoto R, Kabayama M, Kawasaki N : Phosphate recovery from aqueous phase using novel zirconium-based adsorbent
Heliyon, **10**, e29649, 2024 年 4 月
3. Ogata F, Nagai N, Ogawa T, Uematsu Y, Saenjum C, Tanei D, Kawasaki N : Synthesis and characterization of the magnetic-carbonaceous materials from bamboo waste and investigation of its adsorption capability of cesium ions
RSC Sustain., **2**, 2005-2015, 2024 年 4 月
4. Ogata F, Mitsuno M, Nagai N, Uematsu Y, Saenjum C, Kawasaki N : Removal of lead ions onto potassium-type fine-grained zeolite prepared from dry or wet milling treatment
Colloids Surf. C: Env. Aspects., **2**, 100038, 2024 年 6 月

5. Yamashiro K, Kimata K, Ogata F, Kawasaki N : *In vitro* study on combined effect of drugs for hyperphosphatemia on phosphorus adsorption capacity
Chem. Pharm. Bull., **72**(10), 932-935, 2024 年 10 月
6. Ogata F, Teranishi Y, Nagai N, Uematsu Y, Toda M, Otani M, Saenjum C, Kawasaki N : Feasibility of vanadium ion adsorption/desorption using nickel–aluminum complex hydroxides with different molar ratios
Chem. Eng. J. Adv., **15**, 100656, 2024 年 10 月
7. Otake H, Masuda S, Kadowaki R, Ogata F, Nakazawa Y, Yamamoto N, Kawasaki N, Nagai N : Therapeutic effects of rebamipide nanocrystals as carbopol gel formulation containing gum arabic in a hamster model of oral mucositis
J. Oleo Sci., **73**(12), 1479-1491, 2024 年 12 月
8. Ogata F, Ujita K, Uematsu Y, Nagai N, Saenjum C, Kawasaki N : Methylene blue removal from the aqueous phase using a magnetic-calcined bamboo composite adsorbent
Chem. Pharm. Bull., **73**(3), 205-212, 2025 年 3 月
9. Otake H, Ogata F, Nakazawa Y, Misra M, Tsubaki M, Kawasaki N, Nagai N : Pharmacological behavior of propylene glycol/polyvinyl alcohol hydrogel incorporating indomethacin nanocrystals in the skin
Gels, **11**(4), 251, 2025 年 3 月

[学会・シンポジウム]

1. Fumihiko Ogata: Recent advances in hexavalent chromium removal from aqueous solutions by adsorption technique using layered double hydroxides
日本薬学会第 145 年会（福岡）国際シンポジウム、口頭発表、2025 年 3 月 27～29 日
2. Chalermpong Saenjum, Sutasinee Apichai, Thanawat Pattanandecha, Kanokwan Kiwfo, Siripat Suteerapataranon, Fumihiko Ogata, Naohito Kawasaki, Kate Grudpan: Transitioning from local wisdom and downscaling analysis to innovative approaches in green pharmaceutical analysis
日本薬学会第 145 年会（福岡）国際シンポジウム、口頭発表、2025 年 3 月 27～29 日
3. 緒方文彦: 吸着処理を基盤とした有害金属の水質浄化システム
日本薬学会第 145 年会（福岡）環境・衛生部会 若手研究者シンポジウム、2025 年 3 月 27～29 日
4. 川崎直人、安達史恵、高木総吉、石橋融子、川元達彦、北村壽朗、鈴木俊也、中村弘揮、西村哲治、森田久男: 水質試験法 特定酵素基質培地を用いた下水・汚水中大腸菌数の測定（改訂）
日本薬学会第 145 年会（福岡）ポスター発表、口頭発表、2025 年 3 月 27～29 日
5. 植松勇伍、松谷定、阿部真也、五十嵐健佑、緒方文彦、野村和彦、川崎直人: 新人薬剤師の骨密度測定および骨粗鬆症に関する意識調査
日本薬学会第 145 年会（福岡）ポスター発表、2025 年 3 月 27～29 日
6. 水野友理、宮崎友規、植松勇伍、緒方文彦、川崎直人: 人工腸液条件下における健康食品と生活習慣病治療薬との相互作用に関する研究
日本薬学会第 145 年会（福岡）ポスター発表、2025 年 3 月 27～29 日
7. 曾我部倅大、山城海渡、緒方文彦、植松勇伍、川崎直人: 金属塩化物共存下で焼成した化石サンゴを用いたリン酸の吸着能
日本薬学会第 145 年会（福岡）口頭発表、2025 年 3 月 27～29 日
8. 藏崎瑞貴、緒方文彦、戸田徳、大谷昌司、植松勇伍、川崎直人: 金属複合水酸化物によるモリブデンイオンの回収能に関する基礎研究
日本薬学会第 145 年会（福岡）口頭発表、2025 年 3 月 27～29 日
9. 中村武浩、山路輝義、緒方文彦、小串祥子、木村朋紀、川崎直人: 茶粕による水銀および鉛イオンの吸着除去とその吸着特性に関する基礎的検討
日本薬学会第 145 年会（福岡）ポスター発表、2025 年 3 月 27～29 日
10. 山城海渡、中尾風沙、緒方文彦、藤原泰之、川崎直人: NDB オープンデータをを用いた都道府県別の骨粗しょう

う症治療薬の処方数と環境要因および生活習慣との関連性

日本薬学会第 145 年会（福岡）ポスター発表、2025 年 3 月 27～29 日

11. 高木総吉、小泉義彦、川崎直人、石橋融子、川元達彦、北村壽朗、鈴木俊也、中村弘揮、西村哲治、森田久男：水質試験法 水素ガスを用いたパージ・トラップ-ガスクロマトグラフ-質量分析計による臭気物質の分析（改訂）

日本薬学会第 145 年会（福岡）ポスター発表、2025 年 3 月 27～29 日

12. 緒方文彦、橋本優哉、植松勇伍、川崎直人：染色排水処理を指向した廃棄物バイオマスの吸着剤への転換に関する基礎研究

第 59 回日本水環境学会年会（北海道）ポスター発表、2025 年 3 月 17～19 日

13. 山城海渡、池本廉弥、緒方文彦、藤原泰之、川崎直人：焼成した牡蠣殻によるリンおよびヒ素の吸着に関する基礎的研究

第 29 回ヒ素シンポジウム（徳島）口頭発表、2024 年 12 月 7～8 日

14. 植松勇伍、水野友理、緒方文彦、川崎直人：経口高カリウム血症治療薬による医薬品の吸着能に関する基礎的研究

第 34 回日本医療薬学会年会（千葉）口頭発表、2024 年 11 月 2～4 日

15. 緒方文彦、伊東仁香、植松勇伍、樺山峰明、川崎直人：吸着処理を基盤とした水環境中からのヒ素の除去技術の開発

第 83 回日本公衆衛生学会総会（北海道）ポスター発表、2024 年 10 月 29～31 日

16. 植松勇伍、緒方文彦、川崎直人：小麦ふすま由来吸着剤を用いたパラコートおよびジクワットの吸着能

第 83 回日本公衆衛生学会総会（北海道）ポスター発表、2024 年 10 月 29～31 日

17. 曾我部偉大、山城海渡、植松勇伍、緒方文彦、川崎直人：富栄養化防止のための化石サンゴを用いたリン吸着に関する研究

第 83 回日本公衆衛生学会総会（北海道）口頭発表、2024 年 10 月 29～31 日

18. 山城海渡、椿本勝利、緒方文彦、川崎直人：快適な室内環境保持のためのバガス由来調湿剤の開発

第 83 回日本公衆衛生学会総会（北海道）ポスター発表、2024 年 10 月 29～31 日

19. 山城海渡、中里翼晨、緒方文彦、藤原泰之、川崎直人：硫酸処理バガスを用いた水環境中からの鉛除去

メタルバイオサイエンス研究会 2024（熊本）口頭発表、2024 年 10 月 17～18 日

20. 藏崎瑞貴、緒方文彦、戸田徳、大谷昌司、植松勇伍、川崎直人：金属複合水酸化物による吸・脱着処理を基盤としたレアメタルであるモリブテンの回収能に関する基礎的検討

第 74 回日本薬学会近畿支部総会・大会（兵庫）口頭発表、2024 年 10 月 5 日

21. 上原文幸、緒方文彦、植松勇伍、川崎直人：コーヒー豆かすによるガドリニウムイオンの吸・脱着能に関する基礎的検討

第 74 回日本薬学会近畿支部総会・大会（兵庫）口頭発表、2024 年 10 月 5 日

22. 緒方文彦、松本菜々海、植松勇伍、川崎直人：バジルシードを基材とした炭素材料の創製およびガドリニウムイオンに対する吸着能評価

フォーラム 2024 衛生薬学・環境トキシコロジー（宮城）、2024 年 9 月 4～5 日

23. 植松勇伍、廣江夏希、緒方文彦、川崎直人：マグネシウムおよびカルシウム由来吸着剤とリン酸イオンとの相互作用に関する基礎研究

フォーラム 2024 衛生薬学・環境トキシコロジー（宮城）、2024 年 9 月 4～5 日

24. 山城海渡、木全一真、緒方文彦、藤原泰之、川崎直人：高リン血症治療薬の多剤併用によるリン吸着能の効果への影響

フォーラム 2024 衛生薬学・環境トキシコロジー（宮城）、2024 年 9 月 4～5 日

25. 緒方文彦、坂本翔、植松勇伍、川崎直人：バガスを基材とした磁性保持吸着剤の創製およびそのセシウムイオン吸着能に関する基礎的検討

第 51 回日本毒性学会学術年会（福岡）ポスター発表、2024 年 7 月 3～5 日

26. 山城 海渡、宮本凌、緒方文彦、藤原泰之、川崎直人: バガスを用いた水環境中からのカドミウムの除去に関する基礎的検討
第 51 回日本毒性学会学術年会 (福岡) ポスター発表、2024 年 7 月 3～5 日
27. 中村武浩、小泉大空、小串祥子、木村朋紀、緒方文彦、川崎直人: フェナントロリン錯体による細胞毒性の細胞種特異性とその発現機構に関する研究
第 51 回日本毒性学会学術年会 (福岡) ポスター発表、2024 年 7 月 3～5 日
28. Naohito Kawasaki, Fumihiko Ogata, Yugo Uematsu: Removal of Heavy Metal by Vegetable Biomass in Drinking Water Prevention for Chronic Toxicity
The Health Tech Asia 2024 (Jakarta, Indonesia) Poster 2024 年 6 月 27～28 日

[研究報告書]

1. 緒方文彦(代表): 循環型社会の構築を目指した廃棄物バイオマスによる水質浄化技術の開発
令和 5 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)

[外部助成]

1. 川崎直人: 民間より 2 件
2. 緒方文彦: 層状複水酸化物による吸着処理を基盤としたレアメタルの回収技術の開発
令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

[報償等]

1. 水野友理: 学生優秀発表賞 (ポスター発表の部)
日本薬学会第 145 年会(福岡)、2025 年 3 月 27～29 日
2. 曾我部偉大: 学生優秀発表賞 (口頭発表の部)
日本薬学会第 145 年会(福岡)、2025 年 3 月 27～29 日

[教育・社会活動]

1. 川崎直人: 薬学教育協議会 衛生薬学教科担当教員会議 委員
2024 年 4 月～
2. 川崎直人: 日本私立薬科大学協会 教育研究問題検討委員会 委員
2022 年 4 月～
3. 川崎直人: 日本薬学会 環境・衛生部会 必携・衛生試験法編集委員会 委員長
2022 年 4 月～
4. 川崎直人: 日本薬学会 環境・衛生部会 試験法用語専門委員会 副委員長
2022 年 4 月～
5. 川崎直人: 日本薬学会 環境・衛生部会 フォーラム 委員
2022 年 4 月～
6. 川崎直人: 日本口腔ケア学会 評議員
2022 年 4 月～
7. 川崎直人: 日本薬学会 BPB Reports Editor
2021 年 4 月～
8. 川崎直人: 日本健康体力栄養学会 理事
2019 年 4 月～
9. 川崎直人: 日本薬学会 代議員
2018 年 4 月～

10. 川崎直人: 日本公衆衛生学会 理事	2017 年 10 月～
11. 川崎直人: 日本公衆衛生学会 薬剤師のあり方委員会 委員長	2017 年 10 月～
12. 川崎直人: 日本公衆衛生学会 専門職・教育生涯学習委員会 委員	2017 年 10 月～
13. 川崎直人: 日本公衆衛生学会 代議員	2017 年 7 月～
14. 川崎直人: 日本毒性学会 評議員	2017 年 7 月～
15. 川崎直人: 日本薬学会 環境・衛生部会 広報委員会 委員長	2016 年 4 月～
16. 川崎直人: 日本薬学会 環境・衛生部会 財務委員会 委員	2016 年 4 月～
17. 川崎直人: 日本薬学会 環境・衛生部会 水質試験法専門委員会 委員	2016 年 4 月～
18. 川崎直人: 日本私立薬科大学協会 薬剤師国家試験問題検討委員会 委員	2016 年 4 月～
19. 緒方文彦: 出張講義 薬学について 私立 開智高等学校（和歌山）	2024 年 7 月 13 日
20. 緒方文彦: 日本薬学会 学術編集委員会 委員	2023 年 4 月～
21. 緒方文彦: 日本薬学会 ファルマシアトピックス小委員会 委員	2023 年 4 月～
22. 緒方文彦: 日本薬学会 環境・衛生部会 必携・衛生試験法編集委員会 委員	2022 年 4 月～
23. 緒方文彦: 日本水環境学会関西支部 理事	2022 年 4 月～
24. 緒方文彦: 日本健康体力栄養学会 理事	2022 年 4 月～
25. 緒方文彦: 日本公衆衛生学会 代議員	2021 年 7 月～
26. 緒方文彦: Frontiers in Environmental Chemistry (Sorption Technologies), Associate Editor	2020 年 1 月～
27. 緒方文彦: 日本毒性学会 生体金属部会 幹事	2018 年 7 月～
28. 緒方文彦: 日本健康体力栄養学会 評議員	2013 年 4 月～
29. 緒方文彦: 日本水環境学会関西支部 幹事	2013 年 4 月～

生化学研究室

職・氏名・学位

教 授・藤原 俊伸・博士(医学)

Toshinobu Fujiwara

所属学会：日本 RNA 学会、日本分子生物学会

担当科目：近大ゼミ(1)、基礎生化学(1)、生化学(2)、基礎薬科学実習(1 分担)、免疫・分子生物学実習 (2 分担)

講 師・深尾 亜喜良・博士(理学)

Akira Fukao

所属学会：日本 RNA 学会、日本分子生物学会

担当科目：近大ゼミ(1)、生物学入門(1 併担)、基礎生物学(1 併担)、基礎薬科学実習(1 分担)、免疫・分子生物学実習(医 2 分担)

助 教・友廣 拓生・博士(医科学)

Takumi Tomohiro

所属学会：日本 RNA 学会、日本分子生物学会

担当科目：近大ゼミ(1)、生物学英語(医 2)、基礎薬科学実習(1 分担)、免疫・分子生物学実習(医 2 分担)

現在行われている主な研究テーマ

1. ほ乳類におけるタンパク質合成を制御する仕組みの研究
2. RNA ウイルスが宿主のタンパク質合成機構を乗っ取る仕組みの研究
3. RNA を高分子マテリアルとしてとらえた「ものづくり」

研究業績

[原著論文]

1. Tsukamoto K, Yamashita A, Maeki M, Tokeshi M, Imai H, Fukao A, Fujiwara T, Okudera K, Mizuki N, Okuda K, Shimada M: Enhanced Broad-Spectrum Efficacy of an L2-Based mRNA Vaccine Targeting HPV Types 6, 11, 16, 18, with Cross-Protection Against Multiple Additional High-Risk Types
Vaccines 12(11) 2024 年
2. Nishisaka H, Tomohiro T, Fukuzumi K, Fukao A, Funakami Y, Fujiwara T: Deciphering the Akt1-HuD interaction in HuD-mediated neuronal differentiation
Biochimie 221: 20-26 2024 年

[著書]

1. 友廣拓生、藤原俊伸：『RNA の科学』朝倉書店（2024 年 7 月、ISBN: 9784254171860）、第 8 章 「miRNA と翻訳因子の制御」

[学会・シンポジウム]

1. 藤原 俊伸: 高等真核生物の翻訳開始の「妙」
国立遺伝学研究所研究会（静岡）、2025 年 2 月 28 日-3 月 1 日
2. Toshinobu Fujiwara: Regulation of Translation Initiation by Atypical Translation Initiation Complexes Formed by RNA-Binding Proteins
Ribosome meeting 2024 in Japan（東京大学）、2024 年 12 月 2-4 日
3. Mai Miyao, Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Mari Takahashi, Yoshinori Funakami, Kodai Machida, Hiroaki Imataka, Kent E. Duncan, Takuhiro Ito and Toshinobu Fujiwara: Distinct Functions of eIF4B and eIF4H in eIF4A-Dependent Translation Initiation
Ribosome meeting 2024 in Japan（東京大学）、2024 年 12 月 2-4 日

4. Kanae Miyazaki, Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Tomohiko Aoyama, Yuichi Shichino, Shintaro Iwasaki, Toshinobu Fujiwara: Paip1 functions as a negative regulator in cap-dependent translation
Ribosome meeting 2024 in Japan (東京大学)、2024 年 12 月 2-4 日
5. Akari Ikeda, Takamine Nakada, Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Toshinobu Fujiwara: Targeted inhibitors of cap-dependent translation
Ribosome meeting 2024 in Japan (東京大学)、2024 年 12 月 2-4 日
6. 友廣拓生、鈴木亨、深尾亜喜良、山本雅、藤原俊伸: poly(A)鎖長の多段階制御と翻訳調整のダイナミクス
第 47 回日本分子生物学会年会 (福岡)、2024 年 11 月 27-29 日
7. 戸島崇、友廣拓生、深尾亜喜良、船上仁範、藤原俊伸: Akt シグナルを介した RNA 結合タンパク質と microRNA の拮抗メカニズム
第 47 回日本分子生物学会年会 (福岡)、2024 年 11 月 27-29 日
8. 坂口智祐、友廣拓生、深尾亜喜良、船上仁範、藤原俊伸: Ago タンパク質のリン酸化がもたらす microRNA の機能制御
第 47 回日本分子生物学会年会 (福岡)、2024 年 11 月 27-29 日
9. 福田将之、友廣拓生、深尾亜喜良、船上仁範、藤原俊伸: RNA 結合タンパク質 ZFP36L1 による mRNA 分解と翻訳抑制との協調機構の解明
第 47 回日本分子生物学会年会 (福岡)、2024 年 11 月 27-29 日
10. Akari Ikeda, Takamine Nakada, Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Toshinobu Fujiwara: Screening for inhibitors of translation initiation
第 11 回 CCR4-NOT 研究会、2024 年 10 月 29-30 日
11. Kanae Miyazaki, Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Tomohiko Aoyama, Yuichi Shichino, Shintaro Iwasaki, Toshinobu Fujiwara: Paip1 inhibits translation in a PABP dependent manner
第 11 回 CCR4-NOT 研究会、2024 年 10 月 29-30 日
12. Mai Miyao, Aika Terashita, Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Toru Suzuki, Tadashi Yamamoto, Toshinobu Fujiwara : CNOT9, a component of the CCR4-NOT deadenylase complex, is a pivotal player in translation repression and deadenylation mediated by miRISC
第 11 回 CCR4-NOT 研究会、2024 年 10 月 29-30 日
13. Takumi Tomohiro, Toru Suzuki, Akira Fukao, Tadashi Yamamoto, Toshinobu Fujiwara : Dynamic poly(A) tail control through exclusive subunit binding in the CCR4-NOT complex
第 11 回 CCR4-NOT 研究会、2024 年 10 月 29-30 日
14. Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Kodai Machida, Hiroaki Imataka, Takuhiro Ito, Toshinobu Fujiwara: Distinct Functions of eIF4B and eIF4H in eIF4A-Dependent Translation Initiation
Translational Control (米国)、2024 年 9 月 3-7 日
15. Akira Fukao, Takumi Tomohiro, Yoshinori Funakami, Toshinobu Fujiwara: Effect of interaction between RNA-binding protein HuD and SMN protein on protein synthesis

16. Kanae Miyazaki, Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Tomohiko Aoyama, Yuichi Shichino, Shintaro Iwasaki, Toshinobu Fujiwara: Paip1 represses translation in a PABP dependent manner

第 25 回日本 RNA 学会年会 (東京)、2024 年 6 月 26-28 日

17. Mai Miyao, Ayumi Mori, Takumi Tomohiro, Akira Fukao, Shungo Adachi, Tohru Natsume, Koji Onomoto, Mitsutoshi Yoneyama, Toru Suzuki, Tadashi Yamamoto, Toshinobu Fujiwara : Relationship between stress granule and microRNA-mediated translation repression using stress granule formation factor

第 25 回日本 RNA 学会年会 (東京)、2024 年 6 月 26-28 日

[研究報告書]

1. 藤原俊伸(代表): ヒトにおける microRNA マシナリーによる翻訳抑制の作動原理の解明
平成 30 年度 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究(研究領域提案型)
1. 藤原俊伸(代表): RNA 結合蛋白質が細胞シグナルに応答して制御する翻訳と mRNA 分解との連携機構
平成 30 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (B)
2. 藤原俊伸(代表): 新規抗真菌薬創製を目指した RNA アプタマーの創製
平成 30 年度 文部科学省科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究

[外部助成]

1. 藤原俊伸(代表): リボソームの不均一性から生み出される細胞・組織特異的翻訳開始制御機構の解明
令和 4 年度 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (B)
2. 深尾亜喜良(代表): 第 49 回内藤記念科学奨励金・研究助成
平成 29 年度 内藤記念科学振興財団

[褒賞等]

1. 野口 海輝: 第 19 回長野ミーティング 最優秀発表賞
2. 宮尾 真衣: 第 19 回長野ミーティング 優秀発表賞
3. 池田 朱里: 第 19 回長野ミーティング 優秀発表賞
4. 前田 真実: 第 19 回長野ミーティング 優秀発表賞

[教育・社会活動]

1. 藤原俊伸: 日本 RNA 学会 評議員
2016 年 4 月 1 日～
2. 藤原俊伸: 名古屋市立大学薬学部 客員教授
2015 年 4 月 1 日～
3. 藤原俊伸: 日本生化学会「生化学」誌編集企画協力委員
2014 年 4 月 1 日～
4. 藤原俊伸: 大阪大学免疫学フロンティア研究センター 招聘教授
2013 年 4 月 1 日～

製剤学研究室

職・氏名・学位

教 授・長井 紀章・博士(薬学) 担当科目：近大ゼミ (1)、薬学概論 (1)、製剤学 1 (医 2)、医薬品物性・製剤学実習 (医 2 分担)、製剤学 2 (医 3)、分析化学・製剤学実習 (創 2 分担)
Nagai Noriaki

所属学会：日本薬学会、日本薬剤学会、日本医療薬学会、日本油化学会、日本角膜学会、日本白内障学会、日本眼薬理学会、日本薬局学会、日本老視学会、水晶体研究会、ヘスペリジン研究会、The Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO)

講 師・大竹 裕子・博士(薬学) 担当科目：近大ゼミ(1)、医薬品物性・製剤学実習 (医 2 分担)、製剤学 (創 2)、製剤工学 (創 3)、分析化学・製剤学実習 (創 2 分担)
Hiroko Otake

所属学会：日本薬学会、日本薬剤学会、日本医療薬学会、粉体工学会、日本白内障学会、日本眼薬理学会、水晶体研究会

現在行われている主な研究テーマ

1. 粒子径の適正化による経皮吸収製剤の開発
2. ナノテクノロジーを用いた口腔粘膜適用製剤の開発
3. 角膜傷害治療製剤の開発
4. 眼圧降下と視神経賦活を同時標的とした緑内障治療製剤の開発
5. 白内障発症機序の解明とその治療製剤の開発
6. マイクロプローブ及びコンパクト HPLC を用いた新規溶出試験法の開発
7. ナノ粒子化による脳梗塞治療用注射製剤の確立
8. 薬物の肺深部送達を目的とした吸入ナノ粒子製剤の開発
9. 点鼻用ナノ粒子製剤を用いた脳デリバリー

研究業績

[原著論文]

1. 岡本紀夫、長井紀章、下村嘉一：鉛筆による角膜穿孔と虹彩損傷を認めた 1 例（続報）—前眼部 OCT 所見
臨床眼科, **79**(3), 328–330, 2025 年 3 月
2. Ogata F, Ujita K, Nagai N, Saenjum C, Tanei S, Kawasaki N: Methylene Blue Removal from the Aqueous Phase Using a Magnetic-Calcined Bamboo Composite Adsorbent
Chem. Pharm. Bull., **73**(3), 205–212, 2025 年 3 月
3. Otake H, Yamamoto T, Yamamoto N, Miyata Y, Taga A, Sasaki H, Nagai N: Changes in Protein Expression in Warmed Human Lens Epithelium Cells Using Shotgun Proteomics
Medicina (Kaunas), **61**, 286, 2025 年 2 月
4. Kato Y, Inada T, Shinke K, Hiramatsu N, Horie T, Sakamoto T, Hata Y, Sugihara E, Takimoto T, Nagai N, Ishigaki Y, Kojima H, Nagano O, Yamamoto N, Saya H: Comprehensive Search for Genes Involved in Thalidomide Teratogenicity Using Early Differentiation Models of Human Induced Pluripotent Stem Cells: Potential Applications in Reproductive and Developmental Toxicity Testing
Cells, **14**, 215, 2025 年 2 月
5. Okada D, Kanai K, Mastumoto T, Izumoto A, Uchiyama Y, Nagai N, Yakashita Y, Ichikawa Y, Sugiuchi M, Tajima K: Anti-inflammatory effects of water-dispersible hesperetin on endotoxin-induced uveitis in rats involving the nuclear factor κ B and Wnt/ β -catenin signaling pathways
J. Vet. Med. Sci., **87**(2), 223–231, 2025 年 2 月
6. 長井紀章：眼のアンチエイジング その 1—老視編. 特集 老視と目のアンチエイジング
臨床眼科, **79**(1), 56–61, 2025 年 1 月

7. 根岸一乃、川守田拓志、久保江理、長井紀章、平岡孝浩、前田直之：「老視」という病名を考える。特集 老視と目のアンチエイジング
臨床眼科, **79**(1), 23–27, 2025 年 1 月
8. 上田昌宏、青江麻衣、西村奏咲、中澤公揮、長井紀章、清水 忠：薬剤師が有機化学を臨床で活用しない要因の抽出
薬学教育, **9**, e09005, 2025 年 1 月
9. Oaku Y, Shiroyama S, Otake H, Yajima Y, Abe A, Yamamoto N, Nagai N: Gum Arabic Enhances Hair Follicle-Targeting Drug Delivery of Minoxidil Nanocrystal Dispersions
Biol. Pharm. Bull., **47**(12), 2083–2091, 2024 年 12 月
10. Otake H, Kitashoji R, Kotake T, Nagai N: Colloidal Particle in Suspensions of Maobushisaishinto Extract Granules Enhances Drug Intestinal Penetration.
Chem. Pharm. Bull., **72**(12), 1055–1060, 2024 年 12 月
11. Otake H, Masuda S, Kadowaki R, Ogata F, Nakazawa Y, Yamamoto N, Kawasaki N, Nagai N: Therapeutic Effects of Rebamipide Nanocrystals as Carbopol Gel Formulation Containing Gum Arabic in a Hamster Model of Oral Mucositis
J. Oleo Sci., **73**(12), 1479–1491, 2024 年 12 月
12. Hoshida T, Tsubaki M, Takeda T, Asano R, Choi I-H, Takimoto K, Inukai A, Imano M, Tanabe K, Nagai N, Nishida S: Oxaliplatin and 5-fluorouracil promote epithelial-mesenchymal transition via activation of KRAS/ERK/NF- κ B pathway in KRAS-mutated colon cancer cells
Mol. Cell Biochem., **480**, 2985–2999, 2024 年 11 月
13. Otake H, Masuda S, Yamamoto T, Miyata Y, Nakazawa Y, Yamamoto N, Taga A, Sasaki H, Nagai N: Semiquantitative analysis of protein expression in heated rat lens using shotgun proteomics
Mol. Med. Rep., **31**, 26, 2024 年 11 月
14. Ogata F, Teranishi Y, Nagai N, Uematsu Y, Toda M, Otani M, Saenjum C, Kawasaki N: Feasibility of vanadium ion adsorption/desorption using nickel–aluminum complex hydroxides with different molar ratios
Chem. Eng. J. Adv., **20**, 100656, 2024 年 10 月
15. Otake H, Kobayashi K, Kadowaki R, Kosaka T, Itahashi M, Tsubaki M, Matsuda M, Iwakiri N, Harata E, Nagai N: Copolymerized Polymers Based on Cyclodextrins and Cationic Groups Enhance Therapeutic Effect of Rebamipide in the N-Acetylcysteine-Treated Dry Eye Model
Drug Des. Devel. Ther., **18**, 4345–4358, 2024 年 9 月
16. Masuda S, Yano S, Tadokoro T, Otake H, Nagai N: Enhancement of therapeutic efficacy of Brinzolamide for Glaucoma by nanocrystallization and tyloxapol addition
J. Pharm. Health Care Sci., **10**, 55, 2024 年 9 月
17. Sato K, Deguchi S, Nagai N, Yamamoto T, Mitamura K, Taga A: Neokestose suppresses the increase in plasma glucose caused by oral administration of sucrose in a streptozotocin-induced diabetic rat
Sci. Rep., **14**, 16658, 2024 年 7 月
18. Nakazawa Y, Kuno Y, Shimada H, Nagai N, Hiramatsu N, Takeda S, Yamamoto N, Funakoshi-Tago M, Sasaki H: High ambient temperature may induce presbyopia via TRPV1 activation
Med. Mol. Morphol., **57**, 268–276, 2024 年 7 月
19. 門脇玲太、明和亮伍、岩井誓治、永田万由美、松島博之、中澤洋介、山本直樹、佐々木 洋、長井紀章：ニルバジピンナノサスペンション点眼による眼組織への薬物送達：経口投与時における薬物挙動との比較
日本白内障学会, **36**(1), 95–99, 2024 年 7 月
20. 門脇玲太、浅井拓己、出口粧央里、大竹裕子、岡本紀夫、中澤洋介、佐々木 洋、長井紀章：亜セレン酸誘発白内障モデルの混濁過程における水晶体弾性力の変化
日本白内障学会, **36**(1), 104–109, 2024 年 7 月

21. Yoshikawa T, Okamoto H, Takeuchi K, Hirata A, Otake H, Nagai N: Evaluation of starch granules based on hydroxypropylcellulose as a substitute for excipient lactose
J. Pharm. Health Care Sci., **10**, 31, 2024 年 6 月
22. Ogata F, Mitsuno M, Nagai N, Uematsu Y, Saenjum C, Kawasaki N: Removal of lead ions onto potassium-type fine-grained zeolite prepared from dry or wet milling treatment
Colloids Surf. C Environmental Aspects., **2**, 100038, 2024 年 6 月
23. Tanino T, Ueda Y, Nagai N, Ishihara Y, Saijo M, Funakami Y: In vivo upstream factors of mouse hepatotoxic mechanism with sustained hepatic glutathione depletion: Acetaminophen metabolite-erythrocyte adducts and splenic macrophage-generated reactive oxygen species
Chem. Biol. Interact., **398**, 111091, 2024 年 5 月
24. Ogata F, Nagai N, Ogawa T, Uematsu Y, Saenjum C, Tanei S, Kawasaki N: Synthesis and characterization of the magnetic-carbonaceous materials from bamboo waste and investigation of its adsorption capability of cesium ions
RSC Sustain., **2**, 2005–2014, 2024 年 4 月
25. 小畑友紀雄、大竹裕子、出口粧央里、浦嶋庸子、細見光一、長井紀章、中田雄一郎: 先発品および後発品間におけるブリッジラミド懸濁性点眼液の再分散性評価
医療薬学, **50**(4), 135–142, 2024 年 4 月
26. Nagai N, Ogata F, Kadowaki R, Deguchi S, Otake H, Nakazawa Y, Misra M, Kawasaki N: Design of an Oral Tablet Containing Furosemide Nanoparticles with Elevated Bioavailability
J. Oleo Sci., **73**(4), 563–571, 2024 年 4 月

[総説]

1. Otake H, Nagai N: [Development of Transdermal Formulation Based on Nanotechnology and Elucidation of Its Drug Delivery Pathways]
Yakugaku Zasshi, **144**(5), 505–510, 2024 年 5 月

[著書]

1. 増田柊也、長井紀章: 老視の薬物治療 特集 今だから知りたい! 老視研究・診療の最前線
Monthly Book OCULISTA (オクリスタ)、**66**(137)、pp.46–51、全日本病院出版会 2024 年 8 月

[学会・シンポジウム]

1. 成瀬七海、山室大介、島田東弥、鍵山菜々子、畑山峻吏、山口創大、長井紀章、花栗潤哉、横田陽匡、長岡泰司、櫛山暁史: フェブキシソスタットナノ粒子化点眼の網膜移行と用法用量の確立
日本薬学会第 145 年会 (福岡)、29PB-505S、2025 年 3 月 29 日
2. 加峰千香、梅本知輝、浦嶋庸子、勝見英正、大竹裕子、細見光一、長井紀章、小畑友紀雄、中田雄一郎: 短期間の保管環境がフルオロメトロン水性懸濁性点眼剤の品質におよぼす影響について
日本薬学会第 145 年会 (福岡)、28P-am448S、2025 年 3 月 28 日
3. 小畑友紀雄、浦窪天音、浦嶋庸子、梅本知輝、大竹裕子、細見光一、長井紀章、中田雄一郎: 懸濁剤の再懸濁に関する公開情報の調査解析
日本薬学会第 145 年会 (福岡)、28P-am428、2024 年 3 月 28 日
4. 山本直樹: 細胞間相互作用による自律的に分化させた細胞集合体の解析: 生理機能を有する網膜視細胞への分化の試み
第 24 回日本再生医療学会総会 (神奈川)、O-30-4、2025 年 3 月 21 日
5. 尾花輝樹、藤本伸一郎、藤原季実子、竹上 学、長井紀章、西田升三、椿 正寛: 婦人科癌領域におけるカルボプラチンによる血液毒性に BMI の違いが与える影響に関する後方視的検討
第 14 回日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2025 (神奈川)、OA1-02、2025 年 3 月 15 日
6. 城山空翔、久保田ちか、岡本奈々、長井紀章: 湿式微粒子化装置を用いたミノキシジルエマルジョンの処方検討とその有用性評価

第 34 回日本医療薬学会年会（千葉）、4-11-O66-4、2024 年 11 月 4 日

7. 森 玲奈、大明沙季、井上ゆり果、大竹裕子、長井紀章: 3D プリンティング技術を用いたケトプロフェンナノ結晶封入経皮適用製剤の作成

第 34 回日本医療薬学会年会（千葉）、4-11-O66-3、2024 年 11 月 4 日

8. 畑見理奈、辻際瑞希、川端壮基、大竹裕子、長井紀章: 3D プリンターを用いた多層シート型レバミピド経口製剤の提案とその物性評価

第 34 回日本医療薬学会年会（千葉）、4-11-O66-2、2024 年 11 月 4 日

9. 板東彩香、大迫華乃、吉村彩菜、大竹裕子、長井紀章: フロセミドナノクリスタル封入グミの開発とその物性評価

第 34 回日本医療薬学会年会（千葉）、4-11-O66-1、2024 年 11 月 4 日

10. 酒井琢朗、松本夏奈、神尾あすか、大竹裕子、稲葉一訓、小畑友紀雄、中田雄一郎、長井紀章: 各種ヒアルロン酸点眼液を対象とした容器の性状と押し出し力の相関解析

第 34 回日本医療薬学会年会（千葉）、3-11-O47-4、2024 年 11 月 3 日

11. 和久田 耀、小松美莉、谷口雅弥、大竹裕子、長井紀章: レバミピド結晶含有ポリビニルアルコールゲルの調製と口内炎治療への応用

第 34 回日本医療薬学会年会（千葉）、2-11-O24-3、2024 年 11 月 2 日

12. 板橋瑞稀、小坂太陽、伊藤奈希、岡本紀夫、大竹裕子、長井紀章: トロキシピドナノサスペンションの開発とドライアイ治療効果の評価

第 34 回日本医療薬学会年会（千葉）、2-11-O24-2、2024 年 11 月 2 日

13. 田所朋久、矢野詩歩、梅田一輝、小早川信一郎、檜野 栞、松永 透、長井紀章: レバミピド含有薬物徐放性コンタクトレンズデバイスの設計と涙液中薬物挙動の解析

第 34 回日本医療薬学会年会（千葉）、2-11-O21-3、2024 年 11 月 2 日

14. 岩井誓治、門脇玲太、中村早桜里、増田柁也、大竹裕子、長井紀章: モメタゾンフランカルボン酸エステルナノ結晶分散液の鼻腔吸収促進作用

第 34 回日本医療薬学会年会（千葉）、2-7-O2*-2、2024 年 11 月 2 日

15. 増田柁也: 薬剤師が知っておくべき点眼製剤の特徴. シンポジウム 15 薬剤師が知っておくべき製剤特性と次世代医療～製剤の特徴を学びより良い薬物治療を提供しよう～

第 34 回日本医療薬学会年会（千葉）、2-12-S15-3、2024 年 11 月 2 日
(シンポジウム講演)

16. Hiroko Otake, Reina Mori, Reita Kadowaki, Yosuke Nakazawa, Manju Misra, Noriaki Nagai: Design of a Transdermal Gel Formulation Containing l-menthol and Felbinac Nanoparticles

FAPA2024 SEOUL（韓国）、FAPA2024_SB00428、2024 年 11 月 1 日

17. Reita Kadowaki, Hikaru Wakuda, Hiroko Otake, Yosuke Nakazawa, Manju Misra, Noriaki Nagai: Therapeutic efficacy of a hydrogel formulation containing troxipide nanoparticles in hamster oral mucositis

FAPA2024 SEOUL（韓国）、FAPA2024_SB00283、2024 年 11 月 1 日

18. Shuya Masuda, Shiho Yano, Tomohisa Tadokoro, Sakie Momii, Hiroko Otake, Noriaki Nagai: Combination of nanocrystals and tyloxapol enhances the therapeutic effectiveness of brinzolamide ophthalmic formulation for glaucoma

FAPA2024 SEOUL（韓国）、FAPA2024_SB00282、2024 年 11 月 1 日

19. 谷口綾音、門脇玲太、大竹裕子、中澤洋介、長井紀章: ヘスペレチンナノ点眼液の開発と白内障治療への応用

第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会（兵庫）、H7、2024 年 10 月 5 日

20. 向井琴音、大竹裕子、長井紀章: 湿式ビーズミルと噴霧急速凍結乾燥法を基盤とした経鼻用トラニラストナノ結晶粉末の作成

第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会（兵庫）、H6、2024 年 10 月 5 日

21. 北庄司椋平、大竹裕子、遠藤雄一、小竹 武、長井紀章: 漢方エキス製剤の懸濁服用時における分散系評価

22. 沖田鋼季、岡崎章悟、中埜 尚、加藤和則、八木秀樹、富岡佳久、長井紀章、佐谷秀行、石渡俊行、益子 高：
睪がんの診断と治療に向けた抗体認識標的膜タンパク質の提案
第 83 回日本癌学会学術総会（福岡）、P-1161、2024 年 9 月 19 日
23. 長井紀章：眼内への薬物移行． シンポジウム 4 いつまでも健やかな毎日のために：眼疾患の克服を目指して
第 25 回応用薬理シンポジウム（東京）、S4-4、2024 年 9 月 16 日
（シンポジウム講演）
24. 大竹裕子、板橋瑞稀、小坂太陽、伊藤奈希、増田柊也、岡本紀夫、中澤洋介、Manju Misra、長井紀章：ドライ
アイ治療に資するトロキシピドナノ粒子配合眼瞼適用ゲルの開発
第 44 回日本眼薬理学会（東京）、AW-1、2024 年 9 月 14 日
25. 大高裕也、岡田大輝、杉内美咲、山下洋平、市川陽一朗、長井紀章、田島一樹、金井一享：エンドトキシン
誘発ぶどう膜炎ラットにおけるミルトジェノールの抗炎症効果
第 167 回日本獣医学学術集会（北海道）、JA-41、2024 年 9 月 13 日
26. 大橋侃太、大高裕也、米谷拓己、長井紀章、岡田大輝、杉内美咲、山下洋平、市川陽一郎、田島一樹、金井
一享：ナノ水酸化マグネシウム含有 5-アミノレブリン酸点眼薬は健常ビーグル犬の房水抜去による血液房
水関門破綻を抑制する
第 167 回日本獣医学学術集会（北海道）、HAS-29、2024 年 9 月 13 日
27. 岡田大輝、松本 翼、泉本あかね、長井紀章、杉内美咲、山下洋平、市川陽一朗、大高裕也、田島一樹、金
井一享：分散ヘスペレチンのラットエンドトキシン誘発ぶどう膜炎モデルに対する抗炎症効果
第 167 回日本獣医学学術集会（北海道）、JA-05、2024 年 9 月 12 日
28. 大竹裕子、板橋瑞稀、伊藤奈希、門脇玲太、増田柊也、岡本紀夫、長井紀章：ドライアイ治療への応用を目
指した経眼瞼トロキシピドナノ製剤の開発
第 3 回眼科創薬研究会（大阪）、口頭後半 3、2024 年 9 月 3 日
29. 門脇玲太、田所朋久、梅田一輝、増田柊也、大竹裕子、長井紀章：効力持続性の向上を目指したトラニラス
ト封入カチオン型コンタクトレンズの設計
第 3 回眼科創薬研究会（大阪）、口頭前半 4、2024 年 9 月 3 日
30. 長井紀章：点眼製剤から見た白内障治療薬実現の可能性． 水晶体研究会シンポジウム「水晶体の創薬を語ろ
う」
第 63 回日本白内障学会総会・第 50 回水晶体研究会（東京）、LE-1、2024 年 8 月 23 日
（シンポジウム講演）
31. 門脇玲太、大竹裕子、山本哲志、山本直樹、中澤洋介、宮田佳樹、多賀 淳、佐々木 洋、長井紀章：水晶体
温度上昇による白内障進行要因の解明を目指して：ヒト由来細胞 iHLEC-NY2 のプロテオミクス解析
第 63 回日本白内障学会総会・第 50 回水晶体研究会（東京）、O1-3、2024 年 8 月 23 日
32. 長井紀章：水晶体温度上昇による白内障発症機序． みんなの JSCRS「白内障学会との合同シンポジウム：環
境温度と白内障」
第 39 回日本白内障屈折手術（JSCRS）学術総会（福岡）、演題 3、2024 年 6 月 28 日
（シンポジウム講演）
33. 門脇玲太、辻極瑞希、畑見理奈、川端壮基、大竹裕子、長井紀章：アラビアゴムを添加物としたレバミピド
ナノサスペンションの作成と NSAIDs 誘発消化管傷害治療への応用
日本薬剤学会第 39 年会（兵庫）、2-6-04*、2024 年 5 月 24 日

[研究報告書]

1. 長井紀章(代表)：薬物ナノ結晶を装填した *in situ* ゲル点眼液の開発と網膜症治療への応用
令和 3-5 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)

[外部助成]

1. 長井紀章(代表): ナノマテリアルを装填した抗 VEGF 抗体点眼液の開発と網膜症治療に向けた新戦略への助成
武田科学振興財団 2024 年度研究助成「薬学系研究助成」
2. 長井紀章(代表): 眼疾患療法に向けた刺激応答型コロイドナノキャリア製剤の開発とその薬物動態の検討
令和 5-6 年度 日本学術振興会 二国間交流事業
3. 大竹裕子(代表): 肺全域への薬物送達を可能とする超微粒子ステロイド製剤の開発と新規肺炎療法への応用
令和 5-6 年度 文部科学省科学研究費補助金 若手研究
4. 民間企業より受託研究および共同研究、寄附研究 9 件

[特許]

出願 1 件

[報償等]

1. 門脇玲太: 第 3 回眼科創薬研究会 会長特別賞 受賞
第 3 回眼科創薬研究会 2024 年 9 月 5 日
2. 門脇玲太: 第 63 回日本白内障学会総会・第 50 回水晶体研究会 優秀演題賞 受賞
第 63 回日本白内障学会総会・第 50 回水晶体研究会 2024 年 8 月 23 日

[教育・社会活動]

1. 長井紀章: 水晶体研究会 世話人
2015 年 4 月～
2. 長井紀章: 水晶体研究会 プログラム委員
2015 年 4 月～
3. 長井紀章: 日本白内障学会 編集委員
2016 年 8 月～
4. 長井紀章: 日本医療薬学会 代議員
2017 年 1 月～
5. 長井紀章: 日本眼薬理学会 評議員
2017 年 9 月～
6. 長井紀章: JPHCS 編集委員
2018 年 4 月～
7. 長井紀章: 日本白内障学会 評議員
2019 年 4 月～
8. 長井紀章: 日本白内障学会 第三者委員会 委員
2019 年 4 月～2021 年 3 月
9. 長井紀章: 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務実習指導薬剤師養成小委員会 委員
2019 年 9 月～2024 年 3 月
10. 長井紀章: 近畿大学薬友会 理事
2020 年 4 月～
11. 長井紀章: 日本白内障学会 第三者委員会 委員長
2021 年 4 月～2022 年 3 月

12. 長井紀章: 日本眼薬理学会 総務委員	2022 年 4 月～
13. 長井紀章: 日本薬剤学会 代議員	2022 年 4 月～
14. 長井紀章: 日本白内障学会 理事	2022 年 4 月～
15. 長井紀章: 眼科創薬研究会 世話人	2023 年 1 月～
16. 長井紀章: 日本老視学会 理事	2023 年 1 月～
17. 長井紀章: Specialty Committee of TCM preparations (中药制剂专委会) 委員	2023 年 4 月～
18. 長井紀章: Specialty Committee of TCM Drug Delivery System (中药新型给药系统专委会) 委員	2023 年 4 月～
19. 長井紀章: 日本薬剤学会教育分科会 世話人	2023 年 5 月～
20. 長井紀章: 日本眼薬理学会 理事	2023 年 11 月～
21. 長井紀章: 水晶体研究会 代表世話人	2024 年 8 月～

病態分子解析学研究室

職・氏名・学位

教 授・多賀 淳・薬学博士
Atsushi Taga

担当科目：基礎化学(医 1 分担)、化学入門(医 1 分担)、薬学概論(医 1 オムニバス)、日本薬局方(3)、分析化学 3 (医 3 分担)、実践病態と治療(医 5 分担)、近大ゼミ(1)、基礎薬科学実習(1 分担)

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会、日本糖質学会、日本癌学会、日本油化学会、日本分析化学会、クロマトグラフィー科学会

准教授・三田村 邦子・薬学博士
Kuniko Mitamura

担当科目：病態検査学(3)、生化学検査学(創 3)、近大ゼミ(1)、基礎薬科学実習(1 分担)、生化学検査学実習(創 3)

所属学会：日本薬学会、日本臨床化学会、日本医用マススペクトル学会、日本分析化学会、クロマトグラフィー科学会

准教授・山本 哲志・医学博士
Tetsushi Yamamoto

担当科目：細胞生物学(医 1)、解剖組織学(創 1)、近大ゼミ(1)、基礎薬科学実習(1 分担)、血液検査学(創 2)、化学英語(創 3)、創薬インフォマティクス演習(創 2 分担)、血液検査学実習(創 2)

所属学会：日本薬学会、日本癌学会、日本分子生物学会、日本医用マススペクトル学会、日本分子腫瘍マーカー研究会、米国臓臓学会、米国癌学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 由来及び高次構造の違いによるコラーゲンの機能性について
2. キャピラリー電気泳動による生体成分の新規分析法の開発と応用
3. 食品中機能性オリゴ糖の探索ならびに合成法
4. 無機性材料の分析法の最適化と新規用途の開拓
5. LC/MS による乾燥ろ紙尿中抱合型ステロイドホルモン定量法の開発
6. 食品中機能性成分の同定に関する研究
7. 生体試料中遊離脂肪酸の高感度測定法の開発
8. 天然甘味料を用いた新規大腸癌治療薬の開発
9. プロテオーム解析を用いた新規大腸癌診断マーカーの探索に関する研究
10. キャピラリー電気泳動を用いた糖鎖修飾を標的とした癌診断法の開発

研究業績

[原著論文]

1. Iwahashi H, Kawashima Y, Masaki H, Taga A: Lemon Balm (*Melissa officinalis* L.) Leaf extract promotes Endo180 production in dermal fibroblasts and has antiwrinkle effect on human skin
Photodermatol Photoimmunol Photomed., **41**(2), e70006, 2025 年 3 月
2. Otake H, Yamamoto T, Yamamoto N, Nakazawa Y, Miyata Y, Taga A, Sasaki H, Nagai N: Changes in protein expression in warmed human lens epithelium cells using shotgun proteomics
Medicina (Kaunas)., **61**(2), 286, 2025 年 2 月
3. Kimura A, Tsubaki M, Obana T, Matsuo T, Komori R, Nagai N, Yamamoto T, Nishida S: MDM2 inhibitors induce apoptosis by suppressing MDM2 and enhancing p53, BAX, PUMA, and NOXA expression levels in imatinib-resistant chronic myeloid leukemia cells
Biomed Rep., **22**(4), 65, 2025 年 2 月
4. Otake H, Masuda S, Yamamoto T, Miyata Y, Nakazawa Y, Yamamoto N, Taga A, Sasaki S, Nagai N: Semiquantitative analysis of protein expression in heated rat lens using shotgun proteomics
Mol Med Rep., **31**(1), 26, 2025 年 1 月

5. Sato K, Deguchi S, Nagai N, Yamamoto T, Mitamura K, Taga A: Neokestose suppresses the increase in plasma glucose caused by oral administration of sucrose in a streptozotocin-induced diabetic rat
Sci Rep., **14**(1), 16658, 2024 年 7 月

[学会・シンポジウム]

1. 山本哲志、吹田晴香、西澤璃咲、三田村邦子、多賀淳: 新規循環腫瘍細胞検出法としてのキャピラリー電気泳動の応用
日本薬学会第 145 年会、(福岡、マリンメッセ福岡)、2025 年 3 月 27 日
2. 鹿倉菜摘、山本哲志、朴将源、三田村邦子、多賀淳: 癌患者血清中 TCA 回路代謝物を標的にしたメタボローム解析法の開発
日本薬学会第 145 年会、(福岡、マリンメッセ福岡)、2025 年 3 月 27 日
3. 北條初奈、山本哲志、平田美信、西博顯、牛尾吉孝、三田村邦子、多賀 淳: 皮膚角化細胞に対する紫外線障害からのフィブロインによる保護作用の検討
日本薬学会第 145 年会、(福岡、マリンメッセ福岡)、2025 年 3 月 27 日
4. 湊晴輝、北條初奈、山本哲志、三田村邦子、多賀淳: 豆乳の筋芽細胞に対する影響
日本薬学会第 145 年会、(福岡、マリンメッセ福岡)、2025 年 3 月 27 日
5. 高倉英樹、宮本真吾、山哲志、中尾 俊雅、武藤倫弘、小田啓佑: 植物由来エクソソームライブラリー作成と対応する microRNA データベースの構築
日本薬学会第 145 年会、(福岡、マリンメッセ福岡)、2025 年 3 月 27 日
6. 築宏太、高倉英樹、中尾俊雅、成田匠、堀中真野、中尾-伊勢由佳子、山本哲志、飯泉陽介、渡邊元樹、曾和義広、酒井敏行、武藤倫弘、小田啓祐: 大腸癌予防食品開発を目指した植物由来エクソソーム様ナノ小胞と mTOR 阻害作用との相互作用の解明
日本薬学会第 145 年会、(福岡、マリンメッセ福岡)、2025 年 3 月 27 日
7. 松本彩歌、高倉英樹、中尾-伊勢由佳子、山本哲志、小田啓祐: フルボキサミンの抗腫瘍効果に着目した MEK 阻害薬の膵臓癌治療への応用
日本薬学会第 145 年会、(福岡、マリンメッセ福岡)、2025 年 3 月 27 日
8. 荒瀬百花、安田寿乃、高倉英樹、山本哲志、小田啓祐: ローズウッド精油の新規化粧品材料としての可能性の検討
日本薬学会第 145 年会、(福岡、マリンメッセ福岡)、2025 年 3 月 27 日
9. 山本哲志、吹田晴香、西澤璃咲、三田村邦子、多賀淳: キャピラリー電液泳動による細胞分析法の血中循環腫瘍細胞検出への応用
第 9 回 Liquid Biopsy 研究会、(東京、京王プラザホテル)、2025 年 2 月 7 日
10. 朴将源、山本哲志、多賀淳: ショットガンプロテオミクス解析に基づく膵がん診断のためのバイオマーカー候補の検討
第 2 回 がんプロ研究シンポジウム、(大阪、オービックホール)、2025 年 2 月 1 日
11. Yamamoto T, Boku S, Mitamura K, Taga A: Investigation of biomarker candidate for pancreatic cancer diagnosis based on shotgun proteomic analysis.
APA/JPS/CAP/IAP 2024 Joint Meeting (アメリカ合衆国、ハワイ)、2024 年 12 月 11 日
12. Yamamoto T, Fukita H, Nishizawa R, Mitamura K, Taga A: Development of novel circulating tumor cell detection method using capillary electrophoresis.
第 83 回日本癌学会学術総会 (福岡、マリンメッセ福岡)、2024 年 9 月 21 日

[教育・社会活動]

1. 奈良県保健研究センター及び奈良県景観・環境総合センター調査研究評価委員 委員長

病態薬理学研究室

職・氏名・学位

教 授・川畑 篤史・博士(薬学) 担当科目：近大ゼミ(1)、分子薬理学(医 2、創 2)、病態薬理学 1(医 2、創 2)、薬効薬物動態解析学実習(医 3、創 3 分担)
Atsufumi Kawabata

所属学会：日本薬学会、日本薬理学会、日本疼痛学会、日本神経科学学会、日本神経化学学会、日本神経精神薬理学会、Society for Neuroscience（北米神経科学学会）、International Association for the Study of Pain（国際疼痛学会）

准教授・関口 富美子・博士(薬学) 担当科目：近大ゼミ(1)、神経病態薬理学(医 2、創 2)、薬効薬物動態解析学実習(医 3、創 3 分担)
Fumiko Sekiguchi

所属学会：日本薬学会、日本薬理学会、日本平滑筋学会、日本疼痛学会、日本神経科学学会、日本神経精神薬理学会、Society for Neuroscience（北米神経科学学会）、International Association for the Study of Pain（国際疼痛学会）

講 師・坪田 真帆・博士(薬学) 担当科目：近大ゼミ(1)、病態薬理学 2(医 3、創 3)、薬効薬物動態解析学実習(医 3、創 3 分担)
Maho Tsubota

所属学会：日本薬学会、日本薬理学会、日本疼痛学会、日本神経科学学会、日本神経精神薬理学会、Society for Neuroscience（北米神経科学学会）、International Association for the Study of Pain（国際疼痛学会）

現在行われている主な研究テーマ

1. 生体内硫化水素（H₂S）の分子機能と病態への関与に関する研究
2. Ca_v3.2 T 型カルシウムチャネルを標的とした創薬研究
3. 核内タンパク HMGB1 とその標的分子に関する創薬研究
4. 疼痛情報伝達の分子メカニズム解析と新規鎮痛薬の開発
5. 掻痒情報伝達の分子メカニズム解析と抗掻痒薬の開発

研究業績

[原著論文]

1. Tsubota M, Sasaki K, Shin E, Okamura Y, Nishimura A, Yamagata A, Nonaka Y, Sekiguchi F, Tomono Y, Nishibori M, Okada T, Toyooka N, Atsufumi Kawabata A : HMGB1 derived from macrophages and enteric glial cells contributes to the butyrate-induced colonic hypersensitivity in mice.
Eur. J. Pharmacol., in press.
2. Tsubota M, Iba Y, Hatakeyama T, Honda M, Kasanami Y, Sekiguchi F, Kawase A, Okada T, Naoki Toyooka, Atsufumi Kawabata A : Involvement of Ca_v3.2 T-type Ca²⁺ channels and cystathionine-β-synthase in colitis-related visceral hypersensitivity in mice.
J. Pharmacol. Sci., **156**(4), 209-213, 2024 年 12 月
3. Hayashi T, Miyamoto T, Iwane S, Fujitani M, Uchitani K, Koizumi Y, Hirata A, Kinoshita H, Kawabata A : Opposing impact of hypertension/diabetes following hormone therapy initiation and preexisting statins on castration resistant progression of nonmetastatic prostate cancer: a multicenter study.
Sci. Rep., **14**(1), 23119-23119, 2024 年 10 月
4. Iwane S, Nemoto W, Miyamoto T, Hayashi T, Tanaka M, Uchitani K, Muranaka T, Fujitani M, Koizumi Y, Atsushi Hirata, Maho Tsubota, Fumiko Sekiguchi, Koichi Tan-No, Atsufumi Kawabata : Clinical and preclinical evidence that angiotensin-converting enzyme inhibitors and angiotensin receptor blockers prevent diabetic peripheral neuropathy.
Sci. Rep., **14**(1), 1039-1039, 2024 年 1 月

[学会・シンポジウム]

1. 三井鈴華、岸本彩野、坪田真帆、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：線維筋痛症モデルマウスにおける HMGB1 の役割と血小板の挙動について
日本薬学会第 145 年会（福岡）、2025 年 3 月 27-30 日
2. 大東麻哉、坪田真帆、中野遥、佐久間海地、市川美咲、弘田量也、岩根詩織、関口富美子、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：2 型糖尿病マウスの有痛性末梢神経障害発症における血小板-白血球複合体の役割：細胞外 HMGB1 供給源としての可能性と坐骨神経への浸潤
日本薬学会第 145 年会（福岡）、2025 年 3 月 27-30 日
3. 倉橋翔太郎、宮本朋佳、山口真希、山本卓資、榊原幹夫、川畑篤史：女性患者における外用ステロイド剤の処方頻度に及ぼすエストロゲン抑制薬の影響：外来処方レセプトデータを用いた解析
日本薬学会第 145 年会（福岡）、2025 年 3 月 27-30 日
4. 関口富美子、迫 桃子、青木葉優衣、谷津健太、角川志帆、坪田真帆、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：Vincristine 誘発末梢神経障害へのマクロファージおよび Schwann 細胞由来 HMGB1 の関与と局所凝固系活性化の意義
日本薬学会第 145 年会（福岡）、2025 年 3 月 27-30 日
5. 淡島秀太、谷滉太、岩狭和弘、宮本朋佳、川畑篤史、桂木聡子：糖尿病患者における末梢神経障害に及ぼす抗凝固薬の影響：JADER および FAERS を用いた解析
日本薬学会第 145 年会（福岡）、2025 年 3 月 27-30 日
6. 川畑篤史：難治性疼痛原因物質としての末梢 HMGB1 の役割と由来
APPW2025（第 130 回日本解剖学会・第 102 回日本生理学会・第 98 回日本薬理学会 合同大会）（千葉）、2025 年 3 月 14-19 日
7. 川畑篤史：体性感覚神経系に作用する薬の作用機序
APPW2025（第 130 回日本解剖学会・第 102 回日本生理学会・第 98 回日本薬理学会 合同大会）（千葉）、2025 年 3 月 14-19 日
8. 関口富美子、坂本結菜、南郷優希、笠波嘉人、田邊元三、川畑篤史：徐放性 H₂S 供与体 GYY4137 と硫化剤 Lawesson 試薬による Ca_v3.2 T 型 Ca²⁺チャネル活性の緩徐な抑制：サルファイドにより誘起される迅速で顕著な Ca_v3.2 活性亢進との違いについて
APPW2025（第 130 回日本解剖学会・第 102 回日本生理学会・第 98 回日本薬理学会 合同大会）（千葉）、2025 年 3 月 14-19 日
9. 坪田真帆、三井鈴華、岸本彩野、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：線維筋痛症の病態への HMGB1 の関与：反復寒冷ストレスまたは酸性生理食塩水片足筋注マウスモデルを用いた解析
APPW2025（第 130 回日本解剖学会・第 102 回日本生理学会・第 98 回日本薬理学会 合同大会）（千葉）、2025 年 3 月 14-19 日
10. 宮本朋佳、岩根詩織、坪田真帆、関口富美子、桂木聡子、川畑篤史：オキサリプラチン投与期間中に動脈血栓を発症した患者の化学療法誘発性末梢神経障害に対する抗血小板薬の予防効果：リアルワールドデータ解析から得られた知見
APPW2025（第 130 回日本解剖学会・第 102 回日本生理学会・第 98 回日本薬理学会 合同大会）（千葉）、2025 年 3 月 14-19 日
11. 関口富美子、坂本結菜、南郷優希、笠波嘉人、田邊元三、川畑篤史：徐放性 H₂S 供与体 GYY4137 および硫化剤 Lawesson's reagent は Na₂S による Ca_v3.2 T 型 Ca²⁺チャネル機能亢進効果を再現できない
第 146 回日本薬理学会近畿部会（京都）、2024 年 11 月 30 日
12. 坪田真帆、大東麻哉、圓尾賢悟、佐久間海地、岩根詩織、関口富美子、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：2 型糖尿病に伴う有痛性末梢神経障害の発症における HMGB1 の役割と起源：血小板の関与と白血球-血小板複合体形成の意義について
第 146 回日本薬理学会近畿部会（京都）、2024 年 11 月 30 日
13. 三井鈴華、岸本彩野、坪田真帆、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：HMGB1 は線維筋痛症の発症・維持に関

与する

第 146 回日本薬理学会近畿部会（京都）、2024 年 11 月 30 日

14. 森田華帆、大城こころ、南郷優希、増田寛志、笠波嘉人、関口富美子、川畑篤史：Ca_v3.2 T 型 Ca²⁺チャネル活性のサルファイドによる上昇とポリサルファイドによる低下：亜鉛と酸素の影響
第 146 回日本薬理学会近畿部会（京都）、2024 年 11 月 30 日
15. 関口富美子：神経ブロックに頻用される局所麻酔薬の薬理学的特徴
第 46 回日本疼痛学会（東京）、2024 年 11 月 16-17 日
16. 川畑篤史：臨床・基礎双方向性トランスレーショナルリサーチ戦略
第 34 回日本医療薬学会年会（幕張）、2024 年 11 月 2-4 日
17. 川畑篤史：硫化水素との相互作用を介した難治性疼痛の治療
第 1 回アサイゲルマニウム研究会（函館）、2024 年 10 月 25 日
18. 大東麻哉、坪田真帆、圓尾賢悟、佐久間海地、岩根詩織、関口富美子、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：高脂肪食摂取 2 型糖尿病マウスにおける有痛性末梢神経障害への血小板由来 HMGB1 の関与 ―好中球・血小板複合体形成の意義について―
第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会（西宮）、2024 年 10 月 5 日
19. 倉橋翔太郎、宮本朋佳、山口真希、山本卓資、榊原幹夫、川畑 篤史：エストロゲン抑制薬服用患者における外用鎮痒薬と内服鎮痛薬の処方動向に関する保険薬局レセプトデータを用いた解析 ―エストロゲンと痒み・痛みの関係について―
第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会（西宮）、2024 年 10 月 5 日
20. 大城こころ、森田華帆、関口富美子、南郷優希、増田寛志、笠波嘉人、川畑篤史：サルファイドの Ca_v3.2 T 型 Ca²⁺チャネル機能亢進作用におよぼす細胞外亜鉛濃度と酸素濃度の影響：ポリサルファイド化による活性消失
第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会（西宮）、2024 年 10 月 5 日
21. 陸 安傑、関口富美子、南郷優希、笠波嘉人、川畑篤史：チオール基含有医薬品は亜鉛存在下においてサルファイドと同様の Ca_v3.2 T 型 Ca²⁺チャネル機能亢進作用を示す
第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会（西宮）、2024 年 10 月 5 日
22. 弘田量也、坪田真帆、佐久間海地、岩根詩織、関口富美子、友野靖子、西堀正洋、岡田卓哉、豊岡尚樹、川畑篤史：高脂肪食摂取による 2 型糖尿病モデルマウスにおける有痛性末梢神経障害への HMGB1 標的分子 RAGE および TLR4 の関与
第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会（西宮）、2024 年 10 月 5 日
23. 坪田真帆、佐々木花菜、Shin Eunkyung、西村彩花、山縣歩夢、関口富美子、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：Butyrate 誘起過敏性腸症候群に伴う結腸痛の発現にはマクロファージおよび腸管グリア細胞由来 HMGB1 および補体 C5a が関与する
次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム 2024（台風のためオンライン開催）、2024 年 8 月 31 日
24. 三井鈴華、岸本彩野、坪田真帆、友野靖子、西堀正洋、川畑篤史：線維筋痛症の発症・維持における HMGB1 の役割：治療標的分子としての可能性
生体機能と創薬シンポジウム 2024（京都）、2024 年 8 月 29-30 日
25. 森田華帆、大城こころ、南郷優希、増田寛志、笠波嘉人、関口富美子、川畑篤史：Ca_v3.2 T 型 Ca²⁺チャネル依存性電流に対するサルファイドとポリサルファイドの効果の違い：細胞外亜鉛濃度と酸素濃度の影響。
生体機能と創薬シンポジウム 2024（京都）、2024 年 8 月 29-30 日
26. 宮本朋佳、中村豪志、坪田真帆、関口富美子、木村 健、桂木聡子、川畑篤史：トロンビン活性・産生能低下による化学療法誘発性末梢神経障害の増悪：臨床データ解析による基礎研究知見の検証。
第 145 回日本薬理学会近畿部会（広島）、2024 年 7 月 6 日

27. 川畑篤史：化学療法誘発性末梢神経障害の発症メカニズムとリスク因子の解析。
第 51 回日本毒性学会学術年会（福岡）、2024 年 7 月 3-5 日
28. Maho Tsubota, Ayano Kanto, Shiori Hiramoto, Fumiko Sekiguchi, Yasuko Tomono, Masahiro Nishibori, Atsufumi Kawabata : Mechanisms underlying estrogen protection against paclitaxel-induced peripheral neuropathy: modulation of upstream and downstream signals of high mobility group box 1.
FENS Forum 2024 (Vienna), 2024 年 6 月 25-29 日
29. Fumiko Sekiguchi, Yui Aokiba, Kenta Yatsu, Momoko Sako, Maho Tsubota, Yasuko Tomono, Masahiro Nishibori, Atsufumi Kawabata : Chemotherapy-induced peripheral neuropathy caused by vincristine involves high mobility group box 1 (HMGB1) released from macrophages and Schwann cells.
FENS Forum 2024 (Vienna), 2024 年 6 月 25-29 日

[外部助成]

1. 川畑篤史（代表）：血栓止血系分子と HMGB1 の相互干渉による疼痛制御のメカニズムと臨床的意義の解明
令和 3-5 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）
2. 関口富美子（代表）：シュワン細胞における血液凝固系因子の発現変化と神経障害性疼痛の関係
令和 5-7 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）

[報償等]

1. 大東麻哉：第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 優秀賞（口頭発表）
第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会（西宮） 2024 年 10 月 5 日

[教育・社会活動]

1. 川畑篤史：日本薬理学会評議員
1994 年 4 月～
2. 川畑篤史：日本疼痛学会評議員
2000 年 4 月～
3. 関口富美子：日本薬理学会評議員
2002 年 4 月～
4. 関口富美子：日本平滑筋学会評議員
2002 年 4 月～
5. 坪田真帆：日本薬理学会評議員
2015 年 4 月～
6. 坪田真帆：日本薬学会薬理系薬学部会 若手世話人
2013 年 4 月～
7. 坪田真帆：日本薬理学会次世代の会 運営委員
2021 年 4 月～
8. 坪田真帆：Pain Res 誌投稿推進委員会 委員
2024 年 4 月～

薬物治療学研究室

職・氏名・学位

教授・竹内 雄一・博士(理学)
Yuichi Takeuchi

担当科目：薬学概論（医 1 分担）、近大ゼミ(1)、疾患と薬物治療法 1（医 3）、疾患と薬物治療法 2（医 3）、疾患と薬物治療法 3（医 4）、総合演習 1（医 4 分担）、総合演習 2（医 6 分担）、薬効薬物動態解析実習（医 3、創 3 分担）、疾患の検査診断学（創 2）、疾患の検査と治療法 1（創 3）、疾患の検査と治療法 2（創 3）、病理学（創 3）

所属学会：日本薬理学会、日本神経科学会、日本生理学会、北米神経科学学会、日本神経回路学会、日本薬学会

講師・武田 朋也・博士(薬学)
Tomoya Takeda

担当科目：近大ゼミ(1)、基礎生物学(1 分担)、生物学入門(1 分担)、薬効薬物動態解析実習（医 3、創 3 分担）、臨床薬学英语（医 2）

所属学会：日本薬学会、日本がん分子標的治療学会、日本癌学会、日本がん転移学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 脳活動操作による神経・精神疾患の制御
2. 新しい非侵襲的脳刺激法の研究開発
3. 自律神経系の操作による疾患制御法の研究開発
4. 適切な行動選択の神経基盤
5. 神経回路ダイナミクスの大規模シミュレーション

研究業績

[原著論文]

1. Matsushita Y, Yoshida K, Yoshiya M, Shimizu T, Tsukamoto S, Kudo N, Takeuchi Y, Higuchi M, Shimojo M: TRPC6 is a mechanosensitive channel essential for ultrasound neuromodulation in mammalian brain. *Proc. Natl. Acad. Sci. U S A*, **121**: e2404877121. 2024 年 12 月 3 日
2. Ishimoto T, Abe T, Nakamura Y, Tsuyama T, Kondoh K, Kajitani N, Yoshida K, Takeuchi Y, Kato KX, Xu S, Koduki M, Ichimura M, Itoi T, Shimba K, Yamaguchi Y, Minami M, Koike S, Kasai K, Ye JJ, Takebayashi M, Yamagata K, Toda C: Chronic social defeat causes dysregulation of systemic glucose metabolism via the cerebellar fastigial nucleus. *bioRxiv* 2025.02.18.638938. DOI: <https://doi.org/10.1101/2025.02.18.638938>

[著書]

1. Chan M, Yoshida K, Yang G, Mimura T, Li Q, Kudo N, Takeuchi Y: Time-targeted intervention of brain oscillations with transcranial ultrasound irradiation. *Time-targeted intervention of brain oscillations with transcranial ultrasound irradiation*. *Neuromethods*, Springer Nature, London, *in press*
2. 吉田楓, Michele Chan, Gangsheng Yang, 工藤信樹, 竹内雄一: 超音波ニューロモデュレーション法の研究開発、超音波テクノ. 日本工業出版、*in press*
3. 竹内雄一: 時間標的脳深部刺激法による神経・精神疾患の制御法開発、ブレインサイエンスレビュー 2025. pp. 127-142、北隆館、2025 年 4 月
4. 吉田楓, 原巧樹, 竹内雄一: 閉ループ制御と非侵襲的脳刺激技術による新規てんかん制御法の研究開発、てんかん研究最前線. pp. 82-85、北隆館、2025 年 4 月

[その他の刊行物]

1. 川岸裕幸, 竹内雄一: 韓国薬学会会議派遣報告 -2024 Fall International Convention of the Pharmaceutical Society of Korea-
ファルマシア **61**(4), 346-347, 2025 年 4 月 1 日
2. 竹内雄一: 転出のご挨拶
芳香 **74**, 8-9, 2025 年 3 月 25 日
3. 竹内雄一: AWARDS : 神経・精神疾患の制御を目的とした新規脳刺激技術の研究開発
日本生理学雑誌 **86**(3), 46-46, 2024 年 7 月
4. 竹内雄一: 脳・神経系疾患の新規制御法開発と人材育成
近畿大学薬友会報, 2024 年 4 月

[学会・シンポジウム]

1. Chan M, Minami M, Takeuchi Y: Chemogenetic inhibition of the prefrontal cortex induces impulsive decision-making in Long-Evans rats
日本神経科学学会 NEURO2024、2024 年 7 月 26 日
2. 原巧樹、南雅文、竹内雄一: 時間特異的報酬系脳領域刺激による認知機能の向上。
日本薬学会北海道支部第 151 回支部例会 (札幌) 2024 年 7 月 7 日
3. Yoshida K, Kudo N, Minami M, Takeuchi Y: Bacterial mechano-sensitive channels effectively enhance neural responses to transcranial ultrasound irradiation in the cerebral cortex of anesthetized mice.
NEURO2024(福岡)、2024 年 7 月 24 日
4. Matsushita Y, Yoshida K, Yoshiya M, Shimizu T, Tsukamoto S, Takeuchi Y, Shimojo M, Higuchi M: Intrinsic neuronal responses to ultrasound irradiation via the mechanosensitive channel in cultured mouse cortical neurons.
NEURO2024(福岡)、2024 年 7 月 24 日
5. Chan M, Minami M, Takeuchi Y: Chemogenetic inhibition of the prefrontal cortex induces impulsive decision-making in Long-Evans rats.
NEURO2024(福岡)、2024 年 7 月 24 日
6. Shimojo M, Matsushita Y, Yoshida K, Yoshiya M, Shimizu T, Tsukamoto S, Takeuchi Y, Higuchi M: Ultrasound induces network excitation of mouse cortical neurons.
NEURO2024(福岡)、2024 年 7 月 24 日
7. Takeuchi Y: TRPC6 is a mechanosensitive channel essential for ultrasound neuromodulation in mammalian brain
Gordon Research Conference: In Vivo Ultrasound Imaging 2024 (Waterville valley, U.S.A)、2024 年 8 月 25 日
8. Takeuchi Y: Limbic gamma oscillation maintains positive mood.
The 58th Annual Meeting of the Japanese Association for the Study of Taste and Smell. (岡山)、2024 年 9 月 11 日
9. 松下有美、吉田楓、吉屋美雪、清水敬紘、塚本智史、竹内雄一、樋口真人、下條雅文: マウス大脳神経細胞における TRPC6 を介した超音波ニューロモデュレーション、
第 167 回日本獣医学会学術集会 (帯広) 2024 年 9 月 12 日
10. Yoshida K, Kudo N, Minami M, Takeuchi Y: Bacterial mechano-sensitive channels effectively enhance neural responses to transcranial ultrasound irradiation in the cerebral cortex of anesthetized mice.
The NIPS Learning & Memory meeting 2024. (岡崎) 2024 年 9 月 17 日
11. Takeuchi Y: Research and development of novel brain stimulation technologies for controlling neurological and psychiatric disorders.
The NIPS Synapse Meeting 2024. (岡崎) 2024 年 11 月 14 日

12. Takeuchi Y: Research and development of novel brain stimulation technologies for controlling neurological and psychiatric disorders.
2024 Fall International Convention of The Pharmaceutical Society of Korea. (Seoul, Korea) 2024 年 10 月 22 日
13. Xu Y, Minami M, Takeuchi Y: A Precise control of heart rate to a given setpoint by closed-loop transcranial ultrasound irradiation to the medulla cardiovascular center in anesthetized rats.
6th International Brain Stimulation Conference (神戸) 2025 年 2 月 4 日
14. Takeuchi Y: Research and development of novel brain stimulation technologies for controlling neurological and psychiatric disorders.
QP45 & QBIC2025 International Joint Workshop (千葉) 2025 年 3 月 7 日
15. Yang G, Kudo N, Minami M, Takeuchi Y: A sonogenetic neuromodulation technology in a deep brain region in anesthetized rats.
APPW 2025 (千葉) 2025 年 3 月 19 日
16. Zhao F, Kudo N, Minami M, Takeuchi Y: Human will-driven external control of heart rate in anesthetized rats via closed-loop transcranial ultrasound irradiation to the medulla cardiovascular center.
APPW 2025 (千葉) 2025 年 3 月 19 日

[研究報告書]

1. 竹内雄一(代表): 脳-計算機-超音波閉ループによるてんかん発作の実時間制御
令和 6 年度 カシオ科学振興財団 研究助成成果報告
2. 竹内雄一(代表): 超音波遺伝学と工学の融合による新しい非侵襲的脳刺激法の開発
旭硝子財団 助成研究成果報告 (2024)

[外部助成]

1. 竹内雄一(代表): 経頭蓋脳深部刺激による発作感受性消去
令和 5 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (B)
2. 竹内雄一(代表): 経頭蓋遺伝子操作法の研究開発
令和 5 年度 文部科学省科学研究費補助金 挑戦的研究 (萌芽)
3. 竹内雄一(代表): 冬眠様低代謝状態を可能にする遺伝的条件の高効率探索法
令和 6 年度 文部科学省科学研究費補助金 学術変革領域研究 (A)
4. 竹内雄一(分担): クローズドループ刺激による非侵襲的 Deep Brain リハビリテーションの創生
令和 5 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (A)
5. 竹内雄一(分担): 周期的脳活動に着目した痛みの慢性化機構の解明と慢性疼痛緩和療法の開発への応用
令和 6 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (B)
6. 竹内雄一(代表): 超音波センシングによる非侵襲的かつ時空間特異的な内臓機能の精密制御
令和 4 年度 AMED Prime
7. 竹内雄一(分担): 病気につながる血管周囲の微小炎症を標的とする量子技術、ニューロモデュレーション医療による未病時治療法の開発
令和 3 年度 AMED ムーンショット型研究開発事業
8. 竹内雄一(代表): 経頭蓋脳深部刺激による発作感受性消去
令和 6 年度 小野薬品がん・免疫・神経研究財団 研究助成金
9. 竹内雄一(代表): 非侵襲的脳深部刺激法による食の喜び回復法
令和 6 年度 ロッテ財団 奨励研究助成
10. 竹内雄一(代表): 経頭蓋脳深部刺激によるてんかん根治療法の創出
令和 6 年度 上原記念生命科学財団 研究推進特別奨励金

11. 竹内雄一(代表): 非侵襲的脳深部刺激によるうつ病の制御
令和6年度 寿原記念財団 研究助成
12. 竹内雄一(代表): 非侵襲的脳深部刺激によるうつ病の制御
令和6年度 アステラス病態代謝研究会 研究助成
13. 竹内雄一(代表): 経頭蓋脳深部刺激法によるてんかん発作の制御
令和6年度 鈴木謙三記念医科学応用研究財団 調査研究助成
14. 竹内雄一(代表): 経頭蓋脳深部刺激によるうつ病制御法の開発
令和6年度 先進医薬研究振興財団 精神薬療分野助成
15. 竹内雄一(代表): 経頭蓋脳深部刺激によるうつ病制御法の開発
令和5年度 カシオ科学振興財団 研究助成
16. 竹内雄一(代表): 超音波ニューロモデュレーションによる発作感受性の消去
令和5年度 てんかん治療研究振興財団 研究助成
17. 竹内雄一(代表): 発作感受性消去によるてんかん根治療法の開発
令和5年度 島津科学技術振興財団 研究開発助成
18. 武田朋也(代表): 骨微小環境に着目したトリプルネガティブ乳癌の骨転移機序の解明及び治療法の開発
令和5年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
19. 武田朋也(代表): 肺微小環境に着目した骨肉腫の肺転移に対する新規治療法の開発
令和6年度 認定 NPO 法人ゴールドリボン・ネットワーク 2024年度ゴールドリボン研究助成
20. 武田朋也(代表): トリプルネガティブ乳癌の骨転移における CCL1-CCR8 経路の機能解析
令和6年度 大阪対がん協会 がん研究助成奨励金
21. 武田朋也(代表): 骨微小環境を標的としたトリプルネガティブ乳癌の骨転移治療薬の開発
令和5年度 横山臨床薬理研究助成基金 一般研究助成

[報償等]

1. 原巧樹: 日本薬学会北海道支部第151回例会学生優秀発表賞受賞
日本薬学会北海道支部(札幌) 2024年7月7日

[教育・社会活動]

1. 竹内雄一: 日本生理学会 評議員
2020年3月～
2. 竹内雄一: Frontiers in Human Neuroscience ゲスト編集委員
2020年11月～
3. 竹内雄一: 日本薬理学会 学術評議員
2021年3月～
4. 竹内雄一: Frontiers in Behavioral Neuroscience レビュー編集委員
2023年5月～
5. 竹内雄一: 国際生理学会連合 国際メンタリングプログラム メンター
2023年11月～
6. 竹内雄一: 北海道大学大学院薬学研究院 客員教授
2024年4月～

7. 竹内雄一: 北海道大学大学院薬学研究院 招へい教員

2024 年 4 月～

薬物動態学研究室

職・氏名・学位

教 授・櫻井 文教・博士(薬学)
Fuminori Sakurai

担当科目：薬物動態学 1(医 3), 薬物動態学 2(医 3), 総合演習 1(医 4), 総合演習 2(医 6), 総合薬学研究 1(医 3), 総合薬学研究 2(医 4), 総合薬学研究 3(医 4~6), 臨床薬学実務実習(医 4~5), 薬効薬物動態解析実習(医 3 分担), 近大ゼミ(1), 創薬科学実習 4(創 3 分担), 卒業研究(創 3~4)

所属学会：日本薬剤学会、日本薬物動態学会、日本核酸医薬学会、日本遺伝子細胞治療学会、日本薬学会、日本 DDS 学会、日本癌学会、日本ウイルス学会

准教授・川瀬 篤史・博士(薬学)
Atsushi Kawase

担当科目：臨床薬物動態学(医 3), 総合演習 1(医 4), 総合演習 2(医 6), 総合薬学研究 1(医 3), 総合薬学研究 2(医 4), 総合薬学研究 3(医 4~6), 臨床薬学実務実習(医 4~5), 薬効薬物動態解析実習(医 3 分担), 近大ゼミ(1), 創薬科学実習 4(創 3 分担), 卒業研究(創 3~4)

所属学会：American Society for Pharmacology and Experimental Therapeutics、日本薬学会、日本薬物動態学会、日本薬剤学会、日本毒性学会

講 師・島田 紘明・博士(薬学)
Hiroaki Shimada

担当科目：薬物動態学(創 3), 薬学専門英語(創 3), 総合演習 2(医 6), 総合薬学研究 1(医 3), 総合薬学研究 2(医 4), 総合薬学研究 3(医 4~6), 臨床薬学実務実習(医 4~5), 薬効薬物動態解析実習(医 3), 近大ゼミ(1), 創薬科学実習 4(創 3 分担), 卒業研究(創 3~4)

所属学会：日本薬学会、日本薬物動態学会、日本脂質生化学会、日本生薬学会、日本薬剤学会、日本毒性学会、日本免疫毒性学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 腫瘍溶解性ウイルスによる Damage-associated molecule patterns の放出
2. 腫瘍溶解性ウイルスによる PGE2 産生
3. 腫瘍溶解性ウイルスの Epithelial-mesenchymal transition (EMT)を起こしたがん細胞に対する殺細胞効果
4. レオウイルスは併用薬の体内動態決定因子にどのように影響するのか？
5. マイクロプラスチックが薬物代謝酵素・トランスポーターに及ぼす影響
6. 肝臓内の PGE2 動態制御による肝細胞への PGE2 の効率的送達

研究業績

[原著論文]

1. Onishi R, Ikemoto S, Shiota A, Tsukamoto, Asayama A, Tachibana M, Sakurai F, Mizuguchi H: Development of a novel adenovirus serotype 35 vector vaccine possessing an RGD peptide in the fiber knob and the E4 orf 4, 6, and 6/7 regions of adenovirus serotype 5
Int J Pharm, **662**, 124480, 2024 年 7 月
2. Shimada H, Yokotobi A, Yamamoto N, Takada M, Kawase A, Nakanishi T, Iwaki M: Inhibition of 15-prostaglandin dehydrogenase attenuates acetaminophen-induced liver injury via suppression of apoptosis in liver endothelial cells
Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids, **202**, 102640, 2024 年 8 月
3. Shuwari N, Inoue C, Ishigami I, Jingushi K, Kamiya M, Kawakami S, Tsujikawa K, Tachibana M, Mizuguchi H, Sakurai F: Small extracellular vesicles carrying reovirus, tumor antigens, interferon- β , and damage-associated molecular patterns for efficient tumor treatment
J Control Release, **374**, 89-102, 2024 年 10 月
4. Sakurai F, Iizuka S, Tsukamoto T, Shiota A, Shimizu K, Ohashi K, Mizuguchi H: Transplacental delivery of

factor IX Fc-fusion protein ameliorates bleeding phenotype of newborn hemophilia B mice

J Control Release, **374**, 415-424, 2024 年 10 月

5. Tsubota M, Iba Y, Hatakeyama T, Honda M, Kasanami Y, Sekiguchi F, Kawase A, Okada T, Toyooka N, Kawabata A: Involvement of Cav3.2 T-type Ca²⁺ channels and cystathionine- β -synthase in colitis-related visceral hypersensitivity in mice

J Pharmacol Sci, **156**, 209-213, 2024 年 12 月

6. Tsukamoto T, Mizuta H, Sakai E, Sakurai F, Mizuguchi H: Evaluation of the correlation between nuclear localization levels and genome editing efficiencies of Cas12a fused with nuclear localization signals

J Pharm Sci, **114**, 841-848, 2025 年 2 月

7. Shimada H, Ikuta H, Hashimoto Y, Yabuuchi Y, Kawase A, Matzno S, Iwaki M: Enzymatic hydrolysis of acyl glucuronide metabolites in human liver microsomes correlates to the risk of idiosyncratic drug toxicity

J Pharm Sci, **114**, 1307-1314, 2025 年 2 月

[学会・シンポジウム]

1. 島田紘明、橋本悠、生田博之、松野純男、川瀬篤史: ヒト肝ミクロソーム中アシルグルクロン酸抱合体加水分解活性による特異体質性薬物毒性リスクの予測

日本薬学会第 39 年会 (兵庫)、2024 年 5 月

2. 櫻井文教: レオウイルスによるがん微小環境の変化

第 30 回日本遺伝子細胞治療学会学術集会 (横浜)、2024 年 7 月

3. 島田紘明、萬瀬貴昭、森川敏生、上野省一、岩城正宏: タラヨウ葉抽出エキスによる食後血糖上昇抑制作用

日本生薬学会第 70 回年会 (大阪)、2024 年 9 月

4. 島田紘明、横飛暉斗、川瀬篤史、櫻井文教: Study of the effect of 15-hydroxyprostaglandin dehydrogenase inhibition on acetaminophen-induced acute liver injury

第 31 回日本免疫毒性学会学術年会 (兵庫)、2024 年 9 月

5. 薮内優介、島田紘明、竹田祐佳、川瀬篤史、櫻井文教: プロスタグランジンの肝内動態における有機アニオントランスポーターOATP2A1 の役割

第 74 回日本薬学会関西支部 (兵庫)、2024 年 10 月

6. 島田紘明、横飛暉斗、高田万桜、川瀬篤史、櫻井文教: プロスタグランジン不活化酵素 15-PGDH 阻害によるアセトアミノフェン誘発性急性肝障害の抑制

第 74 回日本薬学会関西支部 (兵庫)、2024 年 10 月

7. 櫻井文教: 薬剤師が知っておくべき遺伝子治療薬の特徴

第 34 回日本医療薬学会年会 (千葉)、2024 年 11 月

8. 石神育歩、種昂なお実、井上智恵子、水口裕之、櫻井文教: 腫瘍溶解性ウイルスであるレオウイルス感染細胞から分泌される細胞外小胞の抗腫瘍効果

第 47 回日本分子生物学会年会 (福岡)、2024 年 11 月

9. 川瀬篤史、島田紘明、櫻井文教: 薬物性肝障害リスクと反応性代謝物アシルグルクロニドとの関連

日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月

10. 寶彦欽、川瀬篤史、大上匠矢、島田紘明、櫻井文教: 腫瘍溶解性ウイルスであるレオウイルスが肝代謝酵素およびトランスポーターに与える影響

日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月

11. 島田紘明、竹田祐佳、薮内優介、川瀬篤史、櫻井文教: 肝臓におけるエイコサノイド生成の実態

日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月

12. 薮内 優介、島田 紘明、竹田 祐佳、川瀬 篤史、櫻井 文教: 肝臓でのプロスタグランジン E₂ の消失における有機アニオントランスポーターOATP2A1 の役割

日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月

13. 橋本悠、島田紘明、川瀬篤史、櫻井文教: 安息香酸構造を有する化合物のアシルグルクロン酸抱合体のヒト肝ミクロソーム中加水分解に対する置換基の影響

日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月

14. 前田湧斗、江口真帆、石神育歩、種昂なお実、立花雅史、島田紘明、川瀬篤史、石井健、水口裕之、櫻井文教: 腫瘍溶解性ウイルスであるレオウイルスによる Damage-associated molecular patterns の放出に関する検討

日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月

15. 櫻井文教: 腫瘍溶解性ウイルスによる抗腫瘍効果における細胞外小胞の役割

日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月

[外部助成]

1. 櫻井文教(代表): 腫瘍溶解性ウイルスを用いた人工受容体のがん特異的発現による高効率ターゲティング
令和 6 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(A)

2. 櫻井文教(分担): 難治性がん治療用デザイナー細菌の開発
令和 2 年度 文部科学省科学研究費補助金: 基盤研究(B)

3. 櫻井文教(分担): 蛍光蛋白導入レオウイルスを用いた診断治療一体型 Oncolytic Virotherapy の開発
令和 4 年度 文部科学省科学研究費補助金: 基盤研究(B)

4. 櫻井文教(分担): アデノ随伴ウイルスベクターを用いた遺伝子治療用製品の安全性評価法に関する研究
令和 6 年度 日本医療研究開発機構: 医薬品等規制調和・評価研究事業

5. 櫻井文教(代表): 肺および肝臓の線維化治療に向けた新規核酸医薬の開発
令和 6 年度 公益財団法人 喫煙科学研究財団 助成事業

6. 櫻井文教(代表): ウイルス製剤のドラッグ・リポジショニングによる肝線維化治療薬の開発
令和 6 年度 公益財団法人 武田科学振興財団 研究助成

7. 川瀬篤史 (代表): マイクロプラスチックが肝薬物代謝酵素に及ぼす影響の解析とその制御法の開発
令和 7 年度 公益財団法人 鈴木謙三記念医科学応用研究財団 研究助成金

[教育・社会活動]

1. 櫻井文教: 日本遺伝子細胞治療学会 若手ワーキンググループメンバー
2016 年 7 月～
2. 櫻井文教: 日本 DDS 学会 評議員
2017 年 8 月～
3. 櫻井文教: 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 専門調査員
2022 年 4 月～
4. 櫻井文教: 日本遺伝子細胞治療学会 評議員・幹事
2022 年 8 月～
5. 櫻井文教: 日本薬学会 Biol. Pharm. Bull 編集委員
2023 年 4 月～
6. 櫻井文教: 日本薬物動態学会 DIS 世話人
2025 年 1 月～
7. 櫻井文教: 日本薬剤学会第 41 年会 組織委員
2025 年 1 月～
8. 櫻井文教: 第 41 回日本 DDS 学会学術集会 プログラム委員
2025 年 1 月～

9. 川瀬篤史：トランスポーター研究会幹事
2008 年 4 月～
10. 川瀬篤史：日本毒性学会評議員
2023 年 4 月～
11. 島田紘明：Frontiers in Pharmacology, Drug Metabolism and Transport, Review Editor
2021 年 4 月～
12. 島田紘明：Frontiers in Pharmacology, Experimental Pharmacology and Drug Discovery, Review Editor
2021 年 4 月～

有機薬化学研究室

職・氏名・学位

教 授・田邊 元三・博士(薬学)
Genzoh Tanabe

担当科目：近大ゼミ(1)、有機化学 1 (医 1)、有機化学 2 (医 2)、生物有機化学 (医創 2)、基礎薬科学実習(1 分担)、有機化学・生薬学実習 (医創 2 分担)、創薬科学実習 1 (創 2 分担)

所属学会：日本薬学会

准教授・石川 文洋・博士(理学)
Fumihiko Ishikawa

担当科目：近大ゼミ(1)、有機化学 1 (創 1)、グローバル創薬科学演習 (創 2 分担)、基礎薬科学実習 (1 分担)、有機化学・生薬学実習 (医創 2 分担)、創薬科学実習 1 (創 2 分担)

所属学会：日本薬学会、日本化学会、日本ペプチド学会、日本ケミカルバイオロジー学会、アメリカ化学会、医薬化学部会、生体機能関連化学部会、生命化学研究会

講 師・高島 克輝・博士(工学)
Katsuki Takashima

担当科目：近大ゼミ(1)、有機化学 2 (創 2)、基礎薬科学実習(1 分担)、早期体験学習 (医)、有機化学・生薬学実習 (医創 2 分担)、創薬科学実習 (創 2 分担)

所属学会：日本薬学会、有機合成化学協会、生薬学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 伝承薬の近代科学的な解析を基盤にした天然物の構造活性相関研究
2. ヒトの体の動的な仕組みや病態メカニズムの研究とその進展を基盤にした創薬研究
3. 生物学的研究・ケミカルバイオロジー研究に利用できる新しい分子ツールや方法論の確立
4. 生合成系を活用したペプチド系化合物の合成研究および生合成系の機能解析研究
5. 細菌のタンパク質分解システムに関する研究

研究業績

[原著論文]

1. Ishikawa F, Uchida C, Ohnishi R, Imai T, Tanabe G. Degradation of Nonribosomal Peptide Synthetase Megasyntetases SrfAA and SrfAB by Acyldepsipeptide-activated ClpP in *Bacillus subtilis*.
ChemBiochem, e202500135, 2025 年 3 月
2. Ishikawa F, Takahashi K, Takaya A, Tanabe G, Homma M, Uchihashi T. Dynamic Oligomerization Processes of *Bacillus subtilis* ClpP Protease Induced by ADEP1 Studied with High-speed Atomic Force Microscopy.
ACS Omega, **10**, 7381-7388, 2025 年 2 月
3. Ishikawa F, Nohara M, Miyanaga A, Kuramoto S, Miyano N, Asamizu S, Kudo F, Onaka H, Eguchi T, Tanabe G. Biosynthetic Incorporation of Non-native Aryl Acid Building Blocks into Peptide Products Using Engineered Adenylation Domains.
ACS Chem. Biol., **19**, 2569-2579, 2024 年 12 月
4. Ishikawa F, Uchida C, Tanabe G. Proteolytic Regulation in the Biosynthesis of Natural Product via a ClpP Protease System.
ACS Chem. Biol., **19**, 1794-1802, 2024 年 8 月
5. Ishikawa F, Homma M, Tanabe G, Uchihashi T. Protein Degradation by a Component of Chaperonin-linked Protease ClpP.
Genes Cells, **29**, 695-709, 2024 年 7 月
6. Konno S, Ishikawa F, Takeya H, Tanabe G. Probing for Optimal Photoaffinity Linkers of Benzophenone-based Photoaffinity Probes for Adenylating Enzymes.
Bioorg. Med. Chem., **110**, 117815, 2024 年 6 月

7. Wang W, He X, Wang X, Tiantian Z, Muraoka O, Tanabe G, Xie W, Zhou T, Xing L, Jin Q, Jiang H. Glutathione-depleted Cyclodextrin Pseudo-polyrotaxane Nanoparticles for Anti-inflammatory Oxaliplatin (IV) Prodrug Delivery and Enhanced Colorectal Cancer Therapy.

Chin. Chem. Lett. **35**, 108656, 2024 年 4 月

[著書]

1. 石川文洋: 非リボソームペプチド合成酵素のエンジニアリング: アデニル化酵素の厳密な基質選択性の制御、酵素工学会 酵素工学ニュース、第 92 号
p17-22、酵素工学会 2024 年 10 月
2. 石川文洋: 細胞内基質蛋白質ラベル化技術に基づく原核生物蛋白質分解装置 ClpP の動作原理の解明、薬学研究の進歩 研究成果集 40
p1-7、公益財団法人薬学研究奨励財団 2024 年 4 月

[学会・シンポジウム]

1. 鈴木璃子、高島克輝、西川陽斗、丸本真輔、石川文洋、萬瀬貴昭、森川敏生、田邊元三: 強力な HFDPC 増殖作用をもつ植物性天然物, Calanthoside の全合成とその構造活性相関研究
日本薬学会 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月
2. 高島克輝、前川莉穂、寺田実央、栗原郁帆、石川文洋、丸本 真輔、森川 敏生、田邊 元三: タイ天然薬物 *Mammea siamensis* 由来ゲラニルクマリン, Mammeasin A の全合成研究
日本薬学会 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月
3. 石川文洋、野原麻耶、宮永顕正、倉本怜季、宮野夏妃、浅水俊平、工藤史貴、尾仲宏康、江口正、田邊元三: 2,3-ジヒドロキシ安息香酸選択的アデニル化酵素 EntE のエンジニアリングおよび非天然型ペプチド合成への応用
日本薬学会 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月
4. 石川文洋: 細菌プロテアーゼ ClpP の機能発現機構の解明およびタンパク質分解活性評価法の構築
日本薬学会 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月
5. 石川文洋、高橋幹士、高屋明子、田邊元三、本間道夫、内橋 貴之: 高速原子間力顕微鏡を用いた AEDP1 による枯草菌 ClpP プロテアーゼの活性化メカニズムの研究.
日本生体エネルギー研究会第 50 回討論会 (愛知)、2024 年 12 月
6. 鈴木璃子、高島克輝、西川陽斗、石川文洋、萬瀬貴昭、森川敏生、田邊元三: 毛乳頭細胞増殖作用を有するエビネ成分 Calanthoside の合成とその構造活性相関研究
第 41 回メディシナルケミストリーシンポジウム (京都)、2024 年 11 月
7. 高島克輝、鈴木璃子、増田七海、丸本真輔、石川文洋、萬瀬貴昭、森川敏生、田邊元三: メラニン産生抑制活性を有するタイ天然物 “*Melodorum*” 由来ブテノリド類の網羅的合成 と構造活性相関研究
第 41 回メディシナルケミストリーシンポジウム (京都)、2024 年 11 月
8. 石川文洋、高橋幹士、正林直人、秋永修佑、本間道夫、内橋貴之、田邊元三: 抗菌天然物アシルデブシペプチドによる細菌プロテアーゼ ClpP の 14 量体形成機構の理解を基盤とする構造活性相関研究
第 41 回メディシナルケミストリーシンポジウム (京都)、2024 年 11 月
9. 高島克輝、前川莉穂、栗原郁帆、寺田実央、丸本真輔、石川文洋、田邊元三: タイ天然薬物 *Mammea siamensis* 由来ゲラニルクマリン, Mammeasin A の全合成研究.
第 68 回 香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会 (長野)、2024 年 10 月
10. Taketo Imai, Fumihiko Ishikawa, Naoto Shobayashi, Takehiro Suzuki, Naoshi Dohmae, Genzoh Tanabe: Proximity Labeling of the Substrates of Caseinolytic Protease P using a Photocrosslinking Probe.
第 61 回ペプチド討論会 (愛知)、2024 年 10 月
11. 寺田実央、高島克輝、前川莉穂、栗原郁帆、丸本真輔、石川文洋、田邊元三: 天然薬物由来のゲラニルクマリン Mammeasin A の全合成研究
第 74 回 日本薬学会関西支部総会・大会 (大阪)、2024 年 10 月

12. 鈴木璃子、高島克輝、石川文洋、森川敏生、田邊元三: HFDPC 細胞増殖活性を有するエビネ由来天然物、Calanthoside の全合成とその構造活性相関研究
第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 (大阪)、2024 年 10 月
13. 今井嵩友、石川文洋、正林直人、鈴木健裕、堂前直、田邊元三: 細菌プロテアーゼ ClpP に対する光架橋性ラベル化剤の開発: 近接依存的標識法による基質タンパク質同定法
第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 (大阪)、2024 年 10 月
14. 高島克輝、谷口歩、丸本真輔、石川文洋、田邊元三: チオ糖スルホニウム塩型 α -グルコシダーゼ阻害剤 Neokotalanol の効率的全合成法の探索研究
2024 年度有機合成化学北陸セミナー (富山)、2024 年 9 月
15. 栗原郁帆、高島克輝、前川莉穂、寺田実央、丸本真輔、石川文洋、田邊元三: 天然薬物由来五置換ゲラニルクマリン Mammeasin A の全合成研究
2024 年度有機合成化学北陸セミナー (富山)、2024 年 9 月
16. 鈴木璃子、高島克輝、石川文洋、森川敏生、田邊元三: 強力な HFDPC 増殖作用を有するエビネ由来の新規 S,O -配糖体、Calanthoside の 簡便供給法の確立とその構造活性相関
日本生薬学会 第 70 回年会 (大阪)、2024 年 9 月
17. 高島克輝、前川莉穂、栗原郁帆、寺田実央、蓮田空、丸本真輔、石川文洋、田邊元三: 天然薬物 *Mammea siamensis* 由来五置換ゲラニルクマリン Mammeasin A の全合成研究
日本生薬学会 第 70 回年会 (大阪)、2024 年 9 月
18. 高島克輝、前川莉穂、栗原郁帆、寺田実央、蓮田空、丸本真輔、石川文洋、田邊元三: 天然薬物 *Mammea siamensis* 由来五置換ゲラニルクマリン類の全合成研究
第 66 回天然有機化合物討論会 (京都)、2024 年 9 月
19. 石川文洋、高橋幹士、正林直人、秋永修佑、本間道夫、内橋貴之、田邊元三: 抗菌ペプチド天然物アシルデプシペプチド 1 (ADEP1) による細菌プロテアーゼ ClpP の機能発現機構の解明および ADEP1 の構造活性相関研究
第 18 回バイオ関連化学シンポジウム (茨城)、2024 年 9 月
20. 高島克輝、鈴木璃子、石川文洋、丸本真輔、萬瀬貴昭、森川敏生、田邊元三: 新規 S,O -配糖体形成反応を用いた植物性天然物 Calanthoside の全合成とその HFDPC 細胞増殖作用に関する構造活性相関
第 44 回有機合成若手セミナー「明日の有機合成を担う人のために」(大阪)、2024 年 8 月
21. 今井嵩友、石川文洋、正林直人、鈴木健裕、堂前直、田邊元三: 細菌プロテアーゼ ClpP の基質結合部位近傍への光架橋性ペプチドラベル化剤配置による基質タンパク質同定法
第 56 回若手ペプチド夏の勉強会 (鳥取)、2024 年 8 月
22. 楠原早絢、石川文洋、正林直人、秋永修佑、田邊元三: 細菌プロテアーゼ ClpP の動的構造制御を目指した抗菌ペプチド天然物アシルデプシペプチド 1 の構造活性相関研究
第 56 回若手ペプチド夏の勉強会 (鳥取)、2024 年 8 月
23. 宮長心、石川文洋、松田萌笑、田邊元三: 細菌プロテアーゼ ClpP の人為的制御による標的タンパク質特異的分解
第 56 回若手ペプチド夏の勉強会 (鳥取)、2024 年 8 月
24. 若野遼太郎、石川文洋、田邊元三: 寛容な基質特異性をもつアデニル化酵素を利用したアミド結合形成酵素の機能解析
第 56 回若手ペプチド夏の勉強会 (鳥取)、2024 年 8 月
25. 石川文洋、内田千晴、Robert Kurzbauer、Tim Clausen、田邊元三: 細菌の ClpP タンパク質分解系による二次代謝産物生合成酵素の分解制御
日本ケミカルバイオロジー学会第 18 回年会 (東京)、2024 年 5 月

[外部助成]

1. 田邊元三(代表): 新規作用機序の抗結核薬開発を志向したスルホニウム塩型ラムノシダーゼ阻害剤の創生
2022 度日本学術振興会 基盤研究 (C) 2022 年 4 月–2025 年 3 月

2. 石川文洋(代表): 細菌で機能する標的タンパク質分解技術の開発
公益財団法人上原記念生命科学財団 2024 年度研究助成金 2025 年 1 月-2026 年 4 月
3. 石川文洋(代表): 原核生物のタンパク質品質管理機構に関与する ClpP を利用した細胞内タンパク質の人為的分解制御
公益財団法人 日本応用酵素協会 2024 年度 酵素研究助成 研究助成金 2024 年 5 月-2025 年 9 月
4. 石川文洋(代表): 薬剤耐性機構を無効化する β -ラクタマーゼ分解誘導薬の開発研究
近畿大学 一般研究助成金 IP003 2024 年 4 月-2025 年 3 月
5. 石川文洋(代表): 蛋白質間相互作用の合理的リデザインによる NRPS 生合成系の分解および再構築
公益財団法人 発酵科学研究所 2023 年度 一般研究助成 2023 年 4 月-2025 年 3 月
6. 高島克輝(代表): 生薬由来の天然物を基盤とする安全かつ強力な育毛成分の開発研究
公益財団法人 コーセーコスメトロジー研究財団 コスメトロジー研究助成 2024 年 12 月-2026 年 12 月
7. 高島克輝(代表): 植物由来ゲラニル型クマリン類の網羅的全合成とその応用
近畿大学 奨励研究助成金 SR01 2024 年 4 月-2025 年 3 月

[教育・社会活動]

1. 田邊元三: 日本薬学会関西支部幹事
2019 年 4 月～
2. 田邊元三: 薬学教育協議会 生薬学・天然物化学関連教科担当教員
2018 年 4 月～
3. 石川文洋: 近畿大学附属和歌山高等学校出張講義
2024 年 3 月～
4. 石川文洋: オープンキャンパス模擬講義
2023 年 8 月～
5. 石川文洋: 同志社大学 嘱託講師
2022 年 4 月～

臨床薬学部門 社会薬学分野

職・氏名・学位

教 授・大鳥 徹・博士(薬学)
Toru Otori

担当科目：基礎ゼミ(1)、薬と経済(医 4 分担)、ファーマシューティカルケア(医 4)、フィジカルアセスメント(医 4)、実務実習事前学習(医 4)、地域医療 (医 6 分担)、医療・薬事関係法規 2(医 6 分担)

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会、日本社会薬学会、日本医薬品情報学会、在宅薬学会、日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会、日本病院薬剤師学会、日本災害医学会

講 師・高橋 克之・博士(医学)
Katsuyuki Takahashi

担当科目：基礎ゼミ(1)、生命倫理(医 2)、医療・薬事関係法規 1(医 4 分担)、ファーマシューティカルケア(医 4 分担)、医薬連携学習(医 4)、フィジカルアセスメント(医 4)、実務実習事前学習(医 4)、医療・薬事関係法規 2(医 6 分担)

所属学会：日本臨床腫瘍学会、日本臨床腫瘍薬学会、日本医療薬学会、日本薬学会、日本社会薬学会

現在行われている主な研究テーマ

1. がん患者の薬物療法の質向上に関する臨床研究
2. 抗がん剤ペメトレキセドの経口投与可能なプロドラッグ研究
3. 分子標的製剤のカボザンチニブの有効使用のための薬物動態の研究
4. 在宅医療における薬剤師の役割に関する検討
5. 医薬品在庫による医療機関の経営分析と要因検討

研究業績

[原著論文]

1. Fujii H, Tsuchiya M, Watanabe D, Otsuka R, Hirate D, Takahashi K, Go M, Kudo T, Shimomura K, Ando Y, Tani S, Takahashi T, Hayashi K, Chin M, Matsunami N, Takahashi M, Hasegawa A, Uchida T, Hashimoto H, Kubo A, Matsuhashi N, Suzuki A, Nishimura J, Inui N, Iihara H : The emerging emetogenicity of trifluridine/tipiracil (TAS-102) from patient self-reporting: a multicenter, prospective, observational study.
Support Care Cancer. 32(5):291, 2024 年 4 月
2. 高橋 克之, 松野 純男, 栗栖 千幸, 北小路 学, 大鳥 徹, 安酸 建二 : 外来患者満足度調査を用いた病院推奨意向に影響を与える要因の検討
医療の質・安全学会誌, 19(2) 145-155, 2024 年 4 月
3. 倉橋翔太郎, 松野 純男, 高橋 克之, 山口 眞希, 石川 佳奈, 山本 卓資, 川畑 篤史, 大鳥 徹, 榊原 幹夫 : 住宅型有料老人ホーム入居患者の痒みとスキンケアに関する実態調査.
薬局薬学, 17 (1) 54-65, 2024 年 11 月
4. Takahashi M, Takahashi K, Takahashi K, Fujiwara D, Ito K, Yamase H, Yamashiro K, Asano H, Yabuta N, Hoshida T, Koseki T, Shibano M, Tsukada K, Takata Y, Komatsu Y, Noda S, Hashimoto K, Otori T : A multicenter retrospective study evaluating the effect of proton pump inhibitors on adjuvant tegafur-uracil/leucovorin efficacy for stage II-III colorectal cancer.
Sci Rep. 15(1):9834, 2025 年 3 月

[著書]

1. 高橋克之: がん薬物療法のひきだし 第2版: 腫瘍薬学の基本から応用まで 第2版
pp.139-155、医学書院 2024 年 5 月

[学会・シンポジウム]

1. Hironori Fujii, Masami Tsuchiya, Daichi Watanabe, Ryo Otsuka, Daisuke Hirate, Katsuyuki Takahashi, Makiko Go, Toshihiro Kudo, Kazuhiro Shimomura, Yosuke Ando, Shinya Tani, Takao Takahashi, Katsuhisa Hayashi, Miki Chin, Naomi Matsunami, Masaya Takahashi, Akiko Hasegawa, Takashi Uchida, Hironobu Hashimoto, Akiko Kubo, Nobuhisa Matsuhashi, Akio Suzuki, Junichi Nishimura, Naoki Inui, Hirotooshi Iihara :

The emetogenicity of trifluridine tipiracil hydrochloride and the efficacy of prophylactic antiemetics: a prospective, observational, multicenter study.

MASCC/AFSOS/ISOO 2024 Annual Meeting, フランス (ポスター)、2024 年 6 月

2. Tadafumi Hoshida, Katsuyuki Takahashi, Kanae Takahashi, Masaya Takahashi, Kaori Ito, Hirotake Yamase, Kaito Yamashiro, Hajime Asano, Naoki Yabuta, Daichiro Fujiwara, Takenao Koseki, Masahito Shibano, Kanako Tsukada, Yasuhiko Takata, Yuika Komatsu, Satoshi Nod, Toru Otori: Association between adjuvant tegafur uracil plus calcium folinate efficacy and proton pump inhibitors in patients with stage II-III colorectal cancer.
Asia Pacific Oncology Pharmacy Congress 2024, 東京 (ポスター)、2024 年 10 月
3. Katsuyuki Takahashi: Next-Generation Development Initiatives Across Asia.
Asia Pacific Oncology Pharmacy Congress 2024, 東京 (シンポジウム)、2024 年 10 月
4. 陳美樹, 藤井宏典, 飯原大稔, 土屋雅美, 平手大輔, 高橋克之, 郷真貴子, 工藤敏啓, 下村一景, 安藤洋介, 谷伸也, 渡邊大地, 林克剛, 大塚亮, 松波奈緒美, 高橋正也, 長谷川 晶子, 内田敬, 久保晶子, 高橋孝夫, 松橋延壽, 鈴木昭夫, 西村潤一, 乾直輝, 橋本浩伸: 大腸癌患者を対象としたトリフルリジン/チピラシル(TAS-102)の催吐リスク分類に関する前向き観察研究 (JASCC-CINV 2001) .
第 34 回日本医療薬学会年会, 神戸 (口頭)、2024 年 11 月
5. 藤井宏典, 土屋雅美, 渡邊大地, 大塚亮, 平手大輔, 高橋克之, 郷真貴子, 工藤敏啓, 下村一景, 安藤洋介, 鈴木昭夫, 飯原大稔: 大腸癌患者においてクレアチニンクリアランスが TAS-102 の非血液毒性発現に及ぼす影響: JASCC-CINV 2001 Post-hoc 解析.
第 45 回 日本臨床薬理学会学術総会, 大宮 (口頭)、2024 年 12 月
6. 伊藤佳織, 高橋克之, 高橋佳苗, 高橋正也, 星田唯史, 山瀬大雄, 山城海渡, 浅野肇, 藪田直希, 藤原大一郎, 古関竹直, 柴野雅仁, 塚田加奈子, 高田康彦, 小松唯可, 橋本光平, 大鳥徹: Stage II-III 結腸直腸癌患者における術後補助化学療法としての UFT/LV 療法の有効性とプロトンポンプ阻害薬との関連性.
第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸(口頭)、2025 年 3 月
7. 阿部 美南, 高橋 克之, 山瀬 大雄, 吉野 秀紀, 細田 麻由香, 辻井 佳代, 大鳥 徹, 小林 政彦: がん悪液質患者におけるアナモレリンの投与継続に関する影響因子の探索.
日本薬学会 第 145 年会, 福岡 (ポスター)、2025 年 3 月

[教育・社会活動]

1. 高橋克之: Asia Pacific Oncology Pharmacy Congress (APOPC) 2024 実行委員会
オンライン 2024 年 4 月 1 日
2. 大鳥徹: 第 109 回薬剤師国家試験問題検討委員会 (法規・制度・倫理部会)
愛知学院大学楠本キャンパス (名古屋市千種区楠元町) 2024 年 5 月 11 日
3. 高橋克之: 大阪がん薬物療法研究会 世話人会
オンライン 2024 年 5 月 20 日
4. 高橋克之: 日本臨床腫瘍薬学会 がん治療薬学生エキスパート認定 委員会
AP 品川 (東京都港区) 2024 年 5 月 30 日
5. 大鳥徹: 大阪府薬剤師会 薬剤師のためのフィジカルアセスメント講習会
近畿大学東大阪キャンパス (東大阪市) 2024 年 6 月 8 日
6. 大鳥徹、高橋克之: 近畿大学薬学部模擬患者養成講習会 6 月会
近畿大学東大阪キャンパス (東大阪市) 2024 年 6 月 11 日
7. 高橋克之: 日本臨床腫瘍薬学会 がん治療薬学生エキスパート認定 委員会
AP 品川 (東京都港区) 2024 年 6 月 20 日
8. 大鳥徹、高橋克之: 近畿大学薬学部模擬患者養成講習会 7 月会
近畿大学東大阪キャンパス (東大阪市) 2024 年 7 月 20 日
9. 大鳥徹: 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構大学小委員会
オンライン会議 2023 年 7 月 1 日

10. 高橋克之: Asia Pacific Oncology Pharmacy Congress (APOPC) 2024 実行委員会
オンライン 2024 年 7 月 24 日
11. 大鳥徹: 病院薬局実務実習、大阪市天王寺区グループ協議会・連絡会
オンライン 2024 年 8 月 1 日
12. 大鳥徹: 病院薬局実務実習、舞鶴プログラム グループ協議会・連絡会
オンライン 2024 年 8 月 2 日
13. 大鳥徹、高橋克之: 近畿大学薬学部模擬患者養成講習会 9 月会
近畿大学東大阪キャンパス (東大阪市) 2024 年 9 月 2 日、7 日
14. 高橋克之: 第 21 回大阪がん薬物療法研究会
クロスウェーブ梅田 (大阪市北区) 2024 年 9 月 26 日
15. 大鳥徹: 東京都中央区・近畿大学連携市民講座
近畿大学東京センター (東京都中央区) 2024 年 10 月 12 日
16. 高橋克之: Asia Pacific Oncology Pharmacy Congress (APOPC) 2024 開催
東京国際交流館 (東京都江東区) 2024 年 10 月 12 日・13 日
17. 大鳥徹、高橋克之: 近畿大学薬学部模擬患者養成講習会 10 月会
近畿大学東大阪キャンパス (東大阪市) 2024 年 10 月 19 日、21 日
18. 大鳥徹: 病院薬局実務実習、舞鶴プログラム グループ実習報告会
オンライン 2024 年 10 月 28 日
19. 大鳥徹: 病院薬局実務実習、奈良市 グループ実習報告会
オンライン 2024 年 11 月 2 日
20. 大鳥徹、高橋克之: 近畿大学薬学部模擬患者・模擬医師養成講習会 12 月会
近畿大学東大阪キャンパス (東大阪市) 2024 年 11 月 30 日、12 月 2 日
21. 高橋克之: 大阪がん薬物療法研究会 世話人会
オンライン 2024 年 12 月 11 日
22. 高橋克之: 日本臨床腫瘍薬学会 がん治療薬学生エキスパート認定 委員会
AP 品川 (東京都港区) 2025 年 1 月 10 日
23. 大鳥徹: 第 15 回薬剤師のためのフィジカルアセスメント講習会
近畿大学東大阪キャンパス (東大阪市) 2025 年 2 月 1 日
24. 高橋克之: 第 120 回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ (薬学教育者ワークショップ) in
近畿 タスクフォース
大阪大谷大学 (富田林市) 2025 年 2 月 8 日・9 日
25. 大鳥徹: 奈良県薬剤師会実務実習連絡会
奈良県薬業会館 (橿原市) 2024 年 2 月 11 日
26. 大鳥徹: 読売テレビ 情報ライブミヤネ屋 「薬の正しい服用方法」
読売テレビ (大阪市) 2024 年 2 月 13 日
27. 大鳥徹、高橋克之: 大阪市南部地区、近畿大学病院、近畿大学奈良病院 実務実習連絡会開催
近畿大学東大阪キャンパス (東大阪市) 2025 年 2 月 15 日
28. 高橋克之: 第 22 回大阪がん薬物療法研究会
クロスウェーブ梅田 (大阪市北区) 2025 年 2 月 26 日
29. 高橋克之: 日本臨床腫瘍薬学会 がん治療薬学生エキスパート認定 委員会

AP 品川（東京都港区） 2025 年 3 月 3 日

30. 高橋克之：令和 6 年度 大学教員薬剤師部会 全国会議

慶応義塾大学（東京都港区） 2025 年 3 月 10 日

31. 大鳥徹：第 19 回ヒューマニティ関連教科担当教員会議

崇城大学薬学部（熊本市） 2025 年 3 月 11 日

臨床薬学部門 医療薬剤学分野

職・氏名・学位

教 授・小竹 武・博士(薬学)
Takeshi Kotake

担当科目：基礎ゼミ(1)、薬学概論(医1共担)、早期体験学習(医1共担)、実務実習事前学習(医4共担)、医薬連携学習(医4共担)、フィジカルアセスメント(医4共担)、臨床薬学実務実習(医5共担)、実践病態と治療(医5共担)、総合薬学演習2(医6共担)、臨床薬物動態学(医6)、薬効薬理処方解析(医6)

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会、日本病院薬剤師会、日本薬剤師会、日本臨床救急医学会
日本医薬品情報学会

准教授・石渡 俊二・博士(薬学)
Shunji Ishiwata

担当科目：基礎ゼミ(1)、早期体験学習(医1共担)、生命倫理(医2共担)、臨床薬学英語(医4)、実務実習事前学習(医4共担)、フィジカルアセスメント(医4共担)、臨床薬学実務実習(医5共担)、実践病態と治療(医5共担)、総合薬学演習2(医6共担)

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会、日本病院薬剤師会、日本癌学会、日本災害医学会

講 師・井上 知美・博士(薬学)
Tomomi Inoue

担当科目：基礎ゼミ(1)、早期体験学習(医1共担)、生命倫理(医2共担)、実務実習事前学習(医4共担)、医療薬学総論(医4共担)、医薬連携学習(医4共担)、フィジカルアセスメント(医4共担)、臨床薬学実務実習(医5共担)、実践病態と治療(医5共担)、総合薬学演習2(医6共担)

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会、日本病院薬剤師会、日本薬剤師会、日本循環器学会、日本臨床救急医学会、日本災害医学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 薬剤の安定性、同等性に関する研究
2. 高度医療（胎児不整脈）に関する研究
3. 循環器疾患の救急救命処置に関する調査および研究
4. 災害・救急時における安心・安全な社会システムの構築に関する研究
5. 薬物療法に伴う医療施設業務に関する調査および研究
6. 抗がん剤汚染防止教育システムの開発
7. 在宅医療における薬物療法に関する研究
8. 薬物療法における適正使用の選択因子の抽出に関する研究

研究業績

[原著論文]

1. Kusaka T, Ishiwata S, Nishioka M, Yoshioka M, Inoue T, Kotake T: Development of a broad range of two-colour ozone indicator.

Heliyon,10(15), e35599, 2024 年 8 月

[学会・シンポジウム]

1. 木村玲子、篠原裕子、小竹武、小川充恵、西岡達也、大里恭章、坂井寿美、中野道雄：八尾市における薬学生実務実習コロナ禍期間の取り組みと評価

第 57 回日本薬剤師学術大会（埼玉）、2024 年 9 月 22 日

2. 奥田あゆみ、藤本和也、草加嵩士、藤井一美、安井友佳子、石坂敏彦、井上知美、石渡俊二、小竹 武：トラスツズマブの CTRCD リスク回避因子としての BNP 値の有用性

第 74 回 日本薬学会関西支部総会・大会（兵庫）、2024 年 10 月 5 日

3. 北庄司椋平、大竹裕子、遠藤雄一、小竹 武、長井紀章：漢方エキス製剤の懸濁服用時における分散系評価
—麻黄附子細辛湯と葛根湯—
第 74 回 日本薬学会関西支部総会・大会（兵庫）、2024 年 10 月 5 日
4. 岩本享大、立花陽、荒木有希子、坂本紀夫、山下博美、片山祥子、星野翔太郎、上田桜、井上知美、石渡俊二、小竹武：過活動膀胱治療薬のトレンドおよび併用薬解析による選択因子の抽出について
第 18 回日本薬局学会学術総会（神奈川）、2024 年 11 月 3 日
5. 坂本紀夫、荒木有希子、山下博美、立花陽、片山祥子、岩本享大、星野翔太郎、藤原泰子、井上知美、石渡俊二、小竹武：骨粗鬆症治療薬の併用薬解析による選択因子の抽出
第 18 回日本薬局学会学術総会（神奈川）、2024 年 11 月 3 日
6. 片山祥子、岩本享大、立花陽、荒木有希子、山下博美、坂本紀夫、星野翔太郎、大櫛遼介、井上知美、石渡俊二、小竹武：消化性潰瘍治療薬の併用処方薬による臨床的因子の比較解析
第 18 回日本薬局学会学術総会（神奈川）、2024 年 11 月 3 日
7. 立花陽、片山祥子、岩本享大、荒木有希子、山下博美、坂本紀夫、星野翔太郎、山本優、井上知美、石渡俊二、小竹武：当薬局における睡眠導入薬の処方トレンドおよび併用薬解析
第 18 回日本薬局学会学術総会（神奈川）、2024 年 11 月 3 日
8. 戸澤華月、近藤由佳、井上知美、石渡俊二、小竹武：調剤薬局医療事務職員におけるコミュニケーションタイプの調査解析
第 18 回日本薬局学会学術総会（神奈川）、2024 年 11 月 3 日
9. 鈴木範子、近藤由佳、井上知美、石渡俊二、小竹武：調剤薬局職員における薬局 DX 化に伴う理解度調査
第 18 回日本薬局学会学術総会（神奈川）、2024 年 11 月 3 日
10. 近藤由佳、吉田哲也、加藤理乃、井上知美、石渡俊二、小竹武：小児科領域の喘息治療における吸入薬の選択因子について
第 18 回日本薬局学会学術総会（神奈川）、2024 年 11 月 3 日
11. 亀岡貴哉、小竹武、中野春恵、福士綾香、永井陽子、杵淵温子、原田真美、白井里奈、高橋千枝、赤尾梨恵、南村昌志、増田恵理子、岸田充生：薬局薬剤師が介入したがん化学療法の副作用に対する MedDRA 分類を用いた解析
第 18 回日本薬局学会学術総会（神奈川）、2024 年 11 月 3 日
12. 寺川純、佐藤雄一、服部翔、小竹武：服薬フォローアップによるセマグルチド錠の服薬順守調査
第 18 回日本薬局学会学術総会（神奈川）、2024 年 11 月 3 日
13. 橋本旭飛、塩見康子、神原千尋、尾崎友紀、今村悠太、石渡俊二、井上知美、小竹武：選定療養費導入に伴う先発・後発医薬品に対する来局者の意識調査
日本薬学会 第 145 年会（福岡）、2025 年 3 月 27 日
14. 花田由美子、近藤由佳、井上知美、石渡俊二、小竹武：マイナ保険証の利用推進業務の阻害因子の抽出
—調剤薬局社員の健康保険証利用状況調査から—
日本薬学会 第 145 年会（福岡）、2025 年 3 月 27 日
15. 島可奈、荒木幸子、近藤由佳、井上知美、石渡俊二、小竹武：オンライン研修会における課題 —調剤薬局医療事務社員の web 研修会から—
日本薬学会 第 145 年会（福岡）、2025 年 3 月 28 日
16. 荒木幸子、島可奈、近藤由佳、井上知美、石渡俊二、小竹武：調剤薬局医療事務社員の入社時の業務回顧意識の関連性解析
日本薬学会 第 145 年会（福岡）、2025 年 3 月 28 日
17. 長尾有加、近藤由佳、井上知美、石渡俊二、小竹武：電子版お薬手帳のアプリ移行および登録・利用状況の解析

日本薬学会 第 145 年会（福岡）、2025 年 3 月 28 日

18. 鈴木里那、近藤由佳、井上知美、石渡俊二、小竹武：調剤薬局職員における確認試験とリーフレット配布による自己研鑽システムの効果検証

日本薬学会 第 145 年会（福岡）、2025 年 3 月 28 日

19. 酒谷佳奈、近藤由佳、井上知美、石渡俊二、小竹武：調剤薬局職員における薬局 DX 化理解度によるレクチャー必要性の層別化解析

日本薬学会 第 145 年会（福岡）、2025 年 3 月 28 日

20. 山本梨華子、内田奈沙、本田剛、岡田康宏、奥平恵子、小竹武：褥瘡に対する要約テキスト配布前後における薬局薬剤師の理解度と意識変化に関する調査

日本薬学会 第 145 年会（福岡）、2025 年 3 月 28 日

21. 小竹武、西岡茉名美、岡本優子、吉岡雅起、上田桜、井上知美、石渡俊二：オゾン消毒効果指標となるオゾンインジケータの拡張性に関する研究

日本薬学会 第 145 年会（福岡）、2025 年 3 月 29 日

[教育・社会活動]

1. 小竹武：関西広域連合登録販売者試験委員

2019 年 4 月～

2. 小竹武：大阪府薬剤師会薬学生実務実習受入対策委員

2014 年 4 月～

3. 小竹武：薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構委員

2009 年 4 月～

4. 小竹武：薬剤師国家試験問題検討委員会委員（実務部会）

2012 年 4 月～

5. 小竹武：ヒューマニティ・コミュニケーション教科担当委員

2012 年 4 月～

6. 小竹武：実務実習教科担当委員

2012 年 4 月～

7. 小竹武：大阪府薬剤師会連絡会

大阪府薬剤師会（大阪）2025 年 1 月 26 日

8. 石渡俊二：無菌注射剤調剤講習会（無菌調剤室利用者研修会□）

近畿大学（大阪）2025 年 2 月 1 日

9. 石渡俊二：大阪赤十字病院治験審査委員会 委員

2015 年 4 月～

10. 井上知美：日本循環器学会 AHA BLS Course Director

2012 年 4 月～

11. 井上知美：日本循環器学会 AHA BLS Training Center Faculty

2012 年 7 月～

12. 井上知美：第 15 回薬剤師のための患者急変時対応講習会 講師

近畿大学（大阪）2024 年 8 月 31 日

13. 井上知美：第 16 回薬剤師のための患者急変時対応講習会 講師

近畿大学（大阪）2025 年 2 月 1 日

14. 井上知美：大阪大学薬学部 薬学入門 3 ゲストスピーカー

大阪大学（大阪）2024 年 12 月 12 日、12 月 19 日

15. 井上知美: 大阪府南部岸和田地区 グループ協議会
opsol 福祉総合センター（大阪）2025 年 2 月 2 日
16. 井上知美: 大阪府南部泉佐野地区 グループ協議会
オンライン 2025 年 2 月 12 日
17. 井上知美: 武庫川女子大学附属高等学校 卒業記念講演 講師
武庫川女子大学（兵庫）2025 年 2 月 20 日
18. 井上知美: 日本循環器学会 第 23 回心肺蘇生法市民公開講座 実行委員
中日ホール（愛知）2025 年 3 月 22 日
19. 石渡俊二、井上知美: 近畿大学薬学部模擬患者の会 6 月会 講習会
近畿大学東大阪キャンパス（大阪）2024 年 6 月 17 日
20. 石渡俊二、井上知美: 近畿大学薬学部模擬患者の会 7 月会 講習会
近畿大学東大阪キャンパス（大阪）2024 年 7 月 20 日
21. 石渡俊二、井上知美: 近畿大学薬学部模擬患者の会 9 月会 講習会
近畿大学東大阪キャンパス（大阪）2024 年 9 月 2 日、9 月 7 日
22. 石渡俊二、井上知美: 近畿大学薬学部模擬患者の会 10 月会 講習会
近畿大学東大阪キャンパス（大阪）2024 年 10 月 19 日、10 月 21 日
23. 石渡俊二、井上知美: 近畿大学薬学部模擬患者の会 11 月会 講習会
近畿大学東大阪キャンパス（大阪）2024 年 11 月 30 日
24. 石渡俊二、井上知美: 近畿大学薬学部模擬患者の会 12 月会 講習会
近畿大学東大阪キャンパス（大阪）2024 年 12 月 2 日
25. 小竹武、石渡俊二、井上知美: 大阪市南部地区、近畿大学病院、近畿大学奈良病院
実務実習連絡会開催
近畿大学東大阪キャンパス（大阪）2025 年 2 月 15 日

臨床薬学部門 医薬品情報学分野

職・氏名・学位

教 授・細見 光一・博士(薬学)
Kouichi Hosomi

担当科目：近大ゼミ(1)、早期体験学習(医 1 共担)、生命倫理(医 2 共担)、薬学概論(医 1 分担)、医薬品情報学(医 3)、医療・薬事関係法規 1(医 4 分担)、医薬連携学習(医 4 共担)、実務実習事前学習(医 4 共担)、フィジカルアセスメント(医 4 共担)、臨床医学概論(医 4 分担)、実践病態と治療(医 5 共担)、臨床薬学実務実習(医 5 共担)、総合演習 2(医 6 共担)

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会、日本医薬品情報学会、日本薬剤疫学会

准教授・横山 聡・博士(薬科学)
Satoshi Yokoyama

担当科目：近大ゼミ(1)、情報科学実習(1 分担)、早期体験学習(医 1 共担)、生命倫理(医 2 共担)、調剤学(医 4)、医薬連携学習(医 4 共担)、実務実習事前学習(医 4 共担)、フィジカルアセスメント(医 4 共担)、実践病態と治療(医 5 共担)、臨床薬学実務実習(医 5 共担)、総合演習 2(医 6 共担)

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会、日本医薬品情報学会、日本薬剤疫学会

助 教・宇野 貴哉・博士(薬学)
Takaya Uno

担当科目：近大ゼミ(1)、早期体験学習(医 1 共担)、生命倫理(医 2 共担)、基礎医療薬学(医 3)、医薬連携学習(医 4 共担)、実務実習事前学習(医 4 共担)、フィジカルアセスメント(医 4 共担)、実践病態と治療(医 5 共担)、臨床薬学実務実習(医 5 共担)、総合演習 2(医 6 共担)

所属学会：日本薬学会、日本医療薬学会、日本医薬品情報学会、日本薬剤疫学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 医療ビッグデータの解析による医薬品安全性評価研究
2. リアルワールドデータの多角的解析に関する研究
3. アンメットメディカルニーズを指向したドラッグ・リポジショニング研究
4. 医療資源最適化に関する研究
5. 医薬品適正使用に関する臨床薬学研究

研究業績

[原著論文]

1. Mabuchi T, Kuwahara M, Hirose H, Yokoyama S, Matsumoto K, Morita K, Wada A, Hosomi K: Association between the prevalence and potentially inappropriate medications in elderly patients: Analysis of a Japanese real-world database
同志社女子大学 総合文化研究所紀要 **41**, 64-73, 2024 年 7 月
2. Nakamura A, Kimura Y, Tanaka Y, Tsuchimoto D, Naruse A, Kanematsu T, Takeuchi K, Tomita N, Miyazawa K, Fukuoka T, Mori A, Tamaki S, Fujioka A, Yokoyama S, Ikeda Y, Nagai H: Favorable prognosis in patients with multiple myeloma and lenalidomide-induced skin rash: a multicenter retrospective study
Eur J Haematol. **114**, 267-275, 2024 年 10 月
3. Uno T, Hosomi K, Yokoyama S: Evaluation of tolvaptan-associated hepatic disorder using different national pharmacovigilance databases
Sci Rep. **14**, 25943, 2024 年 10 月
4. Nakagawa C, Ota R, Hirata A, Yokoyama S, Uno T, Hosomi K: Reasons and predictors of treatment change in rheumatoid arthritis patients treated with biological and targeted synthetic disease-modifying antirheumatic drugs: a single-center retrospective observational study
Biol Pharm Bull. **47**, 1759-1767, 2024 年 10 月
5. Yokoyama S, Nakagawa C, Uno T, Hosomi K: Evaluating the associated hyperuricemia risk with sodium-glucose

cotransporter 2 inhibitors: a sequence symmetry analysis using the Japanese administrative claims database

Biol Pharm Bull. **47**, 1851-1857, 2024 年 11 月

6. Kobuchi S, Sugiyama D, Ima A, Obuchi A, Osaka A, Doi A, Ueta H, Yokoyama S, Hosomi K, Takada M, Sakaeda T: Data Mining of the FDA Adverse Event Reporting System and Animal Experiments for Assessment of Rhabdomyolysis Risk Associated with Lipid-lowering Drugs

Int J Med Sci. **22**, 1485-1492, 2025 年 2 月

[著書]

1. 横山聡: がん薬物療法のひきだし—腫瘍薬学の基本から応用まで 第2版
pp. 2-22、医学書院 2024 年 5 月
2. 横山聡: これからの服薬指導ハンドブック
pp. 188-206、講談社 2024 年 12 月
3. 横山聡: コンパス調剤学—実践的アプローチから理解する—改訂第4版
pp. 87-92、南江堂 2024 年 12 月
4. 横山聡: 図解 腫瘍薬学 改訂2版
pp. 299-311、丸善出版 2025 年 3 月

[学会・シンポジウム]

1. 横山聡: ビッグデータの中に眠るドラッグ・リポジショニングの可能性を求めて
第39回日本薬剤学会年会 (兵庫)、2024 年 5 月 23 日
2. 横山聡、宇野貴哉、細見光一: 医療情報データベースを使った薬学研究の tips
第26回日本医薬品情報学会総会・学術大会 (千葉)、2024 年 6 月 1 日
3. 中川千拓、太田涼介、平田敦士、横山聡、宇野貴哉、細見光一: 関節リウマチ患者における分子標的薬の変更理由とその予測因子の探索
第7回フレッシュャーズ・カンファランス (東京)、2024 年 6 月 15 日
4. 中川雅斗、中川千拓、宇野貴哉、横山聡、細見光一: ハロペリドールと自己免疫疾患の関連性の検討
第7回フレッシュャーズ・カンファランス (東京)、2024 年 6 月 16 日
5. 松本奈々、中川千拓、宇野貴哉、横山聡、細見光一: PMDA 医薬品副作用データベースを用いた睡眠薬と認知症の関連性の検討
第7回フレッシュャーズ・カンファランス (東京)、2024 年 6 月 16 日
6. 山元彩葉、角野亮太郎、中川千拓、宇野貴哉、横山聡、細見光一: 高尿酸血症の発症抑制に対する sodium-glucose cotransporter 2 阻害薬のクラスエフェクトの評価
第7回フレッシュャーズ・カンファランス (東京)、2024 年 6 月 16 日
7. 中川千拓、横山聡、宇野貴哉、太田涼介、平田敦士、細見光一: 関節リウマチ患者における薬酸の使用がメトトレキサートの安全性および有効性に及ぼす影響の検討
第34回日本医療薬学会年会 (千葉)、2024 年 11 月 2 日
8. 中川千拓、太田涼介、平田敦士、横山聡、宇野貴哉、細見光一: 関節リウマチ患者における分子標的薬の変更理由の調査および変更と関連する因子の探索
日本薬学会第145年会 (福岡)、2025 年 3 月 29 日

[外部助成]

1. 細見光一(代表): データサイエンスを駆使した地域医療における服薬適正化対策への支援と検証
令和4年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)
2. 横山聡(代表): リアルワールドデータとオミックス情報の統合解析によるデータ駆動型医薬品開発
令和5年度 文部科学省科学研究費補助金 若手研究

[教育・社会活動]

1. 細見光一: 日本医療薬学会代議員

2019 年 3 月～

2. 横山聡: 日本医療薬学会 臨床研究推進委員会 委員

2024 年 4 月～

3. 細見光一: 近畿地区調整機構委員会

大阪梅田ツインタワーズ・ノースビル (大阪) 2024 年 4 月 20 日

4. 横山聡: 尼崎市薬剤師会_R6. I 期 薬学実務実習成果発表会_グループ協議会

オンライン 2024 年 4 月 20 日

5. 細見光一、横山聡、宇野貴哉: 近畿大学薬学部模擬患者の会 6 月会 講習会

近畿大学東大阪キャンパス (大阪) 2024 年 6 月 17 日

6. 細見光一、横山聡、宇野貴哉: 近畿大学薬学部模擬患者の会 7 月会 講習会

近畿大学東大阪キャンパス (大阪) 2024 年 7 月 20 日

7. 細見光一、横山聡、宇野貴哉: 近畿大学薬学部模擬患者の会 9 月会 講習会

近畿大学東大阪キャンパス (大阪) 2024 年 9 月 2 日、9 月 7 日

8. 細見光一、横山聡、宇野貴哉: 近畿大学薬学部模擬患者の会 10 月会 講習会

近畿大学東大阪キャンパス (大阪) 2024 年 10 月 19 日、10 月 21 日

9. 細見光一、横山聡、宇野貴哉: 近畿大学薬学部模擬患者の会 11 月会 講習会

近畿大学東大阪キャンパス (大阪) 2024 年 11 月 30 日

10. 細見光一、横山聡、宇野貴哉: 近畿大学薬学部模擬患者の会 12 月会 講習会

近畿大学東大阪キャンパス (大阪) 2024 年 12 月 2 日

11. 細見光一: 和歌山県薬剤師会・和歌山県病院薬剤師会実務実習連絡会

和歌山県薬剤師会館 (和歌山) 2025 年 1 月 19 日

12. 宇野貴哉: 兵庫県薬剤師会・兵庫県病院薬剤師会実務実習連絡会

兵庫医科大学 (兵庫) 2025 年 2 月 1 日

13. 横山聡: 兵庫県薬剤師会・兵庫県病院薬剤師会実務実習連絡会

武庫川女子大学 (兵庫) 2025 年 2 月 2 日

14. 横山聡: 大阪府 薬学実務実習受入施設_グループ協議会 (大阪府・東部_グループ 2)

若草第一病院 (大阪) 2025 年 2 月 8 日

15. 横山聡: 大阪府 薬学実務実習受入施設_グループ協議会 (大阪市内東部_グループ 5)

オンライン 2025 年 2 月 14 日

16. 細見光一、横山聡、宇野貴哉: 大阪市南部地区、近畿大学病院、近畿大学奈良病院 実務実習連絡会開催

近畿大学東大阪キャンパス (大阪) 2025 年 2 月 15 日

17. 横山聡: 第 129 回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ (薬学教育者ワークショップ) in 近畿
タスクフォース

兵庫医科大学 (兵庫) 2025 年 3 月 8 日、3 月 9 日

教育専門部門

職・氏名・学位

教 授・松野 純男・博士(薬学) 担当科目：薬学概論 (医 1 分担)、早期体験学習(医 1 分担)、近大ゼミ(1)、放射化学(医 2、創 2)、薬学統計学 (創 2、医 3)、衛生化学・放射化学実習(医 3 分担)、創薬科学実習 3 (創 3 分担)、実践病態と治療 (医 5 分担)、治験 (医 6 分担)
Sumio Matzno

所属学会：日本薬学会、日本薬学教育学会、日本医薬品情報学会、日本音楽療法学会

教 授・大内 秀一・博士(薬学) 担当科目：早期体験学習(医 1 分担)、近大ゼミ(1)、化学入門(医 1 分担)、基礎化学(医 1 分担)、基礎有機化学(医 1)、有機化学・生薬学実習(医 2)、物理化学生物演習 1 (医 3 分担)、実践病態と治療 (医 5 分担)
Hidekazu Ouchi

所属学会：日本薬学会、日本薬学会医薬化学部会、有機合成化学協会、IDE 大学協会、日本薬学教育学会

准教授・和田 哲幸・博士(薬学) 担当科目：近大ゼミ(1)、基礎生物学(1)、生物学入門(1)、人体生理学 2(医 2・創 2)、情報科学実習(1)、実践病態と治療 (医 5 分担)、早期体験学習 (医 1 分担)、衛生化学・放射化学実習(医 3 分担)
Tetsuyuki Wada

所属学会：日本薬学会、日本薬剤師会、日本薬学教育学会、日本健康体力栄養学会、日本神経科学会、日本死の臨床研究会、日本サルコペニア・フレイル学会

准教授・船上 仁範・博士(薬学) 担当科目：早期体験学習 (医 1 分担)、近大ゼミ (1)、教養特殊講義 B(1 分担)、基礎生物学 (1)、生物学入門 (1)、基礎薬科学実習 (1)、人体生理学 1(1)、生命倫理 (2)、免疫・分子生物学実習 (2 分担)、実践病態と治療 (医 5 分担)
Yoshinori Funakami

所属学会：日本薬学会、日本薬理学会、日本神経科学学会、日本心身医学会

助 教・八軒 浩子・博士(薬学) 担当科目：早期体験学習 (医 1 分担)、近大ゼミ (1)、情報科学入門 (1 分担)、実務実習事前学習 (医 4 分担)
Hiroko Hachiken

所属学会：日本薬学会、日本薬剤師会、日本医療薬学会、日本医薬品情報学会、日本薬学教育学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 薬学教育における効果的な教育ツールの開発および実践
2. 薬学教育評価における有用な統計解析手法の開発
3. ビジネスインテリジェンスツールの医療分野への応用
4. 天然由来のジアリールエーテル型化合物の合成および生物活性評価
5. ストレス関連疾患（うつ・不安・慢性疼痛など）発症メカニズムの解析

研究業績

[原著論文]

1. 高橋克之, 松野純男, 栗栖千幸, 北小路学, 大鳥徹, 安酸建二: 外来患者満足度調査を用いた病院推奨意向に影響を与える要因の検討.
医療の質・安全学会誌, 2024;19(2):145-155. 2024 年 8 月
2. 大和幹枝, 松野純男, 土肥弘久, 松原美誉子, 長南謙一: 今後の薬学教育研究を指向した国内外の研究動向調査.
日本地域薬局薬学会誌 2024;12(1): 56-66. 2024 年 8 月
3. 倉橋 翔太郎, 松野 純男, 高橋 克之, 山口 眞希, 石川 佳奈, 山本 卓資, 川畑 篤史, 大鳥 徹, 榊原 幹夫: 住宅型有料老人ホーム入居患者の痒みとスキンケアに関する実態調査.
薬局薬学 2025;17(1):54-65. doi: 10.32160/yakkyoku.0a.2024-0022. 2025 年 1 月

4. Tanino T, Ueda Y, Nagai N, Ishihara Y, Saijo M, Funakami Y : In vivo upstream factors of mouse hepatotoxic mechanism with sustained hepatic glutathione depletion: Acetaminophen metabolite-erythrocyte adducts and splenic macrophage-generated reactive oxygen species.
Chem Biol Interact. 2024 Aug 1;398:111091. doi: 10.1016/j.cbi.2024.111091. Epub 2024 May 31. 2024 年 8 月
5. Shimada H, Ikuta H, Hashimoto Y, Yabuuchi Y, Kawase A, Matzno S, Iwaki M : Enzymatic hydrolysis of acyl glucuronide metabolites in human liver microsomes correlates to the risk of idiosyncratic drug toxicity.
Journal of Pharmaceutical Sciences, 2025;114(2), 1307-1314. doi: 10.1016/j.xphs.2025.01.014. 2025 年 2 月

[著書]

1. 大内秀一 (編著) : コンプリヘンシブ「基礎化学」～有機・物化・分析・薬剤を学ぶために～ (第 3 版)
京都廣川書店 2025 年 3 月

[学会・シンポジウム]

1. 大和幹枝、松野純男、土肥弘久、廣原正宜、長南謙一 : 若手薬剤師の統計学に対する意識改善を目的とした教育プログラム開発
日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 27 日
2. 出口貴浩、石田裕美、井上結衣、松野純男、遠藤雄一 : ウンシュウミカン未熟果実の抗アレルギー作用“本体”－主要フラバノン配糖体と高極性成分の交互作用－
日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 28 日
3. 八軒浩子、和田哲幸、船上仁範、大内秀一、松野純男 : 早期体験学習における災害薬事サポーター養成講習会の教育効果について
日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 28 日
4. 山本卓資、小川貴司、岡松岳史、松野純男、小室弘毅 : ロコモ中高年女性に対する体操介入後のマインドフルネスヨガによる 2 ステップテスト値への影響
第 6 回 近畿大学大学院 臨床薬学シンポジウム、2025 年 3 月 1 日
5. 松野 純男 : 薬学部新入生におけるメンタル状況の把握とメンタルケアへの情報収集
シンポジウム 2 : 心理学の軌跡 : 薬学教育における実践的アプローチ－学習の動機づけとそれに関連する諸要因の観点から－
第 9 回 日本薬学教育学会大会 (八王子)、2024 年 8 月 17 日
6. 青江麻衣、清水忠、松野純男、大内秀一、宮部豪人、青木俊二 : 薬学部におけるゲーミフィケーションを用いた化学教育の学修成果の検討 (学修成果に影響を与える学生の特性要因の探索)
第 9 回日本薬学教育学会大会 (東京)、2024 年 8 月 17 日 18 日
7. 和田哲幸、瀧一洋、伊内智、大北篤志、伊内秋夫 : 医療事故裁判例に学ぶ薬剤師の職責 ～薬学部教員から見た医療事故裁判例の重要性～
第 63 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会 (岡山)、2024 年 11 月 16-17 日
8. 伊内秋夫、片岡大士、大北篤志、津田雅子、和田哲幸、鈴木正雄、秋本義雄 : 薬剤師はこのような事故を防げるか? ～危険回避のための患者情報の広域的共有についての一考察～
第 63 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会 (岡山)、2024 年 11 月 16-17 日
9. 伊内智、伊内優里香、片岡大士、大北篤志、津田雅子、和田哲幸、秋本義雄 : 薬学教育での服薬不良患者への対応教育に向けて一薬学生の立場からの要望～抗てんかん薬服薬不良患者による交通事故事例から～
第 57 回 日本薬剤師会学術大会 (埼玉)、2024 年 9 月 22-23 日
10. 伊内秋夫、片岡大士、大北篤志、津田雅子、和田哲幸、秋 義雄 : 薬剤師はこのような事故を防げるか? ～てんかん患者の交通事故による他者の死亡事件～
第 57 回 日本薬剤師会学術大会 (埼玉)、2024 年 9 月 22-23 日
11. 戸島崇、友廣拓生、深尾亜喜良、船上仁範、藤原俊 : Akt シグナルを介した RNA 結合タンパク質と microRNA の拮抗メカニズム
第 47 回日本分子生物学会年会 (福岡) 2024 年 11 月 27-29 日
12. 坂口智祐、友廣拓生、深尾亜喜良、船上仁範、藤原俊伸 : Ago タンパク質のリン酸化がもたらす microRNA

13. 福田将之，友廣拓生，深尾亜喜良，船上仁範，藤原俊伸：RNA 結合タンパク質 ZFP36L1 による mRNA 分解と翻訳抑制との協調機構の解明

第 47 回日本分子生物学会年会（福岡）2024 年 11 月 27～29 日

[外部助成]

1. 松野純男(分担): 新規感染症流行時の医療リソース配置予測に関する研究
令和 4～6 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C) (代表：大星直樹)
2. 松野純男(分担): 薬学におけるゲーミフィケーションを活用した教育の電子アプリ化とその評価
令和 5～7 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C) (代表：青江麻衣)
3. 船上仁範(代表): 非天然型アミノ酸によるストレス誘発慢性疼痛の治療戦略に向けた基礎研究
令和 5～7 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)

[教育・社会活動]

1. 松野純男: ワークショップ「「取りっぱなし」にならないアンケートの作り方・解析法」講師
大阪大谷大学薬学部 地域連携学術交流会—技能講習会 2024 年 9 月 29 日
2. 松野純男: 近畿大学附属福岡高等学校 出張講義 「クスリとリスクー作用は副作用ー」
2024 年 11 月 29 日
3. 松野純男: 薬学共用試験センター システム検討委員会 委員長
2018 年 7 月～
4. 松野純男: 日本薬学教育学会機関誌『薬学教育』編集委員
2018 年 4 月～
5. 松野純男: 薬学教育協議会教科担当教員会議 放射薬学系教科検討委員会委員
2006 年 4 月～
6. 松野純男: 日本私立薬科大学協会 情報科学技術検討委員会 委員
2022 年 4 月～
7. 松野純男: 医療統計推進協会 理事
2019 年 4 月～
8. 松野純男: 文部科学省 令和 5 年度 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究 e-learning コンテンツ作成 WG 委員
2023 年 4 月～2024 年 3 月
9. 大内秀一: 薬学教育協議会教科担当教員会議 有機化学系教科検討委員会委員
2006 年 4 月～
10. 大内秀一: 薬学共用試験センター CBT 実施委員会 委員
2022 年 10 月～
11. 大内秀一: 高校訪問（泉陽高校 他 5 校）での大学・学部説明
2024 年 6 月 24 日
12. 大内秀一: 近畿大学出張講義 初芝立命館高等学校
2024 年 7 月 18 日
13. 大内秀一: 日本私立薬科大学協会 第 44 回教務部長会に出席
2024 年 11 月 22 日
14. 大内秀一: 日本私立薬科大学協会 令和 6 年度第 2 回通常総会に出席
2024 年 11 月 26 日

15. 和田哲幸: 和歌山県薬剤師会 第12回薬学部進学セミナー
2024年11月23日
16. 和田哲幸: 高齢者のための低栄養防止コンソーシウム大阪 代表
2017年10月～
17. 和田哲幸: 実践薬学研究会 副代表
2019年4月～
18. 和田哲幸: 第1回 高齢者の低栄養防止コンソーシウム大阪 多職種連携×健康寿命の延伸プロジェクト
開催、フレイルとお薬～これからの薬剤師～ 講演
2024年4月21日
19. 和田哲幸: 第1回 高齢者の低栄養防止コンソーシウム大阪 多職種連携×健康寿命の延伸プロジェクト
開催、ポリファーマシーが高齢者に与える影響と危険性 講演
2024年9月29日
20. 和田哲幸: 「フレイル予防でより健康な生活を～薬剤師が果たせる役割について～」 八尾薬剤師会 講演
2025年2月9日
21. 船上仁範: 連携講義 おくすり教室 (3年生)
近畿大学附属小学校 2024年12月3日
22. 船上仁範: 連携講義 薬物乱用について (5年生)
近畿大学附属小学校 2025年2月19日
23. 船上仁範: 日本薬理学会 学術評議員
2008年4月1日～

医薬品化学研究室

職・氏名・学位

教 授・前川 智弘・博士(薬学)
Tomohiro Maegawa

担当科目：基礎ゼミ(1)、基礎有機化学(創1)、医薬品化学(医3)、
薬学概論(創1分担)、キャリアデザイン(創1分担)、創薬科学演
習(創3分担)、基礎薬科学実習(1分担)、有機・生薬学実習(医2
分担、創2分担)

所属学会：日本薬学会、有機合成化学協会、プロセス化学会、アメリカ化学会、国際複素環化学会、ヨ
ウ素学会

助 教・松岡 純平・博士(薬学)
Junpei Matsuoka

担当科目：基礎ゼミ(1)、基礎薬科学実習(医1、創1分担)、有機化
学・生薬学実習(医2分担・創2分担)、有機反応化学(創2)

所属学会：日本薬学会、有機合成化学協会、プロセス化学会

現在行われている主な研究テーマ

1. メチレンアセタールの新規変換法の開発
2. 超原子価ヨウ素試薬を用いた転位反応
3. ハロゲン化合物の新規合成法の開発
4. 新しい保護基の開発
5. インドール誘導体合成法の開発
6. ベンゾフラン誘導体合成法の開発
7. アルカリ金属と環状エーテルを用いたアミド活性化法の開発

研究業績

[原著論文]

1. Yamamoto Y, Kambara Y, Matsumoto A, Murata M, Nakamoto M, Ishiura T, Nakai S, China H, Watanabe K, Miyawaki A, Matsuoka J : Regioselective Synthesis of 3,4-Disubstituted Isoxazoles by Using a Chalcone-Rearrangement Strategy Phosphoramidates of Camphorsultam: Versatile Building Blocks for the Synthesis of P-Chiral Phosphorous(V) Compounds
Adv. Synth. Catal. **367**, e202401268, 2025 年 2 月
2. Fujiki Y, Suzuki H, Kikuzawa J, Nishiwaki K, Kawashita N, Matsuoka J, Nakamura A, Maegawa T, Kuwabara A, Kobayashi M, Matsumoto K : Concise Synthetic Routes for Diphenylacetylene from Tetrachloroethylene Using Suzuki Coupling Reaction Followed by Treatment with *n*-Butyllithium
Chem. Lett., **53**, upae043, 2024 年 6 月

[学会・シンポジウム]

1. 松岡純平、林幸則、牧村亜美、田頭絢奈、前川 智弘: 硫黄化合物と NBS を用いたアルデヒド由来環状アセタールの酸化的エステル化反応の開発
日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 28 日
2. 松岡純平、岡口莉子、矢野結菜、前川 智弘: 硫黄化合物を活性化剤とした不活性な芳香環のハロゲン化反応の開発
日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 27 日
3. 松岡純平、片桐龍也、東岡晟也、前川智弘: オルト位の置換基効果に着目した新規 PMB 型保護基の開発
日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 27 日
4. 松村裕斗、金澤勇児、岡村杏子、中村光、松岡 純平、前川 智弘: テレスコーピングを利用したカルコン類からの 2-アシルインドール合成法の開発
日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 27 日

5. 松岡純平、津田波音、倉岡夏彩、八尾浩生、前川智弘: ブロモクロロメタンを用いたカルボン酸のクロロアルキル化反応の開発
日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 27 日
6. 東岡晟也、松岡純平、小寺優吾、中村光、中村真也、仲西功、前川智弘: フッ素系溶媒のみで除去可能な新規 PMB 型保護基の開発
第 50 回反応と合成の進歩シンポジウム (兵庫)、2024 年 10 月 28 日
7. 中村光、大平慎一郎、本若恭詩、亀井結斗、黒田和寿、松岡純平、前川智弘: MOM 保護メルカプト基を用いた温和な条件による含硫黄多環芳香族化合物の合成
第 50 回反応と合成の進歩シンポジウム (兵庫)、2024 年 10 月 28 日
8. 松岡純平、矢野結菜、真柴考志、澤田奈々子、廣瀬優香、中村光、前川智弘: Elemental sulfur による N-ハロスクシンイミドの活性化を利用した芳香環ハロゲン化反応の開発
第 53 回複素環化学討論会 (山口)、2024 年 10 月 11 日
9. 中村光、林真由、中谷彩乃、大平慎一郎、松岡純平、前川智弘: 次亜塩素酸ナトリウム五水和物を利用したベンゾイソチアゾリノン類及びサッカリン類の選択的合成研究
第 53 回複素環化学討論会 (山口)、2024 年 10 月 11 日
10. 中村 光、亀井結斗、東 祐輔、松岡純平、前川智弘: アミノ酸由来配位子とボロン酸を組み合わせた触媒的 aza-Friedel-Crafts 反応の開発
第 74 回日本薬学会関西支部大会 (兵庫)、2024 年 10 月 5 日
11. 松岡純平、川上真奈、山本康友、前川智弘: アルカリ金属類と環状ポリエーテルを用いた分子内ヒドロアミド化反応の開発
第 74 回日本薬学会関西支部大会 (兵庫)、2024 年 10 月 5 日
12. 大平慎一郎、本若恭詩、亀井結斗、饒 非、松岡純平、中村 光、前川智弘: MOM 保護メルカプト基を利用した C-S 結合形成による含硫黄複素環化合物合成法の開発
第 74 回日本薬学会関西支部大会 (兵庫)、2024 年 10 月 5 日
13. 東岡晟也、松岡純平、小寺優吾、中村 光、中村真也、仲西 功、前川智弘: カチオン- π 相互作用に着目した新規 PMB 型保護基の脱保護における反応機構の解析
第 74 回日本薬学会関西支部大会 (兵庫)、2024 年 10 月 5 日
14. Junpei Matsuoka, Yuna Yano, Yuuka Hirose, Koushi Mashiba, Nanako Sawada, Akira Nakamura, Tomohiro Maegawa: Elemental Sulfur (S₈)-Mediated Halogenation with *N*-Halosuccinimides
The 23rd Symposium on Organic Chemistry -the Next Generation- (Tokyo)
2024 年 5 月 31 日

[外部助成]

前川智弘 (代表): 単体硫黄を活性化剤として用いるハロゲン化反応の開発と新規ラジカル反応への展開
令和 5 年～令和 8 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)

前川智弘 (代表): ハロゲン化合物に対する硫黄原子の潜在的な活性化能力を活かした新規合成反応の開発とその応用
令和 6 年～令和 8 年度 公益財団法人 小林財団 研究助成

[報償等]

1. 川上真奈: 優秀ポスター賞
第 74 回日本薬学会関西支部大会 (兵庫)、2024 年 10 月 5 日
2. 岡口莉子: 優秀ポスター賞
日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 28 日
3. 片桐龍也: 優秀ポスター賞
日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 28 日

4. 津田波音: 優秀ポスター賞

日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 28 日

[教育・社会活動]

1. 前川智弘: 薬学教育協会有機化学系教科担当教員会議委員
2. 前川智弘: 日本薬学会化学系薬学部会役員
3. 前川智弘: 日本薬学会代議員
4. 前川智弘: 日本薬学会関西支部委員

創薬分子設計学研究室

職・氏名・学位

教 授・仲西 功・博士(薬学)
Isao Nakanishi

担当科目：近大ゼミ(1)、薬学概論(創1 分担)、情報科学実習(1 分担)、物理化学(創2)、物理化学(医2)、医薬品物性・製剤学実習(医2 分担)、創薬物理化学(創2)、キャリアデザイン(創2 分担)、創薬化学(3 分担)、物理学実習(3)、データサイエンス演習(創2 分担)、香粧品学(創3 分担)、総合演習1(医4 分担)、医薬品開発産学連携講座(創4)、総合薬学演習(医6 分担)、総合演習2(医6 分担)、治験(医6 分担)、その他(臨床検査学関連科目)

所属学会：日本薬学会、日本薬学会構造活性関連部会、日本薬学会医薬化学部会、日本ケミカルバイオロジー学会、日本臨床検査学教育学会

准教授・西脇 敬二・博士(薬学)
Keiji Nishiwaki

担当科目：近大ゼミ(1)、基礎化学(創1 分担)、化学入門(創1 分担)、化学熱力学(創1)、化学演習(創1 分担)、オープンラボ1(創1)、新創薬科学研究コース2(創2)、医薬品物性・製剤学実習(医2 分担)、創薬インフォマティクス演習(創2 分担)、構造活性関連(創3 分担)、総合演習1(医4 分担)、総合薬学演習2(医6)、総合演習2(医6)

所属学会：日本薬学会、日本薬学会医薬化学部会、日本薬学会構造活性関連部会、日本化学会、有機合成化学協会

講 師・中村 真也・博士(薬学)
Shinya Nakamura

担当科目：近大ゼミ(1)、基礎物理化学(医1)、情報科学実習(1 分担)、医薬品物性・製剤学実習(医2 分担)、情報科学(創2 分担)、創薬科学実習3(創3 分担)、構造活性関連(創3 分担)

所属学会：日本薬学会、日本薬学会構造活性関連部会、日本化学会情報化学部会、情報計算化学生物学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 新規 Protein kinase CK2 阻害剤の創出研究
2. 新規 α -Glucosidase 阻害剤の創出研究
3. β -Cyclodextrin とバルビタール類との包接化合物の構造解析・熱力学的研究
4. Fragment Molecular Orbital 法を用いたリガンド結合エネルギーの計算法の改良研究
5. MM-PBSA 法を用いたリガンドの活性予測法の改良研究
6. ドッキング計算と分子動力学法を用いたリガンド結合様式の予測法の開発研究

研究業績

[原著論文]

1. Yamaguchi M, Shimao H, Hamasaki K, Nishiwaki K, Kashimura S, Matsumoto K.: gem-Difluorination of carbon-carbon triple bonds using Brønsted acid/ Bu_4NBF_4 or electrogenerated acid.
Beilstein J. Org. Chem., **20**, 2261-2269, 2024 年 9 月.
2. Fujiki Y., Suzuki H., Kikuzawa J., Nishiwaki K., Kawashita N., Matsuoka J., Nakamura A., Maegawa T., Kuwabara A., Kobayashi M.: Concise synthetic routes for diphenylacetylene from tetrachloroethylene using Suzuki coupling reaction followed by treatment with n-butyllithium.
Chem. Lett., **53**, upae043, 2024 年 6 月.
3. Nishiwaki K, Nakatani S, Nakamura S, Yoshioka K, Nakagawa E, Tsuyuguchi M, Kinoshita T, Nakanishi I.: Enhanced inhibitory activity of compounds containing purine scaffolds compared to protein kinase CK2 α considering crystalline water.
RSC Med. Chem., **15**, 1274-1282, 2024 年 2 月.

[総説]

1. Nakamura S, Nishiwaki K, Tsuyuguchi M, Kinoshita T, Oishi S, Ohno H, Nakanishi I. Compounds designs of CK2 α inhibitors derived from virtual screening hit compounds by computational chemistry with crystallography.
Chem. Pharm. Bull., **72**, 776-780, 2024 年 9 月.

[学会・シンポジウム]

1. 松岡純平、東岡晟也、小寺優吾、中村光、中村真也、仲西功、前川智弘：フッ素系溶媒のみで除去可能な新規 PMB 型保護基の開発
第 50 回反応と合成の進歩シンポジウム、神戸、2024 年 10 月 28 日 (ポスター)
2. Isao Nakanishi, Tatsuo Akaki, Shinya Nakamura, Keiji Nishiwaki. Fragment molecular orbital based affinity prediction toward pyruvate dehydrogenase kinases. Insight into the charge transfer in hydrogen bond networks.
XXVIII EFMC International Symposium on Medicinal Chemistry, Rome (Italy), 2024.9.1-5,
3. Shiori Nakatani, Keiji Nishiwaki, Shinya Nakamura, Kenji Yoshioka, Eri Nakagawa, Enhanced inhibitory activity of compounds containing purine scaffolds against protein kinase CK2 α considering crystalline water.
XXVIII EFMC International Symposium on Medicinal Chemistry, Rome (Italy), 2024.9.1-5.
4. Keiji Nishiwaki, Shinya Nakamura, Kenji Yoshioka, Eri Naka, Shiori Nakatani, Masato Tsuyuguchi, Takayoshi Kinoshita, Isao Nakanishi. Design, synthesis and structure-activity relationship studies of protein kinase CK2 inhibitors containing a purine scaffold.
XXVIII EFMC International Symposium on Medicinal Chemistry, Rome (Italy), 2024.9.1-5.

[教育・社会活動]

1. 仲西功: 第 109 回薬剤師国家試験問題検討委員会「物理・化学・生物」部会 委員
オンライン 2024 年 5 月 13 日
2. 仲西功: バイオインフォマティクス講義 「インシリコ技術を活用したシード化合物探索」
名古屋市立大学薬学部 (名古屋) 2024 年 12 月 16 日
3. 仲西功: 薬学教育支援システム 国試教材 (第 109 回薬剤師国家試験問題 (物理化学分野) 解説作成)
エスエイティーティー株式会社 2024 年 4 月
4. 仲西功: 日本薬学会 構造活性相関部会 常任幹事
～2025 年 3 月
5. 仲西功: 科学研究費補助金 審査員
2024 年 5 月～2025 年 8 月
6. 仲西功: 日本医療研究開発機構 (AMED) 課題評価委員
2024 年 12 月～
7. 仲西功: 蓬庵社 選考委員
2022 年 4 月～
8. 仲西功: 奈良県立奈良高等学校 SSH 運営委員
～2025 年 3 月
9. 仲西功: FMO 創薬コンソーシアム アドバイザー
～2025 年 3 月
10. 仲西功: 北海道医療大学薬学部 自己点検・評価の外部評価委員
2023 年 10 月～2025 年 3 月

11. 中村真也: ケモインフォマティクス若手の会 コアメンバー

～2025 年 3 月

12. 中村真也: 科学技術・学術政策研究所(NISTEP) 専門調査員

～2025 年 3 月

分子医療・ゲノム創薬学研究室

職・氏名・学位

教 授・杉浦 麗子・博士(医学)
Reiko Sugiura

担当科目：基礎ゼミ(1)、薬学概論(創 1 分担)、オープンラボ 2 (創 2 分担)、分子ゲノム薬科学(医 2 分担)、バイオ・ゲノム薬科学(創 2 分担)、ゲノム創薬と再生医療 (創 2 分担)、免疫・分子生物学実習(医 2 分担)、創薬科学実習 2(創 2 分担)、先端ゲノム医療 (医 3 分担)、グローバル創薬科学(創 3 分担)、創薬プレゼン実践演習初級(創 3 分担)、専門科学英語演習(創 4 分担)、創薬プレゼン実践演習上級(創 4 分担)、実践科学英語演習 (創 4 分担)、総合演習 2 (医 6 分担)

所属学会：日本薬学会、日本薬理学会、日本生化学会、日本分子生物学会、日本癌学会、酵母遺伝学フォーラム、日本 RNA 学会、日本プロテインホスファターゼ研究会、日本がん分子標的治療学会

講 師・高崎 輝恒・博士(理学)
Teruaki Takasaki

担当科目：基礎ゼミ(1)、薬学概論(創 1 分担)、基礎生物学(1 分担)、生物学入門(1 分担)、オープンラボ 2 (創 2 分担)、分子ゲノム薬科学(医 2 分担)、バイオ・ゲノム薬科学(創 2 分担)、免疫・分子生物学実習(2 分担)、ゲノム創薬と再生医療 (創 3 分担)、専門科学英語演習(創 4 分担)、創薬プレゼン実践演習初級(創 3 分担)、グローバル創薬科学 (創 3 分担)、創薬プレゼン実践演習上級(創 4 分担)、総合薬学演習 (医 6 分担)

所属学会：日本薬学会、日本薬理学会、日本分子生物学会、酵母遺伝学フォーラム、日本プロテインホスファターゼ研究会

講 師・佐藤 亮介・博士(薬学)
Ryosuke Satoh

担当科目：生物学演習(創 1 分担)、免疫・分子生物学実習(2 分担)、オープンラボ 2 (創 2 分担)、創薬プレゼン実践演習初級(創 3 分担)、グローバル創薬科学 (創 3 分担)、専門科学英語演習(創 4 分担)、創薬プレゼン実践演習上級(創 4 分担)、総合演習 1 (医 4 分担)、総合演習 2 (医 6 分担)

所属学会：日本薬学会、日本薬理学会、日本生化学会、酵母遺伝学フォーラム、日本分子生物学会、日本 RNA 学会、日本プロテインホスファターゼ研究会

現在行われている主な研究テーマ

1. ゲノム薬理学の手法を用いた MAP キナーゼシグナル制御因子の同定とがん化のメカニズムの解明
2. がん化シグナルを活性化させることによるがん細胞選択的細胞死誘導法の開発
3. がん細胞の酸化ストレス脆弱性を標的としたがん治療戦略の開発
4. MAPK シグナルと mRNA 結合タンパク質制御の関わり
5. ケミカルバイオロジーの手法を用いた抗がん薬探索と革新的抗がん剤開発
6. 免疫抑制薬 FTY720 の抗腫瘍活性発現に関わる細胞内シグナル伝達機構の解析
7. 癌や中枢神経疾患の病態に関わる細胞内凝集体調節機構の解明
8. 細胞内輸送システムのゲノム薬理学的研究

研究業績

[原著論文]

1. Takasaki T, Yamada R, Sugimoto Y, Sugiura R: Alpha-Synuclein Fails to Form Aggregates in Endocytosis-Defective Fission Yeast Strains, $\Delta myo1$ and $\Delta end4$.
MicroPubl Biol., 2025:10.17912/micropub.biology.001479, 2025 年 1 月
2. Sugimoto Y, Takasaki T, Yamada R, Kurosaki R, Yamane T, Sugiura R: Rapamycin Abrogates Aggregation of Human α -Synuclein Expressed in Fission Yeast via an Autophagy-Independent Mechanism.
Genes Cells., **30**(1), e13185, 2025 年 1 月

3. Takasaki T, Bamba A, Kukita Y, Nishida A, Kanbayashi D, Hagihara K, Satoh R, Ishihara K, Sugiura R: Rcn1, the fission yeast homolog of human DSCR1, regulates arsenite tolerance independently from calcineurin.
Genes Cells., **29**(7), 589-598, 2024 年 7 月
4. Takasaki T, Yamada M, Ikeda H, Fang Y, Sugiura R: Characterization of a valproic acid-sensitive mutant allele of the Golgi GDP-mannose transmembrane transporter Vrg4 in *Schizosaccharomyces pombe*.
MicroPubl Biol., 2024:10.17912/micropub.biology.001287, 2024 年 8 月
5. Tomimoto N, Takasaki T, Sugiura R : Arsenite treatment induces Hsp90 aggregates distinct from conventional stress granules in fission yeast.
Microb Cell., **11**, 242-253, 2024 年 7 月

[学会・シンポジウム]

1. Takasaki T, Satoh R, Sugiura R: LESSONS FROM THE CALCINEURIN KNOCKOUT FISSION YEAST: THE BROAD CONTRIBUTION OF CALCINEURIN IN CELLULAR HOMEOSTASIS AND CELL SURVIVAL
Protein Phosphatases Conference (FASEB Science Research Conferences) (米国・Palm Springs)
2024 年 12 月 8 日
2. 山田 琉雅, 杉本 恵崇, 高崎 輝恒, 杉浦 麗子: mTOR 阻害剤 Rapamycin はパーキンソン病モデル分裂酵母細胞においてヒト α -synuclein の凝集形成を抑制する
第 146 回日本薬理学会近畿部会 (京都) 2024 年 11 月 30 日
3. 秦 しほみ, 富本 尚史, 高崎 輝恒, 杉浦 麗子: 分裂酵母プロテインキナーゼ C のストレス顆粒移行の制御機構と MAPK シグナル経路活性化の関わり
第 146 回日本薬理学会近畿部会 (京都) 2024 年 11 月 30 日
4. 泉 大地, 高崎 輝恒, 杉浦 麗子: 新規抗がん剤候補化合物 ACA-28 耐性骨肉腫細胞に対して ACA-28 のがん細胞増殖阻害効果を増強する方法—新規抗がん剤候補化合物 ACA-28 耐性機構と抗がん作用増強における NRF-2 の役割—
第 146 回日本薬理学会近畿部会 (京都) 2024 年 11 月 30 日
5. 富本尚史, 高崎輝恒, 杉浦麗子: ヒ素ストレス時に形成されるストレス顆粒とは異なる顆粒構造体 ; Hsp90 顆粒の発見
第 47 回 日本分子生物学会年会 (福岡)、2024 年 11 月 27~29 日
6. 富本尚史, 高崎輝恒, 杉浦麗子: ヒ素ストレス時に特異的に形成される Hsp90 顆粒の解析
第 57 回酵母遺伝学フォーラム (香川)、2024 年 9 月 9~11 日

[外部助成]

1. 佐藤亮介(代表): RNA 相分離によるシグナル伝達スイッチを介した細胞運命制御機構
令和 6 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
2. 高崎輝恒(代表): キャンディン系抗真菌薬の感受性を左右するオートファジー依存的細胞死機構の解析
令和 6 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)

[報償等]

1. 杉浦麗子: ホスファターゼ研究会 功労賞

[教育・社会活動]

1. 杉浦麗子: 日本学術振興会 科学研究費補助金審査委員
2005 年 4 月~2025 年 3 月
2. 杉浦麗子: 日本学術振興会 博士研究員審査委員
2007 年 4 月~2025 年 3 月
3. 杉浦麗子: 薬理学会 評議員
2010 年 4 月~

4. 杉浦麗子: PLoS Journal Editor
5. 杉浦麗子: Microbial Cell Editor

2015 年 4 月~

2017 年 9 月~

薬品分析学研究室

職・氏名・学位

教 授・木下 充弘・博士(薬学)
Mitsuhiro Kinoshita

担当科目：近大ゼミ(1)、分析化学 1(医・創 1 分担)、分析化学 2(医・創 2)、キャリアデザイン(創 2)、医薬品物性・製剤学実習(医 2 分担)、分析化学・製剤学実習(創 2 分担)

所属学会：日本薬学会、日本分析化学会、日本糖質学会、日本生化学会

准教授・山本 佐知雄・博士(薬学)
Sachio Yamamoto

担当科目：近大ゼミ(1)、分析化学 1(医・創 1 分担)、化学演習(創 1 分担)、キャリアデザイン(創 2 分担)、医薬品物性・製剤学実習(医 2 分担)、分析化学・製剤学実習(創 2 分担)

所属学会：日本薬学会、クロマトグラフィー科学会、日本分析化学会、化学とマイクロ・ナノシステム学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 糖タンパク質糖鎖の完全自動化解析
2. 細胞増殖シグナル依存的なタンパク質糖鎖変化の解析
3. グライコームアプローチによる糖鎖バイオマーカーの探索
4. マイクロチップ電気泳動法のための高度濃縮法の開発
5. キャピラリー電気泳動における新規分離モードと分離技術の開発
6. アフィニティーキャピラリー電気泳動を使った糖タンパク質性医薬品の品質管理

研究業績

[原著論文]

1. Yamamoto S, Ueda Y, Onishi S, Kinoshita M : Twisted Nylon Monofilament Mold Microchips for On-Line Derivatization of Oligosaccharides Utilizing 8-Aminopyrene-1,3,6-Trisulfonic Acid
Chromatography, **46**, 35-39 2025 年 2 月
2. Yamada K, Asada K, Hanzawa K, Aoki Y, Nakajima K, Kinoshita M : Developing Method for Minor Acidic O-Glycan Analysis in Mucin and Cancer Cell Samples
J. Proteome Res., **23**, 4254-4272 2024 年 10 月
3. Miki T, Yamamoto S, Liu C, Torikai K, Kinoshita M, Matsumori N, Kawai T. : Highly sensitive two-dimensional profiling of N-linked glycans by hydrophilic interaction liquid chromatography and dual stacking capillary gel electrophoresis
Anal. Chim. Acta, **1320**, 342990 2024 年 9 月
4. 木下充弘、山田佳太 : 糖鎖の深層理解のための分析技術～糖鎖の定量解析技術が果たす役割～
生化学, **96**, 199-206 2024 年 6 月

[学会・シンポジウム]

1. 山本佐知雄、青木南、小坂隆貴、玉利明咲、井田さくら、坂口菜緒、木下充弘：マイクロ流体デバイスによる蛍光標識化糖鎖のフロー電解合成
日本薬学会第 145 年会（福岡）2025 年 3 月
2. 山本佐知雄、小坂隆貴、青木南、木下充弘：マイクロ流体デバイスによる蛍光標識化糖鎖のフロー電解合成
第 44 回キャピラリー電気泳動シンポジウム（北海道）2024 年 10 月
3. 國吉美杏、山本佐知雄、木下充弘：シアル酸のアルキルアミド修飾と逆相 HPLC カラムによる N-結合型糖鎖混合物の分離能向上
第 36 回バイオメディカル分析科学シンポジウム（静岡）2024 年 8 月

4. 山本佐知雄、小坂隆貴、青木南、木下充弘: マイクロ流体デバイスによる蛍光標識化糖鎖のフロー電解合成
第 36 回バイオメディカル分析科学シンポジウム (静岡) 2024 年 8 月
5. 國吉美杏、山本佐知雄、木下充弘: シアル酸含糖鎖のアルキルアミド化による逆相 HPLC におけるピーク
キャパシティの向上
第 31 回クロマトグラフィーシンポジウム (沖縄) 2024 年 6 月
6. 山本佐知雄、西川彪、清水聖也、西村芙呂琉、木下充弘: キャピラリー電気泳動による 2-aminobenzoic acid
標識化 O-結合型糖鎖のオンライン構造解析法の開発
第 84 回分析化学討論会 (京都) 2024 年 5 月

[外部助成]

1. 山本佐知雄: タンパク質翻訳後修飾の in situ 全自動高速解析用マイクロチップ電気泳動法
令和 5～7 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)
2. 山本佐知雄 (分担): 超高感度キャピラリー電気泳動技術を基盤とした次世代グライコシーケンサーの開
発
令和 5～8 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B)
3. 山本佐知雄: 高速全自動マイクロチップ電気泳動システムによる糖タンパク質糖鎖を指標とした新規臨床
検査法の開発
令和 5 年～6 年度 黒住医学研究振興財団 第 31 回研究助成金
4. 山本佐知雄: 糖鎖解析に関する研究
令和 6 年～7 年度 シーエステック株式会社

[教育・社会活動]

1. 木下充弘: 日本分析化学会電気泳動分析研究懇談会 委員
2017 年 4 月～
2. 木下充弘: 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) 生物薬品委員会委員
2020 年 12 月～
3. 山本佐知雄: タンパク質科学会アーカイブ編集委員
2021 年 4 月～
4. 山本佐知雄: 日本分析化学会電気泳動分析研究懇談会 委員
2019 年 4 月～
5. 山本佐知雄: 日本分析化学会近畿支部 幹事
2024 年 4 月～
6. 山本佐知雄: クロマトグラフィー科学会 評議員
2022 年 1 月～

薬用資源学研究室

職・氏名・学位

教 授・遠藤 雄一・博士(薬学)
Yuichi Endo

担当科目：近大ゼミ(1)、薬用資源学(1 分担)、薬学概論(創 1 分担)、
基礎薬科学実習(1 分担)、キャリアデザイン(創 2 分担)、医薬品開発
論(創 2 分担)、有機化学・生薬学実習(2 分担)、漢方薬学(3)、インタ
ーシップ(創 3 分担)、産学連携講座(創 3 分担)

所属学会：日本薬学会、日本生薬学会、和漢医薬学会、日本東洋医学会、薬用植物栽培研究会、
日本癌学会

准教授・村田 和也・博士(農学)
Kazuya Murata

担当科目：近大ゼミ(1)、基礎薬科学実習(1 分担)、天然物薬化学(3)、
医薬品開発論(創 2 分担)、薬学専門英語(創 3 分担)、香粧品学(3 分
担)、データサイエンス演習(創 2 分担)、有機化学・生薬学実習(2 分
担)

所属学会：日本薬学会、日本化学会、日本生薬学会、アメリカ化学会、日本農芸化学会

講師・高浦 佳代子・博士(薬学)
Kayoko Takaura

担当科目：近大ゼミ(1)、薬用資源学(1 分担)、基礎薬科学実習(1 分
担)、有機化学・生薬学実習(2 分担)、グローバル創薬科学演習(創 3
分担)

所属学会：日本薬学会、日本生薬学会、和漢医薬学会、日本東洋医学会、薬用植物栽培研究会、
日本薬史学会、文化財保存修復学会、国際園芸学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 未利用農産資源からの機能性素材開発
2. 薬用人参、インド産薬用植物の機能性探索
3. 独居性カリバチ毒液成分の構造解析
4. 柿蒂の品質研究
5. 芍薬の品質研究
6. 漢方処方における生薬配合意義の化学的解明

研究業績

[原著論文]

1. Nakano T, Okita K, Okazaki S, Yoshimoto S, Masuko S, Yagi H, Kato K, Tomioka Y, Imai K, Hamada Y, Masuko K, Shimada-Takaura K, Nagai N, Saya H, Arai T, Ishiwata T, Masuko T: CD44v, S1PR1, HER3, MET and cancer-associated amino acid transporters are promising targets for the pancreatic cancers characterized using mAb
FEBS Open Bio, **15**(5), 867-884, 2025 年 1 月

[総説]

1. 高浦佳代子：日本薬史学会 70 周年記念座談会「この 10 年を振り返り、そしてこれから 10 年を思う」
薬史学雑誌, **59**(1), 8-13, 2024 年 6 月
2. 高浦佳代子：緒方洪庵関連薬物の研究と標本資料の意義（柴田フォーラム講演録）
薬史学雑誌, **59**(2), 131-136, 2024 年 12 月
3. 高橋京子、善利佑記、高浦佳代子：森野旧薬園の環境植物学的意義：生息植物の時系列的解析による生態評価
薬用植物研究, **46**(2), 4-20, 2024 年 12 月

[著書]

1. 高浦佳代子（分担執筆）：薬食同源を実装する園芸作物ビジネスの新産業化～柿・桃・シャクヤク・サフランを活用して～、後藤一寿、高橋京子編著
pp. 11-21, 29-53、大阪大学出版会 2024 年 10 月
2. 高浦佳代子（分担執筆）：緒方洪庵全集第三卷（下）著作（その四）、適塾記念会緒方洪庵全集編集委員会編
pp. 209-289、大阪大学出版会 2025 年 3 月

[その他の刊行物]

1. 高浦佳代子：日本薬史学会奨励賞を受賞して
2025 年 3 月 薬史レター94 号
2. 高浦佳代子：日本薬史学会優秀発表賞を受賞して
2025 年 3 月 薬史レター94 号
3. 高浦佳代子：第 46 回 ICHP（国際薬史学会）報告
2025 年 3 月 薬史レター94 号

[学会・シンポジウム]

1. Shimada-Takaura K, Bando O, Zenri Y, Takahashi K, Endo Y: The exploration of crude drug specimens: their significance and application for the analysis of region specificity.
46th International Congress for the History of Pharmacy (Belgrade, Serbia)、2024 年 9 月 7 日
2. 出口貴浩、石田裕美、井上結衣、和田佑哉、遠藤雄一：ウンシュウミカン未熟果実のヒスタミン遊離抑制作用 “本体”
日本生薬学会第 70 回年会（東大阪）、2024 年 9 月 15 日
3. 佐藤希美、高浦佳代子、前川歩、福田浩三、矢野孝喜、川嶋浩樹、高橋京子、遠藤雄一：GC-Olfactometry を用いた芍薬香気の官能評価と品種間比較
日本生薬学会第 70 回年会（東大阪）、2024 年 9 月 15 日
4. 村田和也、中村俊也、遠藤雄一：カリバチ毒液中における L-tryptophan 由来代謝物の分析
日本生薬学会第 70 回年会（東大阪）、2024 年 9 月 16 日
5. 北庄司椋平、大竹裕子、遠藤雄一、小竹武、長井紀章：漢方エキス製剤の懸濁服用時における分散系評価—麻黄附子細辛湯と葛根湯—
第 74 回日本薬学会関西支部総会（西宮）、2024 年 10 月 5 日
6. 中村俊也、村田和也、遠藤雄一：カリバチ毒液中における L-tryptophan 由来代謝物の分析
第 74 回日本薬学会関西支部総会（西宮）、2024 年 10 月 5 日
7. 竹中福馬、高浦佳代子、桃井麻見、蓮尾美月、簀唯斗、大野莉穂、遠藤雄一：柿蒂の総ポリフェノール含量と糖含量の多変量解析による比較
第 74 回日本薬学会関西支部総会（西宮）、2024 年 10 月 5 日
8. 尾越風花、吉川美純、湯谷尚美、古家璃奈、出口貴浩、高浦佳代子、遠藤雄一：ウンシュウミカン（*Citrus unshiu*）未熟果実の蛍光指紋によるサイズ分類
第 74 回日本薬学会関西支部総会（西宮）、2024 年 10 月 5 日
9. 村田和也、遠藤雄一：独居性カリバチ毒液成分の解析
第 10 回食品薬学シンポジウム（豊中）、2024 年 10 月 13 日
10. 坂東桜羽、高浦（島田）佳代子、遠藤雄一：近畿大学所蔵のペニック標本の調査研究
日本薬史学会 2024 年会（東京）、2024 年 11 月 2 日
11. 高浦佳代子、盛大翔、佐藤希美、福田浩三、遠藤雄一：当帰由来精油中の香气成分の産地間比較
日本薬学会第 145 年会（博多）、2025 年 3 月 27 日
12. 出口貴浩、石田裕美、井上結衣、松野純男、遠藤雄一：ウンシュウミカン未熟果実の抗アレルギー作用 “本

体”ー主要フラバノン配糖体と高極性成分の交互作用ー

日本薬学会第 145 年会（博多）、2025 年 3 月 28 日

13. 和田佑哉、出口貴浩、浅井佐樹絵、鈴木美羽、原昌弘、遠藤雄一：三七人参および dencichine の線溶系への作用研究：プラスミン阻害試験

日本薬学会第 145 年会（博多）、2025 年 3 月 28 日

14. 村田和也、中村俊也、山本裕輝、鷺山悠里、村井亮祐、遠藤雄一：独居性カリバチオオモンツチバチ (*Scolia histrionica*) 毒液成分の解析

日本薬学会第 145 年会（博多）、2025 年 3 月 28 日

[外部助成]

1. 遠藤雄一(代表)：民間企業からの受託研究 3 件、寄附研究 1 件
2. 高浦佳代子(代表)：実験薬史学的手法と新規非破壊分析法による蘭方医薬学の実態解明
令和 5 年度 文部科学省科学研究費補助金 挑戦的研究(萌芽)
3. 高浦佳代子(代表)：The exploration of the suites of crude drug specimens collected around early 20th century reflecting the region specific ‘medicinal culture’.

International Society for the Hisotry of Pharmacy Research Grant 2023/24

[報償等]

1. 高浦佳代子：2023 年度日本薬史学会奨励賞
日本薬史学会総会（東京）2024 年 4 月 27 日
2. 高浦佳代子：令和 6 年度日本生薬学会論文賞（Highly Cited Article Award for JONM）
日本生薬学会第 70 回年会（東大阪）2024 年 9 月 16 日
3. 坂東桜羽：2024 年度日本薬史学会優秀発表賞
日本薬史学会 2024 年会（東京）2024 年 11 月 2 日

[教育・社会活動]

1. 遠藤雄一：薬学教育協議会生薬学・天然物化学関連教科担当教員
2024 年 4 月～2025 年 3 月
2. 遠藤雄一：日本生薬学会漢方薬・生薬認定薬剤師研修委員会委員
2024 年 4 月～2025 年 3 月
3. 遠藤雄一：日本薬学会関西支部委員
2024 年 4 月～2025 年 3 月
4. 遠藤雄一：日本私立薬科大学協会学生部長会委員
2024 年 4 月～2024 年 9 月
5. 遠藤雄一：近畿大学薬学部薬用植物園園長
2024 年 4 月～2025 年 3 月
6. 遠藤雄一：株式会社ア・ファーマ近大取締役
2024 年 4 月～2025 年 3 月
7. 遠藤雄一：国際標準化委員会 ISO/TC249 国内委員・WG エキスパート
2024 年 10 月～2025 年 3 月
8. 遠藤雄一：大阪高齢者大学校講演会「医薬品、健康食品などの素材植物」
2024 年 5 月 24 日
9. 遠藤雄一：大阪府民カレッジ講演会「薬用植物の観察及び知識を得る」
2024 年 5 月 28 日

10. 村田和也：日本生薬学会関西支部委員
2024 年 4 月～2025 年 3 月
11. 村田和也：生薬分析シンポジウム事務局
2024 年 9 月～2025 年 8 月
12. 高浦佳代子：日本薬史学会企画委員
2024 年 4 月～2025 年 3 月
13. 高浦佳代子：日本東洋医学会生薬原料委員
2024 年 4 月～2025 年 3 月
14. 高浦佳代子：大阪大学適塾記念センター招へい教員
2024 年 4 月～2025 年 3 月
15. 高浦佳代子：2024 年度柴田フォーラム「緒方洪庵関連薬物の研究と標本資料の意義」
2024 年 8 月 3 日
16. 高浦佳代子：日本漢方生薬ソムリエ協会 Zoom 談話会「生薬標本の調査研究」
2025 年 3 月 14 日
17. 遠藤雄一、村田和也、高浦佳代子：日本薬学会第 70 回年会実行委員
2023 年 12 月～2024 年 9 月
18. 遠藤雄一、高浦佳代子：近畿大学アカデミックシアターACT プロジェクト「生薬の図書館プロジェクト」
2024 年 4 月～2025 年 3 月

薬学総合研究所 機能性植物工学研究室

職・氏名・学位

教 授・角谷晃司・農学博士
Koji Kakutani

担当科目：近大ゼミ(1)、キャリアデザイン(創2分担)、細胞生物学
(医2、創2)、生命の科学 (KICS オンデマンド)

所属学会：日本薬学会、日本生薬学会、日本植物細胞分子生物学会、日本農芸化学学会、薬用植物栽培
研究会

講 師・中村恭子・生命科学博士
Kyoko Nakamura

担当科目：近大ゼミ(1)、生命の科学 (KICS オンデマンド)

所属学会：日本分子生物学会、日本糖尿病学会、日本薬理学会、高血圧関連疾患モデル学会、日本生薬
学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 薬用植物の優良系統の大量増殖に関する研究
2. アンチエイジング作用を有する機能性成分の開発研究
3. 国内虫草菌の培養と有効成分の探索に関する研究
4. 静電場スクリーンを用いた花粉およびウイルス粒子捕捉効果に関する研究
5. 植物廃棄物の利活用に関する研究

研究業績

[原著]

1. Takikawa Y, Matsuda Y, Kakutani K, Sonoda T, Toyoda H : A Simple Window Screen to Create Electric Discharges for Repelling and Exterminating Stable Flies and Houseflies in Cattle Barns.
Agriculture **14**(9) 1435-1435 2024 年 8 月
2. Matsuda Y, Kakutani K, Toyoda H : A Simple Electrostatic Apparatus for Controlling Weeds on Slopes without Causing Soil Erosion.
Am. J. Civ. Eng. Archit., **12**(1), 1-7 2024 年 1 月

[その他の刊行物]

[学会・シンポジウム]

1. 中垣内 美里、走 優名、角谷 晃司：サフラン花弁抽出物の抗糖化作用およびMMP阻害作用の評価
日本農芸化学会2024年度大会（東京）3月25日（口頭）
2. 窪田 愛華、西光 由真、赤井 美帆、神保 有亮、角谷 晃司：リコテトラオース処理における正常ヒト皮膚線維芽細胞の遺伝子発現の解析
日本農芸化学会2024年度大会（東京）3月27日（口頭）
3. 窪田 愛華、角谷 晃司：リコテトラオース処理による正常ヒト皮膚線維芽細胞の遺伝子発現の解析
日本生薬学会第70回年会（大阪）9月15日(ポスター)
4. 中垣内 美里、山口 明、角谷 晃司：サフラン花弁抽出物の抗糖化作用と脂肪蓄積抑制効果
日本生薬学会第70回年会（大阪）9月15日(ポスター)
5. 松村 航希、西光 由真、中村 日向子、角谷 晃司：組換えトマチナーゼを利用したリコテトラオースの効率的な生産
日本生薬学会第70回年会（大阪）9月16日(ポスター)

[研究報告書]

[外部助成]

1. 角谷晃司(代表): トマト茎葉廃棄物の利活用に関する研究
クレハ
2. 角谷晃司(代表): 高付加価値植物の組織培養生産技術の確立による新たな有用物質の探索
ファルマクリエ神戸
3. 角谷晃司(代表): 日本茜の栽培に関する生産効率向上と染色用途での確保と高度化に関する研究
日本茜再生機構
4. 中村恭子(代表): 高血糖状態が新型コロナウイルス感染に及ぼす影響
令和4年度～令和6年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)

[特許]

1. 松田克礼、角谷晃司、野々村照雄、瀧川義浩、豊田秀吉、草刈真一、岡田清嗣、柴尾学、松本吉雄、美山和宏、園田隆博: 微小粒子状物質補足装置 (特許第 7146186 号)
学校法人近畿大学、地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所、アース環境サービス株式会社、株式会社園田製作所
2. 角谷晃司、阿部晃里、滑川明夫、神保有亮: α -トマチンの製造方法 (特願 2021-098718)
学校法人近畿大学、株式会社クレハ環境、株式会社クレハ (2021 年 6 月 10 出願)
3. 角谷晃司、松田克礼、野々村照雄、豊田秀吉、瀧川義浩、草刈真一、園田隆博、藤本和隆: 空気処理装置及びその処理方法捕捉装置 (特願 2021-195456)
学校法人近畿大学、地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所、株式会社園田製作所、トワロン株式会社 (2021 年 12 月 1 日 出願)

[教育・社会活動]

1. 角谷晃司: 静電場スクリーン研究会 幹事
2016 年 4 月～
2. 角谷晃司: アンエイジングセンター 副センター長
2023 年 4 月～
3. 角谷晃司: 全学横断型研究プロジェクト
研究クラスター③環境・エネルギー・再生
静電場技術を利用した環境改善技術の開発 (提案者: 角谷晃司)
2021 年 4 月～
4. 角谷晃司: ACT プロジェクト (日本茜魅力発見プロジェクト)
2023 年 4 月～

薬学総合研究所 食品薬学研究室

職・氏名・学位

教授・森川 敏生・博士(薬学)
Toshio Morikawa

担当科目：近大ゼミ(1)、分析化学 3(医 2 分担)、分析化学 3(創 2)、食品薬学(創 3)、基礎薬科学実習(1 分担)、有機化学・生薬学実習(2 分担)

所属学会：日本薬学会、日本生薬学会、和漢医薬学会、有機合成化学協会、日本農芸化学会、日本栄養・食糧学会、日本油化学学会、日本薬史学会、アメリカ化学会、アジア植物化学協会、日本食品化学学会、日本女性医学学会、日本抗加齢医学会、日本香粧品学会、日本杜仲研究会、セラミド研究会、天然香気研究会、日本ヘアケア天然素材研究協会

講師・萬瀬 貴昭・博士(薬学)
Yoshiaki Manse
(令和 7 年 2 月 28 日まで)

担当科目：近大ゼミ(1)、化学英語(医 2 分担)、基礎薬科学実習(1 分担)、有機化学・生薬学実習(2 分担)

所属学会：日本薬学会、日本生薬学会、和漢医薬学会、日本栄養・食糧学会、日本香粧品学会、日本ヘアケア天然素材研究協会

現在行われている主な研究テーマ

1. 世界各地の伝統・伝承薬物の伝承薬効の科学的解明および新規機能開拓
2. 機能性食品素材からの生物活性成分の探索研究
3. 補完代替医療素材の科学的評価とその機能性成分をシーズとする食品薬学研究
4. 天然由来化合物の作用メカニズムおよび構造活性相関の解明と分子プローブの創製

研究業績

[原著論文]

1. Saeki T, Yamamoto S, Akaki J, Tanaka T, Nakasone M, Ikeda H, Wang W, Inoue M, Manse Y, Ninomiya K, Morikawa T : Ameliorative effect of bofutsushosan (Fangfengtongshengsan) extract on the progression of aging-induced obesity
J. Nat. Med., **78**, 576–589 (2024) 、2024 年 6 月
2. Miyasaka K, Takada R, Wu J, Takeda S, Manse Y, Morikawa T, Shimoda H : Hypoglycemic effects of mountain caviar extract and inhibitory mechanism of saponins, including momordin Ic, on glucose absorption
J. Nat. Med., **78**, 693–701 (2024) 、2024 年 6 月
3. Morikawa T, Inoue N, Yamamoto S, Shiotani M, Manse Y, Ninomiya K : Alkylphthalides with intracellular triglyceride metabolism-promoting activity from the rhizomes of *Cnidium officinale* Makino
J. Nat. Med., **78**, 709–721 (2024) 、2024 年 6 月
4. Yoneda A, Takeda S, Miyasaka K, Manse Y, Morikawa T, Shimoda H : Epidermal and blood vessel barrier functions of glucosylceramides and digalactosyldiacylglycerols isolated from yellow strawberry guava
Processes, **12**, 1421 (2024) 、2024 年 7 月
5. Tanaka S, Matsumoto N, Makino T, Morikawa T, Ito M : Novel compounds isolated from health food products containing beni-koji (red yeast rice) with adverse event reports.
J. Nat. Med., **78**, 845–848 (2024) 、2024 年 9 月
6. 田上貴臣、石田晃大、石原理恵、植松 猛、大井逸輝、岡坂 衛、河端昭子、谷手紗也香、蔦原稜太、西尾雅世、山本 豊、横倉胤夫、吉川 舜、北澤 尚、熊谷健夫、吉松嘉代、伊藤美千穂、酒井英二、森川敏生、松田久司：インヨウカクについて：HPLC によるイカリイン分析法の検討と市場品及び採取品の分析
生薬学雑誌 **79**, 1–11 (2025) 、2025 年 2 月
7. Tsubaki M, Kato N, Tateishi K, Yoshida K, Matsuo T, Komori R, Morikawa T, Nishida S : *Lentinula edodes mycelia* extract abrogates chemotherapy-evoked cold and mechanical allodynia in mice

[総説]

1. 長友暁史、森川敏生：天然からの脂質代謝改善作用成分の探索と食品への応用
BIO Clinica, 39, 797–803 (2024)、2024 年 9 月

[著書]

1. 森川敏生（分筆）、山野善正（監修）：『青果物のおいしさの科学』エヌ・ティー・エス（NTS, 東京）
第 3 章第 7 節 食用素材としての花部の機能性、pp. 283–288、2024 年 11 月
ISBN978-4-86043-914-9
2. 川崎郁勇、森川敏生、田邊元三：『innovated 構造解析プラクティス 第 3 版』京都廣川書店（東京）
2025 年 3 月
ISBN978-4-910844-36-7

[その他の刊行物]

1. (寄稿) 森川敏生：学生が求める新しい学びのかたち！「近畿大学アカデミックシアター」
大阪国際サイエンスクラブ会報, 280, 4–7 (2024) 、2024 年 10 月
2. (新聞) 久保田高明、荒井雅吉、森川敏生：モノトリサイエンスアップデート（日本薬学会、日本生薬学会 共催） 日本薬学会第 145 年会シンポジウムの概要
薬事日報 2025(令和 7)年 3 月 21 日、株式会社薬事日報社（東京）、p. 5、2025 年 3 月

[学会・シンポジウム]

1. 高田隆矢、竹田翔伍、萬瀬貴昭、下田博司、松田久司、森川敏生：とんぶり由来トリテルペンサポニン momordin Ic の脂質吸収抑制作用
日本食品化学学会第 30 回総会・学術大会（東京）、2024 年 5 月 23-24 日
（国内・口頭）
2. 武田匠平、大津行延、高田隆矢、坂本裕介、萬瀬貴昭、眞岡孝至、松田久司、森川敏生：ヒュウガトウキ由来ケラクトン型クマリンの定量分析およびその抗アレルギー作用
日本食品化学学会第 30 回総会・学術大会（東京）、2024 年 5 月 23-24 日
（国内・ポスター）
3. 米田朱里、竹田翔伍、萬瀬貴昭、下田博司、森川敏生：米由来新規アシル化グルコシルセラミドの化学構造および表皮保湿作用
第 78 回日本栄養・食糧学会大会（福岡）、2024 年 5 月 24-26 日
（国内・口頭）
4. 山田さくら、萬瀬貴昭、隅田昂太、坂本裕介、森川敏生：延命草に含有される enmein の HSP90 阻害を介した NO 産生抑制作用
第 78 回日本栄養・食糧学会大会（福岡）、2024 年 5 月 24-26 日
（国内・口頭）
5. 下田博司、米田朱里、竹田翔伍、萬瀬貴昭、森川敏生：イエローストロベリーグアバ果実の含有成分とその機能性
第 78 回日本栄養・食糧学会大会（福岡）、2024 年 5 月 24-26 日
（国内・口頭）
6. 竹田翔伍、宮坂賢知、高田隆矢、鈴木直子、飯尾晋一郎、柿沼俊光、馬場亜沙美、野口隼太、山本和雄、山田和佳奈、平野麻里奈、萬瀬貴昭、高良 毅、永田雅文、森川敏生、下田博司：マウンテンキャビア抽出物および含有サポニンの食後血糖値上昇抑制作用
第 78 回日本栄養・食糧学会大会（福岡）、2024 年 5 月 24-26 日
（国内・口頭）
7. 長友暁史、河野麻実子、川上宏智、萬瀬貴昭、森川敏生：ローズヒップ由来ティリロサイドのマウス肝臓からの VLDL 分泌抑制作用
第 24 回日本抗加齢医学会総会（熊本）、2024 年 5 月 31 日-6 月 2 日
（国内・ポスター）

8. 高山 真、貝沼茂三郎、森川敏生、植田圭吾、山田麻未 : 日本東洋医学会編集委員会企画 日本東洋医学雑誌, Traditional and Kampo Medicine ご投稿のお願い
第 74 回日本東洋医学会学術総会 (大阪)、2024 年 5 月 31 日-6 月 2 日
(国内・口頭)
9. 萬瀬貴昭、長友暁史、山田玲実、渡邊秀太、森川敏生 : ブラジル天然資源 Andiroba 由来リモノイド成分のメラニン産生抑制作用およびその作用機序の解析
第 49 回日本香粧品学会 (東京)、2024 年 6 月 28-29 日
(国内・口頭)
10. Morikawa T : Novel thiosugar sulfoniums, salacinol and neokotalanol, with antidiabetic activity obtained from plants of genus *Salacia*
International Congress on Natural Products Research (ICNPR2024, Kraków, Poland)、2024 年 7 月 13-17 日
(国際・口頭)
11. 高島克輝、鈴木璃子、石川文洋、丸本真輔、森川敏生、田邊元三 : 新規 *S,O*-配糖体形成反応を用いた植物性天然物 Calanthoside の全合成とその HFDP 細胞増殖作用に関する構造活性相関
第 44 回有機合成若手セミナー「明日の有機合成を担う人のために」(大阪)、2024 年 8 月 1 日
(国内・ポスター)
12. 森川敏生 : 食品薬学に関する最近の話題
日本杜仲研究会第 18 回定期大会 (大阪)、2024 年 8 月 2 日
(国際・口頭)
13. 高田隆矢、武田匠平、大津行延、坂本裕介、萬瀬貴昭、眞岡孝至、松田久司、森川 敏生 : ヒュウガトウキ含有ケラクトン型クマリンの抗アレルギー作用および定量分析
第 41 回和漢医薬学会学術大会 (千葉)、2024 年 8 月 24-25 日
(国内・口頭)
14. 山田遥己、萬瀬貴昭、山田さくら、加藤里佳子、隅田昂太、坂本裕介、森川敏生 : 延命草由来 Enmein の抗炎症作用における HSP90 を標的分子とした作用機序の解明
第 41 回和漢医薬学会学術大会 (千葉)、2024 年 8 月 24-25 日
(国内・ポスター)
15. 西川勝悟、森川敏生、萬瀬貴昭、楡 光世、永淵真比呂、中村萌笑、高田隆矢 : 苦参 (*Sophora flavescens* Aiton, 根) に含有されるプレニルフラボノイドの抗アレルギー作用
第 41 回和漢医薬学会学術大会 (千葉)、2024 年 8 月 24-25 日
(国内・ポスター)
16. 森川敏生、貝沼茂三郎、山田麻未、高山 真 : TKM 編集委員会企画 Traditional & Kampo Medicine ~学会誌発展に向けた情報共有とお願い~
第 41 回和漢医薬学会学術大会 (千葉)、2024 年 8 月 24-25 日
(国内・口頭)
17. 下田博司、米田朱里、竹田翔伍、石川寿樹、萬瀬貴昭、森川敏生 : 麹菌発酵米糠中に含有されるセラミド類の化学構造と生理活性
日本食品化学工学会第 71 回大会 (名古屋)、2024 年 8 月 29-31 日
(国内・口頭)
18. 萬瀬貴昭、長友暁史、山田玲実、渡邊秀太、森川敏生 : アンディローバ由来 gedunin 型リモノイドのメラニン産生抑制作用およびその作用機序解析
第 66 回天然有機化合物討論会 (京都)、2024 年 9 月 4-6 日
(国内・ポスター)
19. 西川勝悟、萬瀬貴昭、楡 光世、永淵真比呂、中村萌笑、高田隆矢、森川敏生 : クジン (*Sophora flavescens* Aiton, 根) 由来プレニルフラボノイドの抗アレルギー作用
日本生薬学会第 70 回年会 (大阪)、2024 年 9 月 15-16 日
(国内・口頭)

20. 尾田好美、田中舞子、諸頭佑香、森田萌子、細木るみこ、松田久司、森川敏生、中川綾子、上野雄太郎、中嶋聡一：ヘアケア天然原料等の品質規格策定のための基礎研究その1—指甲花（ヘナ、ヘナ）葉部の抗マラセチア菌作用について—
日本生薬学会第 70 回年会（大阪）、2024 年 9 月 15-16 日
（国内・ポスター）
21. 島田紘明、萬瀬貴昭、森川敏生、上野省一、岩城正宏：タラヨウ葉抽出エキスによる食後血糖上昇抑制作用
日本生薬学会第 70 回年会（大阪）、2024 年 9 月 15-16 日
（国内・ポスター）
22. 高田隆矢、大津行延、坂本裕介、武田匠平、萬瀬貴昭、眞岡孝至、松田久司、森川敏生：ヒュウガトウキ (*Angelica furcijuga* Kitagawa) に含有される抗アレルギー作用成分の定量分析
日本生薬学会第 70 回年会（大阪）、2024 年 9 月 15-16 日
（国内・ポスター）
23. 鈴木璃子、高島克輝、石川文洋、森川敏生、田邊元三：強力な HFDPC 増殖作用を有するエビネ由来の新規 *S,O*-配糖体, Calanthoside の簡便供給法の確立とその構造活性相関
日本生薬学会第 70 回年会（大阪）、2024 年 9 月 15-16 日
（国内・ポスター）
24. 米田朱里、竹田翔伍、下田博司、萬瀬貴昭、森川敏生：マウンテンキャビア由来新規アシル化フラボノイド配糖体の化学構造および DPP-IV 阻害活性
日本生薬学会第 70 回年会（大阪）、2024 年 9 月 15-16 日
（国内・ポスター）
25. 浦 明里、萬瀬貴昭、Raouf Fard Fatemeh、関戸楓夏、中井夏花、村岡 修、森川敏生：イラン天然薬物 *Ferula ammoniacum* のメラニン産生抑制活性成分
日本生薬学会第 70 回年会（大阪）、2024 年 9 月 15-16 日
（国内・ポスター）
26. 眞岡孝至、森川敏生：シンポジウム 3 「カロテノイド」その天然色素の役割
日本生薬学会第 70 回年会（大阪）、2024 年 9 月 15-16 日
（国内・口頭）
27. 宮坂賢知、竹田翔伍、萬瀬貴昭、森川敏生、下田博司：米由来グルコシルセラミドの自然免疫応答における構造活性相関とその作用機序
第 17 回セラミド研究会学術集会（千葉）、2024 年 9 月 19-20 日
（国内・口頭）
28. 濱福幸奈、木野村菜々美、宮坂賢知、下田博司、森川敏生、石塚茂宜、山崎 晶、五十嵐靖之、光武 進：米由来グルコシルセラミド d18:2 (4t, 8c), t18:1 (8c) は自然免疫受容体 Mincle を活性化させる
第 17 回セラミド研究会学術集会（千葉）、2024 年 9 月 19-20 日
（国内・口頭）
29. 濱福幸奈、木野村菜々美、宮坂賢知、下田博司、森川敏生、石塚茂宜、山崎 晶、五十嵐靖之、光武 進：自然免疫受容体 Mincle による米由来グルコシルセラミドの認識の違い
第 46 回 蛋白質と酵素の構造と機能に関する 九州シンポジウム（福岡）、2024 年 9 月 27-29 日
（国内・ポスター）
30. 西川勝悟、萬瀬貴昭、下元優典、鷺野万結、森下沙羅、森川敏生：レンギョウ (*Forsythia suspensa* Vahl, 果実) の β -グルクロニダーゼ阻害活性成分
第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会（武庫川）、2024 年 10 月 5 日
（国内・口頭）
31. 鈴木璃子、高島克輝、石川文洋、森川敏生、田邊元三：HFDP 細胞増殖作用を有するエビネ由来天然物, Calanthoside の全合成とその構造活性相関研究
第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会（武庫川）、2024 年 10 月 5 日
（国内・ポスター）

32. 中村萌笑、西川勝悟、萬瀬貴昭、高田隆矢、永淵真比呂、楡 光世、森川敏生：クジン (*Sophora flavescens* Aiton, 根) の抗アレルギー作用成分
第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 (武庫川)、2024 年 10 月 5 日
(国内・ポスター)
33. 永淵真比呂、萬瀬貴昭、西川勝悟、高田隆矢、大津行延、松田久司、森川敏生：フラボノイドの抗 I 型アレルギー作用
第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 (武庫川)、2024 年 10 月 5 日
(国内・ポスター)
34. 萬瀬貴昭、長友暁史、山田玲実、渡邊秀太、森川敏生：南米薬用植物 Andiroba (*Carapa guianensis*) 由来 gedunin 型リモノイドのメラニン産生抑制作用および作用機序解析
第 10 回食品薬学シンポジウム (大阪)、2024 年 10 月 12-13 日
(国内・ポスター)
35. 下田博司、萬瀬貴昭、竹田翔伍、宮坂賢知、米田朱里、森川敏生：米油副産物「ガム質」に含まれるスフィンゴ脂質および糖脂質成分
第 10 回食品薬学シンポジウム (大阪)、2024 年 10 月 12-13 日
(国内・ポスター)
36. 西川勝悟、萬瀬貴昭、羅 鳳琳、加藤和寛、岡崎 茜、岡田 (西田) 枝里子、柳田満廣、中村 翔、森川敏生：延命草由来 enmein のヒト毛乳頭細胞 (HFDPC) 増殖促進活性における作用機序の解明
第 10 回食品薬学シンポジウム (大阪)、2024 年 10 月 12-13 日
(国内・ポスター)
37. 森川敏生、高田隆矢、大津行延、坂本裕介、武田匠平、萬瀬貴昭、眞岡孝至、松田久司：山人参 (*Angelica furcijuga* Kitagawa) に含まれる抗アレルギー作用成分の定量分析
第 68 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会 (長野)、2024 年 10 月 26-28 日
(国内・口頭)
38. 西川勝悟、萬瀬貴昭、中村萌笑、永淵真比呂、楡 光世、高田隆矢、森川敏生：クララ (*Sophora flavescens* Aiton) 根部に含有されるプレニルフラボノイドの抗アレルギー作用
第 68 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会 (長野)、2024 年 10 月 26-28 日
(国内・口頭)
39. 上林将人、中西郁夫、松田久司、萬瀬貴昭、森川敏生：Ca 拮抗薬開発における日本の貢献と REDOX からみた新展開
日本薬史学会 2024 年会 (東京)、2024 年 11 月 2 日
(国内・ポスター)
40. 濱福幸奈、木野村菜々美、宮坂賢知、下田博司、森川敏生、石塚茂宜、山崎 晶、五十嵐靖之、光武 進：米由来グルコシルセラミド分子種が自然免疫受容体 Mincle の活性化に与える影響
第 97 回日本生化学会大会 (横浜)、2024 年 11 月 6-8 日
(国内・口頭)
41. 萬瀬貴昭、羅 鳳琳、加藤和寛、岡崎 茜、岡田 (西田) 枝理子、柳田満廣、中村 翔、森川敏生：延命草由来 ent-kaurane 型ジテルペノイドの毛乳頭細胞増殖促進作用およびその標的分子の解析
第 1 回日本ヘアケア天然素材シンポジウム (Web)、2024 年 11 月 16 日
(国内・口頭)
42. 高島克輝、鈴木璃子、増田七海、丸本真輔、石川文洋、萬瀬貴昭、森川敏生、田邊元三：メラニン産生抑制活性を有するタイ天然薬物 "*Melodorum*" 由来ブテノリド類の網羅的合成と構造活性相関研究
第 41 回メディシナルケミストリーシンポジウム (京都)、2024 年 11 月 20-22 日
(国内・ポスター)
43. 鈴木璃子、高島克輝、西川陽斗、石川文洋、萬瀬貴昭、森川敏生、田邊元三：毛乳糖細胞増殖作用を有するエビネ成分 Calanthoside の合成とその構造活性相関研究
第 41 回メディシナルケミストリーシンポジウム (京都)、2024 年 11 月 20-22 日
(国内・ポスター)

44. 西川勝悟、萬瀬貴昭、下元優典、森下沙羅、鷺野万結、森川敏生：レンギョウ (*Forsythia suspensa* Vahl, 果実) の新規ジテルペノイド成分および β -グルクロニダーゼ阻害活性成分
日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 26-29 日
(国内・口頭)
45. 高田隆矢、萬瀬貴昭、徐 尹、矢賀理瑚、藤原敬介、森川敏生：セネガ (*Senegae Radix*) の新規アシル化オリゴ糖およびトリテルペンサポニンの化学構造
日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 26-29 日
(国内・ポスター)
46. 萬瀬貴昭、高田隆矢、新田弥加、下川咲良、Chaipech Sawanee、Pongpiriyadacha Yutana、森川敏生：タイ天然薬物 *Mimusops elengi* Linné 由来新規ビスデスモシドサポニン成分の化学構造
日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 26-29 日
(国内・口頭)
47. 藤野直也、佐々木将太郎、熊内雅人、藤本祉史、福田陽一、森川敏生、赤井周司：ヒロハセネガの水耕栽培における収穫最適時期の判定法の開発
日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 26-29 日
(国内・ポスター)
48. 吉川真以、高田隆矢、大津行延、萬瀬貴昭、眞岡孝至、松田久司、森川敏生：ツバキ種子に含まれる中性脂肪吸収抑制作用を示すアシル化トリテルペンサポニンの定量分析
日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 26-29 日
(国内・ポスター)
49. 宮坂賢知、光武 進、森川敏生、五十嵐靖之、下田博司：米由来グルコシルセラミドのマウス腹腔好中球における自然免疫賦活作用
日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 26-29 日
(国内・ポスター)
50. 山田玲実、萬瀬貴昭、成岡慶哉、長友暁史、渡邊秀太、森川敏生：Gedunin 型リモノイドの HSF-1 経路活性化を介したメラニン産生抑制活性
日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 26-29 日
(国内・ポスター)
51. 鈴木璃子、高島克輝、西川陽斗、丸本真輔、石川文洋、萬瀬貴昭、森川敏生、田邊元三：強力な HFDPC 増殖作用を持つ植物性天然物 Calanthoside 誘導体の合成と構造活性相関研究
日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 26-29 日
(国内・ポスター)
52. 高島克輝、前川莉穂、寺田実央、栗原郁帆、石川文洋、丸本真輔、森川敏生、田邊元三：天然薬物 *Mammea siamensis* 由来ゲラニルクマリン Mammeasin A の全合成研究
日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 26-29 日
(国内・ポスター)
53. 久保田高明、荒井雅吉、森川敏生：モノトリサイエンス アップトゥデート (日本薬学会、日本生薬学会 共催)
日本薬学会第 145 年会 (福岡)、2025 年 3 月 26-29 日
(国内・口頭)

[研究報告書]

1. 森川敏生(代表)：伝統・伝承薬物資源からの内臓脂肪蓄積低減物質の探索とその科学的評価
2024年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C) 実績報告書
2. 森川敏生(代表)：伝統・伝承薬物資源からの内臓脂肪蓄積低減物質の探索とその科学的評価
2022-2024年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究成果報告書
3. 松田久司(代表)、森川敏生(分担)：メタボリックシンドロームに有用な総エネルギー消費促進素材の探索
2024年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C) 実績報告書

4. 二宮清文(代表)、森川敏生(分担)：薬用食品からインスリン様糖消費亢進作用を機序とする新規抗糖尿病作用成分の探索
2024 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C) 実績報告書

5. 森川敏生(分担)：小免疫強化作用を訴求した 3 種の機能性米セラミド食品原料の研究開発および事業化
令和 6 年度 成長型中小企業等研究開発支援事業 (Go-Tech) 研究開発成果報告書

6. 森川敏生(分担)：フェムケア果実ストロベリーグアバを利用したアクティブシニア向けアンチエイジング育毛食品原料の研究開発
2024 年度 新あいち創造研究開発補助金(研究開発(一般型)・実証実験) 成果報告書

[外部助成]

1. 森川敏生(代表)：伝統・伝承薬物資源からの内臓脂肪蓄積低減物質の探索とその科学的評価
2022-2024 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)

2. 松田久司(代表)、森川敏生(分担)：メタボリックシンドロームに有用な総エネルギー消費促進素材の探索
2023-2025 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)

3. 二宮清文(代表)、森川敏生(分担)：薬用食品からインスリン様糖消費亢進作用を機序とする新規抗糖尿病作用成分の探索
2024-2027 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)

4. 森川敏生(分担)：免疫強化作用を訴求した 3 種の機能性コメセラミド食品原料の研究開発および事業化
令和5-7年度 成長型中小企業研究開発支援事業 (Go-Tech事業)

5. 森川敏生(分担)：フェムケア果実ストロベリーグアバを利用したアクティブシニア向けアンチエイジング育毛食品原料の研究開発
2024 年度 新あいち創造研究開発補助金(研究開発(一般型)・実証実験)

[特許]

1. 西田升三、椿 正寛、武田朋也、田邊元三、森川敏生：自己免疫疾患の改善用組成物
特開 2 0 2 4 - 5 1 0 6 8、学校法人近畿大学
(2024 年 4 月 10 日 公開)

2. 西田升三、椿 正寛、武田朋也、田邊元三、森川敏生：自己免疫疾患の改善用組成物
特許第 7 4 7 9 6 9 5 号、学校法人近畿大学
(2024 年 4 月 26 日)

3. 西田升三、椿 正寛、武田朋也、田邊元三、森川敏生：悪性腫瘍疾患の改善組成物
特許第 7 5 4 9 3 4 5 号、学校法人近畿大学
(2024 年 9 月 3 日)

4. 森川敏生：ミョウガの葉部を用いた中性脂質吸収抑制剤
特開 2 0 2 4 - 1 7 5 6 7 7、株式会社サンライト・リング・プレス、学校法人近畿大学
(2024 年 12 月 18 日 公開)

5. 森川敏生、萬瀬貴昭、竹田翔伍、宮坂賢知、下田博司、村井弘道：新規化合物及びその用途
特開 2 0 2 5 - 4 1 3 3 8、オリザ油化株式会社、学校法人近畿大学
(2025 年 3 月 26 日 公開)

6. 森川敏生、下田博司、米田朱里、村井弘道：血小板凝集抑制剤
特開 2 0 2 5 - 4 1 4 5 0、オリザ油化株式会社、学校法人近畿大学
(2025 年 3 月 26 日 公開)

7. 森川敏生、竹田翔伍、米田朱里、下田博司、村井弘道：経皮水分蒸散量低下剤
特開 2 0 2 5 - 4 2 1 9 0、オリザ油化株式会社、学校法人近畿大学
(2025 年 3 月 27 日 公開)

[報償等]

1. Morikawa T, *et al.* : Journal of Natural Medicines Award 2024 受賞

2. 萬瀬貴昭：第 49 回日本香粧品学会会頭賞受賞
第 49 回日本香粧品学会（東京）、2024 年 6 月 28-29 日
3. 宮坂賢知：セラミド研究会 2024 年度 Young Investigator Award 受賞
第 17 回セラミド研究会学術集会（千葉）、2024 年 9 月 19-20 日
4. 西川勝悟：第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会優秀口頭発表賞受賞
第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会（武庫川）、2024 年 10 月 5 日
5. 鈴木璃子：第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会優秀ポスター発表賞受賞
第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会（武庫川）、2024 年 10 月 5 日
6. 西川勝悟：第 68 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会ベストプレゼンテーション賞受賞
第 68 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会（長野）、2024 年 10 月 26-28 日
7. 山田玲実：日本薬学会第 145 年会学生優秀発表賞受賞
日本薬学会第 145 年会（福岡）、2025 年 3 月 26-29 日
8. 鈴木璃子：日本薬学会第 145 年会学生優秀発表賞受賞
日本薬学会第 145 年会（福岡）、2025 年 3 月 26-29 日

[教育・社会活動]

1. 森川敏生：[学会開催] 日本生薬学会第 70 回年会（大阪）
（近畿大学東大阪キャンパス）、2024 年 9 月 15-16 日
2. 森川敏生：[学会開催] 第 3 回天然香気研究会講演会（京都）
（京都大学国際科学イノベーション棟）、2025 年 2 月 27 日
3. 森川敏生：[講演] 人生 100 年時代 健康に働ける体作り～予防医療におけるアンチエイジングを学ぶ～
令和 6 年度「環山楼塾OB研究会」第 1 回例会（八尾商工会議所大ホール 2）、2024 年 5 月 21 日
4. 森川敏生：[ミニ講義] モノトリ研究による天然資源からの医薬候補物質の発見
近畿大学オープンキャンパス 2024（東大阪キャンパス）、2024 年 7 月 28 日
5. 森川敏生：[講演] 人生 100 年時代 健康に働けるカラダづくり
クボタ久宝寺協力会年頭会（ホテルモントレグラスミア大阪グリニッジホール）、2025 年 2 月 14 日
6. 森川敏生：アンエイジングセンター センター長
2023 年 4 月～
7. 森川敏生：アンエイジングセンター 所員
2007 年 6 月～
8. 森川敏生：近畿大学大学院実学起業イノベーション学位プログラム 担当教員
2024 年 4 月～
9. 森川敏生：神戸常盤大学 医療検査学科 非常勤講師「化学Ⅱ（有機化学）」
2022 年 4 月～
10. 森川敏生：大阪大学薬学部 非常勤講師、委託講師「漢方薬学」
2020 年 4 月～
11. 森川敏生：日本薬学会 代議員
2025 年 2 月～
12. 森川敏生：日本薬学会 生薬天然物部会 常任世話人
2024 年 4 月～

13. 森川敏生：日本生薬学会 代議員
2017年9月～
14. 森川敏生：日本生薬学会 学会誌編集委員
2014年4月～
15. 森川敏生：日本生薬学会 学会誌副編集委員長
2022年4月～
16. 森川敏生：京都漢方研究会 理事
2014年4月～
17. 森川敏生：和漢医薬学会 理事
2020年9月～2024年8月
18. 森川敏生：和漢医薬学会 評議員・代議員
2014年9月～
19. 森川敏生：和漢医薬学会 代議選挙 選挙管理委員長
2024年9月～2025年8月
20. 森川敏生：天然香気研究会 役員（監事）
2023年4月～
21. 森川敏生：日本抗加齢医学会 評議員
2023年6月～
22. 森川敏生：日本薬系学会連合 総務委員会委員
2023年7月～
23. Morikawa T: Editorial Board Member of *Traditional & Kampo Medicine* (Wiley) Editor-in-Chief (Basic Research)
2020年9月～2024年8月
24. Morikawa T: Editorial Board Member of *Traditional & Kampo Medicine* (Wiley) Associate Editor (Basic Research)
2017年9月～2024年8月
25. 森川敏生：日本食品化学学会 評議員
2025年1月～
26. 森川敏生：日本食品化学学会 編集委員
2016年1月～
27. Morikawa T: Editorial Board Member of *Molecules* (MDPI)
2019年7月～
28. Morikawa T: Editorial Board Member of *Acupuncture and Herbal Medicine* (Wolters Kluwer)
2021年9月～
29. Morikawa T: Associate Editor for Organic Chemistry of *Frontiers in Chemistry* (Frontiers)
2022年10月～
30. Morikawa T: [Topics] Topic Editor “Purification of Plant Extracts”
2023年5月～2024年6月
31. 森川敏生：日本ヘアケア天然素材研究協会 理事（学術担当理事）
2024年11月～
32. 森川敏生：生薬品質集談会 会員
2019年1月～

33. 森川敏生：大阪国際サイエンスクラブ 学識会員
2023 年 4 月～
34. 森川敏生：NPO 法人 発達はじめの一步 理事
2020 年 2 月～
35. 森川敏生：日本生薬学会第 70 回年会 年会会長，実行委員会 委員長
2023 年 12 月～2024 年 11 月
36. 森川敏生：第 8 回京都生体質量分析研究会国際シンポジウム (8th KBMSS) 大会副実行委員長
2024 年 3 月～2025 年 2 月
37. 森川敏生：第 3 回天然香気研究会講演会 実行委員長
2024 年 3 月～2025 年 2 月
38. 森川敏生：第 42 回和漢医薬学会学術大会 実行委員長
2025 年 1 月～2025 年 12 月
39. 森川敏生：独立行政法人日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員
2022 年 11 月～2026 年 10 月
40. 森川敏生：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター オープンイノベーション研究・実用化推進事業 評議委員
2023 年 3 月～2025 年 3 月

職・氏名・学位

准教授・森山 博由・博士(理学) 担当科目：基礎ゼミ(1)、生物学演習(創1 併担)、基礎生物学英語(創2 集中)、薬学専門英語(創3 分担)、免疫検査学実習(創3)
Hiroyuki Moriyama

所属学会：国際幹細胞学会 (ISSCR)、国際脂肪組織治療科学会 (IFATS)、日本再生医療学会、日本分子生物学会、日本皮膚科学会、日本形成外科学会、日本研究皮膚科学会、細胞再生医療学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 脂肪組織における真の間葉系間質幹細胞の同定
2. 皮膚臓器に存在する未同定の幹細胞群の探索
3. 幹細胞を用いた細胞・臓器再生を介する再生医療への橋渡し研究
4. 幹細胞の維持・多分化能のメカニズムの解明とその可塑性の研究
5. 皮膚組織の恒常性維持機構の解明と皮下組織を含む皮膚組織構の人工構築
6. 毛髪のヘアサイクル制御メカニズムの新展開
7. 新規育毛作用物質の開発とマルチプレックス作用機序の解明
8. 機能性香粧品およびスキンケア用品の開発と美容医療基盤技術の開発
9. 悪性黒色腫の発症メカニズムの解明と新規増悪抑制法の開発
10. ヒト幹細胞の造腫瘍性における病態解明とその克服に関する研究
11. 再生医療に資する幹細胞を用いた製品開発等のレギュラトリーサイエンス
12. 再生医療実用化加速のための幹細胞等由来製品評価に最低限必須・共通の技術要件・基準に関する研究

研究業績

[原著論文]

1. Moriyama M (co-corresponding author), Mori R, Hayakawa T, Moriyama H (co-corresponding author) : FoxO3a Plays a Role in Wound Healing by Regulating Fibroblast Mitochondrial Dynamics.
J. Investig. Dermatol. **145**(6) 1489-1501, 2025 年 11 月
2. Moriyama M, Miyake Y, Okumura N, Moriyama H (co-corresponding author) : Royal jelly maintains epidermal stem cell properties by repressing senescence.
Biol. Pharm. Bull. **47**(12) 2041-2049, 2025 年 12 月
3. Moriyama H : An application of a three-dimensional cultured human skin model using the collagen vitrigel film for skin whitening research.
BIOINDUSTRY. **(5)** 35-44, 2024 年 5 月

[総説]

1. Moriyama H : Cautionary Note on the Development of Human 3D Skin Models Applied to the Safety Evaluation.
COSMETIC STAGE. March, p12~18, 2024 年 6 月

[その他の刊行物]

1. 森山 博由 (責任著者) : アロエベラの科学「特集：アロエベラ効果の最前線」
日本アロエ協会映像配信会誌【科学映像配信】2024 年 7 月 12 日
2. 森山麻里子, 森山博由 (責任著者) : 特集_最新の研究で判明！ シミも白髪も消せる時代はすぐそこに～奇跡の現象を謎解くリアル「神ワザ科学-サイエンス-」Renew トピック：皮膚を健全に保つ仕組み発見と応用。
雑誌『からだにいいこと』12月号, p35~36. 2024 年 12 月 1 日

3. オートファジー研究会, 研究皮膚科学会会報誌、学会や研究会の総会レジメ寄稿等他 (12 報)

[学会・シンポジウム]

1. Hiroyuki Moriyama : Skin Homeostasis (口頭発表)
Harvard medical school at Cutaneous Biological Research Center Congress meeting (Summer). Plenary Lecture (web 講演). 2024 年 7 月 21 日.
2. 岡本秀人, 伊藤隆志, 中川友希江, 奥村暢章, 森山麻里子, 森山博由 : ローヤルゼリーによる表皮幹細胞を介した肌機能への有効性 (口頭発表)
美容皮膚科学会 (名古屋国際会議場). 2024 年 8 月 31 日
3. Moriyama Mariko, Wakatake Mana, Miyake Yuko, Moriyama Hiroyuki : FoxO3a-regulating mitochondrial dynamics affects wound healing through regulating fibroblast migration (口頭発表)
The European Society for Dermatological Research (ESDR), Meeting 2024. 2024 年 9 月 5 日
4. Moriyama Mariko, Wakatake Mana, Miyake Yuko, Moriyama Hiroyuki : FoxO3a-regulating mitochondrial dynamics affects wound healing through regulating fibroblast migration (ポスター発表)
The European Society for Dermatological Research (ESDR), Meeting 2024 , 2024 年 9 月 6 日.
5. Moriyama Hiroyuki, Moriyama Mariko : FoxO3a-regulating mitochondrial dynamics affects wound healing through regulating fibroblast migration (口頭発表)
Stem Cells and Regenerative Medicine – From Concepts to Clinic (SCRM-2024), 2024 年 10 月 8 日
6. 稲村早紀, 森山麻里子, 三宅佑有子, 下地風香, 田村侑希, 古田梨紗, 角野麻友, 森山博由 : FoxO3a はミトコンドリアダイナミクスを制御することで皮膚の恒常性維持に寄与する (ポスター発表)
第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 (武庫川女子大学) 2024 年 10 月 15 日
7. 下地風香, 森山麻里子, 三宅佑有子, 稲村早紀, 田村侑希, 古田梨紗, 角野麻友, 森山博由 : 表皮に発現する Hes1 は過剰な免疫応答を制御する (ポスター発表)
第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 (武庫川女子大学) 2024 年 10 月 15 日
8. 角野麻友, 森山麻里子, 三宅佑有子, 稲村早紀, 田村侑希, 古田梨紗, 下地風香, 森山博由 : 表皮に発現する FoxO3a は創傷治癒時の整容性に寄与する (ポスター発表)
第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 (武庫川女子大学) 2024 年 10 月 15 日
9. 古田梨紗, 角野麻友, 森山麻里子, 久保嘉一, 三宅佑有子, 稲村早紀, 田村侑希, 下地風香, 森山博由. セージエキスおよびビタミン C 誘導体はケラチノサイトからの GM-CSF を制御することでメラニン産生を減少させる. (ポスター発表)
第 74 回日本薬学会関西支部総会・大会 (武庫川女子大学) 2024 年 10 月 15 日
10. Hirokazu Kubo, Mariko Moriyama, Saya Goto, Yuko Miyake, Yuki Ozeki, Yukio Nakamura, Hiroyuki Moriyama. : Sage extract and an ascorbic acid derivative inhibit melanogenesis via negatively regulating keratinocyte-derived granulocyte-macrophage colony-stimulating factor (口頭発表)
IFSCC Congress 2024, Iguazu Falls, Brazil, 2024 年 10 月 15 日
11. 森山博由 : 皮膚を識る ～皮膚臓器を統べる恒常性の探求～ (口頭発表: 教育講演)
第 1 回日本ヘアケア天然素材シンポジウム(web 開催) 2024 年 11 月 16 日
12. 森山博由, 森山麻里子 : 皮膚の恒常性とオートファジー (口頭発表: 教育講演)
1st オートファジーと健康・寿命コンソーシアム記念会議 (UHA 味覚糖アドバイザリボード), UHA 味覚糖大講堂. 2024 年 12 月 3 日
13. 森山博由 : 再生医療推進に資する幹細胞の製作に関する留意点 (口頭発表: 教育講演)
第 4 回健康長寿再生医療委員会教育研修会, 日本エアフォーター未来館 (神戸) 2024 年 12 月 5 日
14. 森山麻里子 : 皮膚の堅牢性とオートファジー (口頭発表)
日本研究皮膚科学会 第 49 回年次学術大会・総会 (49th JSID) 2024 年 12 月 6 日
15. 朝田早紀, 森山麻里子, 緒方来実, 後藤 彩文, 萬 未帆, 三宅佑有子, 森山博由 : FoxO3a は創傷治癒時の整

容性に寄与する. FoxO3a regulates a fine cosmeticity (healthy skin repair) during wound healing (ポスター発表)
第 47 回日本分子生物学会年会、2024 年 12 月 6 日

16. 緒方来実, 森山麻里子, 朝田早紀, 後藤彩文, 萬 未帆, 三宅佑有子, 森山 博由: FoxO3a はミトコンドリアダイナミクスを制御することで皮膚の恒常性維持に寄与する. FoxO3a contributes to maintain skin homeostasis by regulating mitochondrial dynamic (ポスター発表)

第 47 回日本分子生物学会年会、2024 年 12 月 6 日

17. 森山博由: 皮膚を識る ～皮膚臓器を統べる恒常性の探求～. (口頭発表: 学術基調講演)
ピアス株式会社 皮膚科学シンポジウム 2024 年 12 月 13 日

18. 森山博由: 皮膚が司るヒト恒常性の創護を解明. Elucidating the skin's role in creating and protecting human homeostasis (教育講演)

関西 5 私大合同リトリート, 近畿大学 7 号館 (大阪) 2025 年 3 月 15 日

19. 朝田早紀, 森山麻里子, 緒方来実, 後藤彩文, 萬 未帆, 三宅佑有子, 森山 博由: FoxO3a はミトコンドリアダイナミクスを制御することで皮膚の恒常性維持に寄与する. FoxO3a contributes to maintain skin homeostasis by regulating mitochondrial dynamic (口頭発表)

関西 5 私大合同リトリート, 近畿大学 7 号館 (大阪) 2025 年 3 月 15 日

20. 緒方来実, 森山麻里子, 朝田早紀, 後藤彩文, 萬 未帆, 三宅佑有子, 森山 博由: FoxO3a はミトコンドリアダイナミクスを制御することで皮膚の恒常性維持に寄与する. FoxO3a contributes to maintain skin homeostasis by regulating mitochondrial dynamic (口頭発表)

関西 5 私大合同リトリート, 近畿大学 7 号館 (大阪) 2025 年 3 月 15 日

21. 緒方来実, 森山麻里子, 朝田早紀, 後藤彩文, 萬 未帆, 三宅佑有子, 森山 博由: FoxO3a はミトコンドリアダイナミクスを制御することで皮膚の恒常性維持に寄与する. FoxO3a contributes to maintain skin homeostasis by regulating mitochondrial dynamic. (ポスター発表)

24th 日本再生医療学会総会 (横浜) . 2025 年 3 月 22 日

[研究報告書]

1. 森山博由(代表): 再生医療に資する質と量を担保できる真のヒト脂肪由来幹細胞の探求
科学研究費助成事業 基盤研究 C
2. 森山博由(分担): ヒト iPS 細胞等由来分化細胞の臨床応用に資するレシピエントの免疫状態の影響評価
AMED 委託研究費 再生医療実用化研究事業
3. 森山博由(分担): 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に対する予後と統計
AMED 委託研究費 新型コロナウイルス感染症探索型 (検証) 研究事業
4. 森山博由(分担): 医薬品等審査迅速化事業費補助金 (革新的医療機器等国際標準獲得推進事業: 大阪大学医学部/同大学院主管校 (特別分担研究: 外部参加機関 [脂肪由来間葉系幹細胞班・近畿大学薬学総合研究所先端バイオ医薬研究室])
AMED 委託研究費 再生医療実用化研究事業
5. 森山博由(協力分担): その他 AMED 受託研究等協力研究機関 (分担・協力研究フォーム) 報告書: 5 件

[外部助成]

1. 森山博由(代表): 再生医療に資する質と量を担保できる真のヒト脂肪由来幹細胞の探求
令和 6 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
2. 森山博由(分担): Notch シグナルによるオートファジーとストレス応答機能の役割解明
令和 6 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
3. 森山博由(代表): (研究テーマ概要) ヒト表皮構造および恒常性等に関する研究、他 3 課題 [4 件]
国内化粧品企業 受託研究費及び寄付研究費
4. 森山博由(代表): (研究テーマ概要) 皮膚保湿維持効果に関する生薬由来抽出物等の in vitro ヒト皮膚評価と

機能解析に関する研究、他 3 課題 [4 件]

海外化粧品企業 受託研究費及び寄付研究費

5. 森山博由(代表): (研究テーマ概要) ヒト皮膚の恒常性維持等に関する根本的基礎研究～臨床橋渡し研究～・他 1 課題 [2 件]
海外製薬企業 受託研究費及び寄付研究費
6. 森山博由(代表): (研究テーマ概要) 再生医療用の新規バイオマテリアルや化学素材の開発[5 件]
工業系企業 受託研究費及び寄付研究費
7. 森山博由(代表): (研究テーマ概要) 再生医療 (臨床) 再生医療 (臨床) 用の間葉系幹細胞作製・保管技術の開発
ケミカル系企業 受託研究費及び寄付研究費
8. 森山博由(代表): (研究テーマ概要) 間葉系幹細胞を用いた急性期もしくは慢性期神経系疾患における新規再生医療法の開発
神戸市および医薬ベンチャー系企業 受託 (共同) 研究費
9. 森山博由(代表): (研究テーマ概要) 次世代化粧品性医薬品開発に係る課題 (名称非公開)
外資系製薬企業・米国大学-コンソーシアム 委託国際研究支援費
10. 森山博由(分担): (研究テーマ概要) パンデミック感染症対策に係る課題 (名称非公開)
革新的幹細胞基礎研究支援事業 (国際コンソーシアム): 招聘国際研究グラント
11. 森山博由(分担): (研究テーマ概要) コロナウイルス: ワクチン開発支援 (Dry 研究) 国際支援事業: 継続課題
(本年度より) 内閣府直轄事業研究費 (前臨床研究: 感染対策班: 研究代表一括)
12. 森山博由(分担): (研究テーマ概要) 脂肪由来間葉系間質/幹細胞とマラリア治療のさきがけ; 国際支援事業
日本-タイ国 ODA 支援研究費 (班研究: 研究代表一括)
13. 森山博由(分担): (研究テーマ概要) アジア-アフリカ水資源枯渇に係る未来予想; 国際支援事業 (AI 開発)
Asia-Africa OECD 事業 (班研究: 研究代表一括)
14. 森山博由(分担): (研究テーマ概要) アジア-アフリカ感染症パンデミック予想支援事業 (AI 応用研究開発)
Asia-Africa OECD 事業 (班研究: 研究代表一括)

[教育・社会活動]

1. Hiroyuki Moriyama : Skin Homeostasis 【教育講演】
Harvard medical school at Cutaneous Biological Research Center Congress meeting (Summer). Plenary Lecture (web 配信) 2024 年 7 月 21 日
2. 森山博由 : 皮膚を識る ～皮膚臓器を統べる恒常性の探求～【基調講演】
第 1 回日本へアケア天然素材シンポジウム (web 開催), 2024 年 11 月 16 日
3. 森山博由 : 再生医療推進に資する幹細胞の製作に関する留意点. 【基調講演】
第 4 回健康長寿再生医療委員会教育研修会. 日本エアフォーター未来館. 神戸、2024 年 12 月 5 日
4. 森山博由: 皮膚を識る ～皮膚臓器を統べる恒常性の探求～. 【教育講演】
ピアス社皮膚科学シンポジウム. 神戸、2024 年 12 月 13 日
5. 森山博由 : 皮膚が司るヒト恒常性の創護を解明. Elucidating the skin's role in creating and protecting human homeostasis. 【招聘講演】
8th 関西 5 私大合同リトリート. 大阪 (近畿大学)、2025 年 3 月 15 日
6. 森山博由、森山麻里子: 再生医療、大手企業的美容医療研究部門、ならびに化粧品や美容医療系企業 (含: ベンチャー企業) 等への研究開発・特許対策等の相談支援【相談件数の平均 3 件/月】
7. 森山博由: 産官学における間葉系幹細胞の培養技術の開発支援や技術指導【6 回/年】

8. 森山博由: 官における再生医療法案（草案）の草稿支援および新規パンデミック感染対策スキーム構築支援などの公的な活動支援【2回/月】
9. 森山博由: 再生医療や皮膚科学系の若手研究者の産学融合コンソーシアムによる研究教育支援のサポートなど【2回/年】

（講義・研究会講演等）

1. 今年度は研究室単位での小規模研究教育支援セミナー(web 開催)を3件開催した。その開催先の機関を以下に示す。神戸理化学研究所（理研 BDR）、東京医科歯科大学 医学研究科、釧路市立大学、甲南大学。

（会議・会合参加等）以下の（公職・学外役員等）の項に挙げる学外役職について、各々につき平均2回/年のペースにて諸会議および関連する招集会議に web 参加した。

（公職・学外役員等）

1. 森山博由: 大阪府バイオヘッドクウォーター 広報委員
2011年4月～
2. 森山博由: 生命機能研究会 組織運営委員
2012年4月～
3. 森山博由: Notch シグナル研究班 班員
2011年4月～
4. 森山博由: Frontiers Group [Nature Publishing Group] (Biological Science), Editorial board ASIA member
2013年8月～
5. 森山博由: 細胞再生医療研究会 組織運営委員
2014年4月～
6. 森山博由: 皮膚の会 執行委員
2016年11月～
7. 森山博由: 再生医療系ベンチャー企業 顧問
2018年4月～
8. 森山博由: 再生医療臨床診査議会 責任審査員
2019年10月～
9. 森山博由: ハーバード医科大学 皮膚科学研究所 客員教授
2020年9月～
10. 森山博由: スタンフォード大学 再生医学研究領域 在外研究主幹
2019年10月～
11. 森山博由: 健康長寿再生医療委員会 細胞加工領域主席審査委員
2021年4月～
12. 森山博由: 神戸理化学研究所 特任（所外共同研究）非常勤研究員
2010年4月～
13. 森山博由: A3PA 特定認定再生医療等委員会アジア・オセアニア抗衰老促進協会 細胞加工領域主席審査委員
2025年4月～

教養・基礎教育部門研究室

職・氏名・学位

教授・武富 利亜・博士(比較社会文化) 担当科目：英語演習 3 (創 2)、英語演習 4 (創 2)、英語演習 1 再履修 (1)、近大ゼミ (1)、国際化と異文化理解 (1 分担)、実践科学英語演習 (創 4 分担)
Taketomi Ria

所属学会：日本英語英文学会、日本比較文化学会、新英米文学会

准教授・ウィリアム・フィゴーニ・修士 (教育学) 担当科目：オーラルイングリッシュ 1 (1)、オーラルイングリッシュ 2 (1)、オーラルイングリッシュ 3 (2)、オーラルイングリッシュ 4 (2)、Global Soyaku (3 分担)、国際化と異文化理解 (1 分担)
William FIGONI

所属学会：全国語学教育学会、映画英語教育学会

准教授・田中 博晃・博士(教育学) 担当科目：英語演習 1 (創 1)、英語演習 2 (創 1)、英語演習 2 再 (創 1)、国際化と異文化理解 (1 分担)、近大ゼミ (1)、グローバル創薬科学 (創 4 分担)
Tanaka Hiroaki

所属学会：全国英語教育学会、外国語教育メディア学会、日本教育心理学会、日本発達心理学会、日本教科教育学会

現在行われている主な研究テーマ

1. 多角的視座による日本のジェンダー表象研究
2. カズオ・イシグロの作品を中心テーマに据えた英米日文学及び文化研究
3. 現代社会の女性が抱える問題と課題
4. Understanding international communication
5. Presentation skills and public speaking
6. 第 2 言語習得に関する研究
7. 学習意欲を高める方法に関する研究
8. 映像メディアの学習効果に関する研究

研究業績

[原著論文]

1. 武富利亜：幼少期のカズオ・イシグロと長崎——『泡に包まれた幼少期の記憶』についての考察
長崎文献社, pp.124-157, 2024 年 4 月
2. 田中博晃：外国語教育における motivational strategies の有効性の評価：国内外の研究成果の統合
近畿大学教養・外国語教育センター紀要（外国語編），15(1), pp.43-70, 2024 年 8 月
3. 田中博晃：ボトムアップアプローチによる motivational strategies の開発と効果検証
外国語教育メディア学会関西支部研究メソドロジー研究会報告論集，17，pp. 1-19. 2024 年 9 月
4. 田中博晃：アクティブラーニング型授業での学習者の内発的動機づけの様相
近畿大学教育論叢，6(1), pp. 1-18. 2024 年 9 月

[総説]

[著書]

1. 武富利亜編著：カズオ・イシグロを求めて

長崎文献社, 2024 年、4 月

2. 田中博晃・眞砂薫：Care for all 医療従事者のためのやさしい英語コミュニケーション

SEIBIDO, 2025 年 1 月

[その他の刊行物]

1. 武富利亜：「世界的文豪の解体書」「カズオ・イシグロを求めて」
2024 年 5 月 31 日 長崎新聞社
2. 武富利亜：ノーベル賞作家の原風景『カズオ・イシグロを求めて』
2024 年 6 月 下野新聞社
3. 武富利亜：各地の本『カズオ・イシグロを求めて』武富利亜編著ノーベル賞作家の原風景
2024 年 6 月中部経済新聞オンライン
4. 武富利亜：本の散歩道カズオ・イシグロを求めて
2024 年 6 月 15 日 信濃毎日新聞
5. 武富利亜：カズオ・イシグロを求めて』（武富利亜編著）
2024 年 6 月 16 日 山陰新聞
6. 武富利亜：各地の本『カズオ・イシグロを求めて』武富利亜編著
2024 年 6 月 16 日 下野新聞社
7. 武富利亜：ノーベル賞作家の原風景『カズオ・イシグロを求めて』武富利亜編著
2024 年 6 月 17 日 高知新聞
8. 武富利亜：生い立ちから作品分析
2024 年 6 月 23 日 秋田魁新報社学芸
9. 武富利亜：各地の本 カズオ・イシグロを求めて
2024 年 6 月 27 日 徳島新聞
10. 武富利亜：『カズオ・イシグロを求めて』武富利亜編著
2024 年 7 月おきなわタイムズ

[学会・シンポジウム]

1. Ria Taketomi：Exploring the Future of Humanity and AI Robots through Kazuo Ishiguro's Klara and the Sun, Sci Fi Films and Drama
Towards Digital Justice: transcultural perspectives on digital inequality (Oxford, England) June 7, 2024.
2. 武富 利亜：小説に描かれる人間とロボット——デボラ・インストールとカズオ・イシグロの小説からの考察」
日本比較文化学会全国大会（相山女学園大学於）、2024 年 5 月 18 日

[教育・社会活動]

1. 武富利亜：日本英語英文学会 東海支部
2024 年 4 月～現在

令和 7 年 9 月 10 日 発行

近畿大学薬学部活動報告集（令和 6 年度）

編集・発行

近畿大学薬学部 自己点検評価委員会・薬学部学生センター

